

【やわらかな笑顔のもとに地球は廻る】

登場人物

大家

小町

一青

信彦

源十郎

茜

力丸

陣兵

サラ（ユリア）

カイト

レオ

ノエル

マーサ

兵士AとE

【第1幕】

舞台背面・上手・下手と壁が出来ている。舞台上には何も無い。出入りの第一希望は背面と上手・下手の壁の付け根部分にスペースを開けて、そこから出入り。不可能な場合は上手・下手の壁を下げて、手前から出入り。

無音の中、幕が静かに上がる。明りは既についていて、3人の男が客席側を向いて並んでゐる。一青・信彦・源十郎である。3人、深いため息。

一青 どうしたんですか先生。

信彦 先生はやめてくれって。まだデビューもしてないんだからさ。

一青 でも出版社の担当がきちんとついてるんですから。

信彦 そうなんだよね。担当に申し訳なくってさ。

源十郎 で、どうしたんです？

信彦 またボツになった。

一青 おっと、またですか。

信彦 また。

源十郎 理由は？

信彦 いつもと同じ。話が飛び過ぎだって。

源十郎 話が飛び過ぎ・・・。

信彦 「何のジャンルのどんな話なんですか」って。担当者首ひねってた。

一青 まさか、この間読ませてもらったような作品書いたんじゃないでしょうね。

源十郎 先生の作品、読んだことあるんですか？

一青 はい。最初は結構まともな青春ものなんですけどね、恋愛を中心とした。でも途中から侍は出てくるは宇宙人は出てくるは、動物はしゃべりだすは、話が訳分からないう状態になってました。

信彦 書きたいことが多すぎるんだよね。

一青 だから一つ一つの作品に収めることないじゃないですか。前半の主人公、途中からいなくなつてラストの主人公、火星人と水星人のハーフで、土星に行つてアイドルを目指すつてどういう話ですか。

源十郎 斬新。

信彦 次から次へとアイデアが溢れてくるんだよね。

一青 ギャグ漫画ならまだ分かりますけど。

信彦 一青君!! 私はいたつて真剣に書いてるんだよ!!

一青 なおさら悪いですよ。

信彦 そういふ一青君は？

一青 え？

信彦 溜め息。ついてたろう？

一青 ああ・・・まあ。

源十郎 この間の中間テスト、成績が悪かったらしいですよ。

信彦 なんだ。そんな事か。

一青 そんな事ってなんですか。これでも結構落ち込んでるんですよ。

信彦 ああ悪かった。たださ、学校のテストなんて社会に出たら何も役に立ちはないぞ。

一青 そういうセリフは社会に出ている人が言うべきだと思いますけど。

信彦 なっ!?

源十郎 でも本当。先生の言うとおりだと思いますよ。高校や大学で勉強したことなんて全然使いません。一番ためになってるのは意外と小学生の頃に学んだことじゃないですか？

一青 そんなもんですかね・・・。でも自分のわがままで一人暮らしさせてもらって、大学行くために勉強する環境作ってもらってこれじゃあ・・・。送り止められちゃいますよ。

信彦 一青君、君ね、勉強する環境にこんなアパート選んじゃ駄目だよ。ここの住人まともな人いないんだから。

一青 (二人を見て)・・・確かに。

源十郎 一青君は意外と毒吐くんですよね。

一青 源さんも溜め息ついてましたよね。何かあったんですか？

源十郎 仕事で・・・ちよっとね。

信彦 あれ？源さんって何の仕事してたんですっけ？

源十郎 宮大工です。

その言葉に、信彦と一青、顔を見合わせる。源十郎、その様子を見て。

源十郎 ……え、マジですか？ ……神社やお寺の建築したり、

一青 宮大工は分かりますよ!!

信彦 ちよつと風貌と職業のギャップに言葉を失っただけです。

源十郎 そうですか？

一青 アレですよ？ 顔が濃いだけなんですよ？

源十郎 え？

一青 源さんは日本人なんですよ。

源十郎 何当たり前のこと言ってるんですか。

信彦 そうですよ。当たり前ですよ。分かりました。もう二度と疑ったりしません。

源十郎 え？

一青 で、その宮大工さんが、どうしたんです？

源十郎 どうしたもこうしたも ……仕事でちよつとやっちゃいまして。

信彦 失敗ですか？

源十郎 まあ。

一青 何したんですか。

源十郎 三日前に私、出張したの覚えてます？

一青 はい。確か奈良に行くって。

源十郎 法隆寺の補修だったんです。

信彦 法隆寺ってあの「柿食えば鐘が鳴るなり法隆寺」の法隆寺ですか？

一青 国宝のお寺ですよ。

源十郎 はい。で、今先生がおっしゃった句は私も知ってまして、どんな鐘の音がするんだろうと、夜中に忍び込んで思い切り鳴らしたら、鐘が真つ二つに割れちゃったんですよ。

一青 なんてことしたんですか!!

源十郎 とりあえずセメダインでくっつけてきましたけど。

信彦 そんなんでくっつくものなのか？

源十郎 ばれてないようなので、そのまま黙って帰ってきましたけど、いつ私の所に連絡が来るか・・・。

一青 いや、犯罪ですから。自首した方がいいですって!!

源十郎 そうですよ・・・でも捕まるのも嫌ですし。いろんなことを考えてしまつて、最近は夜しか寝れません。

一青 普通です。

源十郎 八時間。

一青 120%日常生活をエンジョイしてますよね。

信彦 とにかく源さん、話が重すぎます!!我々は聞かなかったということにさせてください。いや、聞かなかつたということにします!!

源十郎 そうですか？でも皆それぞれ悩みがあるものですね。

信彦 源さんの話聞いたら自分の悩みなんてどうでもよくなりましたけどね・・・。

源十郎 でも考えてみれば、一番の悩みというか問題は、日曜とはいえ、朝っぱらから男3人でアパートの玄関でしゃべってるこの現状かもしれないですけど・・・。

一青 確かに。

信彦 彼女がいるわけじゃなし。どこかに遊びに行く予定があるわけじゃなし。

一青 今日はパチンコ行かないんですか？

信彦 タ方からかな。今日は回収日だから行っても出ない日なんだ。

一青 先生は小説家よりもギャンブラーになった方が良いでしょう。パチンコ、競馬、麻雀だけで年収いくらでしたっけ？

信彦 六百万。

一青 小説の収入は？

信彦 ゼロ。

一青 絶対、職業ギャンブラーですよね！！

信彦 一青君！！ギャンブラーなんて浮き草生活、私には合わんのだよ！！

一青 そういうセリフは小説で稼いでから言っべきだと思います。

信彦 なっ？

源十郎 まあまあ、いいじゃないですか。いざとなったら皆で自首しましょう。

一青 巻き込む気満々ですね！！何言い出すんですか！！

信彦 一青君。源さんの中ではシレッと共犯扱いになってるぞ。

一青 やめてくださいよ。

信彦 それはそれで小説のネタにはなるかな。

一青 あ、駄目だ。この人もまともじゃない。

小町、下手から入ってくる。

小町 朝っぱらから何やってんだい。男3人でこんなところで。

信彦 あ、小町ママ。仕事終わったんですか？

小町 もう眠いっただらないよ。

一青 おはようございます。

小町 おはよう。と言いつつ、わたしや寝るけどね。女の子たちが気配り出来ないから疲れてし
ようがないよ。

源十郎 ママさんも大変ですね。

小町 まあそれが仕事なんだけどさ。何、あんたたちはどうしたの。辛気臭い顔しちゃってさ。

信彦 それが、

小町 どーせ原稿がボツになって、テストの成績が下がって、法隆寺の鐘を真っ二つに割っちゃ
ったんだろ？

一青 聞いてたんですか？

小町 いつものことじゃないか。進歩のない人達だねえ……。

源十郎 いや、お恥ずかしい限りです。

小町 それで男3人なぐさめ合ってたのかい。それもいいけどさ、そういう時はパーッとやるに限るよ。今日、ウチの店において。

一青 え!? 飲んでいいんですか!?

小町 アンタはジューズ。最近うるさいんだから、そういうの。

源十郎 ゴチになります。

小町 何言ってるんだい。お代はきちんともらうよ。大幅に割り引いてはあげるけどさ。おごってほしいなら先生に頼みな。

信彦 またですか?

小町 いいじゃないか。どうせ勝ってるんだろ、これ。

小町、パチンコのジェスチャー。

信彦 まあ・・・。

小町 感心するやら呆れるやら。ラスベガスに行って一儲けしてさ、自分でお金出して本作ったらしいじゃないか。

信彦 自費出版じゃ意味ないんですよ。

小町 プライドってやつかい? 難儀だねえ、男ってやつは。で、どうする?

信彦 ・・・・まあ、気分転換にはなるでしょうから。

小町 助かるよ。本当は今月厳しくてね。先生はキャッシュオンリーだから有り難いよ。

信彦 私はカモにされたのですか？

小町 いやいや、そういうんじゃないけどさ。ここはホラ、持ちつ持たれつってことで。10万・

20万ポーンと使っちゃってよ。

一青 ぼったくる気満々ですよ。

小町 一青ちゃん、余計なこと言わない。これで先生、意外と男気あるんだから。同じアパート

に住むお隣さんが困ってるなら懐の30万や50万。

源十郎 あ、増えた。

小町 じゃ、お店は8時からだから。よろしくね。なんだったら50万だけお店に置いて帰っても

いいから。

一青 無茶苦茶いますね。

小町 あー、何か話してたら目え覚めちゃったわ。何か面白い話する？

一青 え？

小町 私がする？私がすればいいか。私がした方がいい？

一青 え？あ、はい。

小町 昨日、ウチの女の子が出した心理テストなんだけどさー。

小町、ポケットから紙を取り出す。

小町 問題出すから答えなさいな。

源十郎 面白そうですね。

小町 じゃあねー。「あなたは十数名のグループの中にいます。そのグループは老若男女問わずです。全員でピクニックに行くことにしました。途中道が3つに分かれています。さて、あなたならどうする？1、険しくて大変だが目的地まで最短ルートを選ぶ。2、かなり遠回りをするが平坦で安全な道を選ぶ。3、危険度も距離も中間ぐらいの道を選ぶ。4、誰かが決めてくれるのを待つ。」さあ、どれ？

信彦 そりゃあ1でしょ。せつかくのピクニックなら早く着いてその分遊ばないと。

一青 でも途中で怪我しちや意味ないじゃないですか。3ですよ。

信彦 そんな風に石橋ばかり叩いてるから一青君は勝負運がないんだよ。

一青 だって聞いてました？グループの中には女性やお年寄りもいるんです。

信彦 そんなの担いであげれば大丈夫。

一青 担いでって。どちらかと言うと先生、担がれる側でしょ。

信彦 君は本当にちよいちよい失礼だね。

小町 源さんは？

源十郎 自分は・・・4ですかね。

小町 へー、意外。

源十郎 出しゃばると「出る杭は打たれる」って言いますでしょ。

一青 これで何が分かるんですか？

小町 もう答えは変えないかい？言った後だと面白くなっちゃうからね。

信彦 変えません。1です。

一青 3です。

源十郎 4。

小町 じゃあ発表するよ。これで分かるのは「あなたはどれだけ日本人らしいか」

一・信 え？

小町 典型的な日本人はさ、事なかれ主義だったり、保険が大好きだったりするだろ？この問題でどれだけ日本人ぽいかが分かるんだ。面白いだろ。

信彦 えーと・・・。

小町 まず先生だけど、日本人らしさ度・・・30%。冒険好きなのは日本人らしくないようだね。

周りの事よりも自分だけ良ければいいみたいな考えはやめましょうってさ。小説家なんて、独自の世界を持つてた方がいいだろうからね。先生はこれで良いんじゃないかい。

信彦 心情的には複雑ですね。

小町 次に、一青ちゃんだけ。

一青 はい。

小町 日本人らしさ度は・・・65%。やっぱり周りの事も考えるバランス取りな所は日本人らしいってさ。ただ、自分が無いと思われたり、それによって色々利用されることもあるから気をつけろってさ。

一青 はあ・・・。

小町 最後に源さんだけど、日本人らしさ度は、

一・信 話題を変えましょう。

源十郎 何故ですか!? 聞きたいです!!

一青 僕等が聞きたくないんです。

信彦 せっかく、さつき自分を騙しだまし納得したのに、度数が高くて低くてもモヤモヤしちゃうじゃないですか。

源十郎 何の話をしてるんですか?

信彦 とにかく話題を変えましょう。小町ママ、他には何かないんですか?

小町 あるよ。武士道診断とか。

一青 やめ!! 心理テストやめ!!

源十郎 面白そうなのに・・・。

小町 じゃああんたたちの方で面白いネタ振りなさいな。

信彦 おっと、結局こっちに來たか。と言っても、面白い話なんて・・・。

源十郎 あ、そう言えばこの間、駅前にラーメン屋がオープンしたじゃないですか。

小町 あー、あれだろ? 赤い看板の。

源十郎 はい。あそこのラーメン、超マズイらしいですよ。

信彦 え、あそこマズイんですか?

源十郎 一応とんこつがウリらしいんですけどね、あえて味噌を頼んだらしいんですけど、超マズかったらしいです。で、次の日、今度はしょうゆを食べたらしいんですけど、味噌以上

マズくて、一緒に頼んだ餃子もビックリするくらいマズかったらしいんですよ。
信彦 ある意味食べたくなってくるな。

一青 で、とんこつはどうなんですか？

源十郎 とんこつが一番マズいらしいです。

信彦 やばい。ますます食べたくなくなってきた。

一青 そんなんでいいんだったら俺もありますよ。

小町 何だい？

一青 三丁目の山田さんとの猫、赤ちゃん産まれたらしいです。

小町 へー、やっと産まれたのかい。山田のおばあちゃんもこれで一安心だね。

一青 はい。5匹産まれたんですけど、3匹くらいもらって言って言われて困っちゃいました。

山田さんも産まれたのは嬉しいけど、全部は面倒見きれないって。

小町 ウチの女の子たちは皆猫好きだからね。聞いというてやるよ。

一青 ありがとうございます。

小町 けど、一ヶ月くらいは母親の傍にいさせてやるんだよ？

一青 分かりました。山田さんも一ヶ月くらいなら大丈夫だと思います。

源十郎 そういうのなら自分もあります。

信彦 へー、どんな情報ですか？

源十郎 5丁目の飯野さんが深爪したらしいです。

一青 源さん、言やあいってもんじゃないんですよ。

小町 だったら4丁目の鈴木さん、この間新しいフライパン買ったって。

信彦 8丁目の田中さん、買い物の時お札と間違えてレシート出したらしいんですよ。

3人 それは恥ずかしい。

小町 あるよねー。そういう恥ずかしい間違いとか。

3人 あるある。

一青 俺この間、学校の先生のこと「お母さん」って呼んじやいました。

3人 あるある。

源十郎 自分、大工の親方と話するとき、滑舌悪くて「〜です。」を「〜でちゅ。」って言っちゃいました。

3人 あるある。

信彦 いるよね。何か良いこと言おうとすると噛む奴。

一青 あと頑張り過ぎて声高くなる奴もいますよね。「静かにしてください!!」って。

3人 いるいる。

小町 風邪ひく時って大抵日曜だったりするよね。

3人 あるある。

小町 で、次の日の朝のは治るんだから嫌んなっちゃうよ。

一青 あと、ジュースとかで「よく振ってからお飲みください」は基本、開けてから気付きますよね。

信彦 もうあの注意書き、開けてからじゃないと文字浮かび上がらないんじゃないか？

源十郎 バイトの時だけ、やたらテンション高い奴って何なんでしょうね。

3人 いるいる!!

源十郎 飲みに誘うと急におとなしくなるんですよ。

小町 ウチにもいるわ。そういう子。

源十郎 飲むの嫌なんかいっ!て思いますよ。

小町 スマホってさ、ポケットに入れておくとたまに暴走してる時あるよね。電話しようと思ってスマホ出したらあらゆるアプリが立ち上がっててびっくりしたよこの間。

一青 俺、この間、知らないアプリが入れられてました。

源十郎 先生は?

信彦 え?

源十郎 先生も出してくださいよ、あるある。

信彦 あるある?

源十郎 ね?あるある。

信彦 あるある。

小町 ほら、あるある。

信彦 あるある・・・。

一青 一通り盛り上がったんで、先生のあるあるで締めてください。

信彦 えーとね・・・えー・・・カビキラーって使ってもカビは落ちなくて、カビを化学物質で脱色しているだけらしいよ。

一青 先生、それは雑学です!!

小町 あー、今思い出したけど、こんなくだらないことを男6人が話してるお芝居があったからね・・・。

信彦 えーと、なんでしたっけ?

小町 なんだっけねえ・・・あ、カクスコ!!

信彦 カクスコ、カクスコ!! 小町ママ詳しいですね。

小町 まあね。

信彦 好きだったなあ・・・男だけの6人芝居。アカペラやるんですよ。

小町 そうそう、アカペラ。アレ、格好良かったよ。

源十郎 アカペラって「うゝ」とかいうやつですね。

小町 難しいんだよ、あれ。ちょっと練習しただけじゃ出来ないんだから。
一青 うゝ。

一青、急に音を入れる。つられるように源十郎、小町、信彦も「うゝ」と音を入れる。小町、一回音を切り、全員同時に音を入れた瞬間むせる信彦。小町、信彦の背中を叩きながら、

小町 何むせてんだい。

一青 気合い入れ過ぎですよ。

信彦 申し訳ない。

源十郎 でも今、いい感じじゃありませんでした？

小町 そう？

一青 良い感じでした。

小町 じゃ、もう一回。

小町、一青、源十郎、信彦の順で指差していき差された者は「うゝ」と声を出していく。
最後に小町。一回音を切り、

小町 ワン、ツー、

全員大きく息を吸って、全員で揃えて音を出す直前

小町 なんちゃってねゝ!! それっぽかった? それっぽかった?

源十郎 良い感じでした。

信彦 僕達もなかなかやりますよね。

小町 まあこれ以上は流石に無理だけどさ。アカペラは無理だけど・・・いつものやつとく?

一青 え?

小町 嫌なことがあったんだろ? テストの点数が悪かったり、書いた小説がボツになったり。
元

気出る例のヤツ。ファイトってね！

信彦
はい。

小町
頑張ったんだろ？頑張って、でも結果が駄目で、でも、まだまだ続けるんだろ？諦めないんだろ？

一青
はい。

小町
闘い続けるには元気が必要さ。それが空元気だとしてもね。いいかい！腹から声を出すんだよ！

3人
はい！

小町
ファイト！

3人
ファイト！

小町
ファイト！

3人
ファイト！

全員
ファイト！闘う君の唄を、闘わない奴らが笑うだろ。ファイト！冷たい水の中を、震えながら昇ってゆけ！

3回ほど繰り返す。

信彦
やっぱりの歌は元気になりますね。

一青
やる気になりました！明日から・・・いや、今から頑張ります！

源十郎 自分も元気になりました！過ぎた事でクヨクヨしてられませんか。こうなったら次は金

閣寺に行つてきます！

3人 それは違う。

場面転換の音楽。可能な限り暗転にはしない。

一青、信彦、源十郎、上手へ去る。大家在下手から入ってくる。

小町 つてことでさ、私も昔はやんちゃしてたわけよ。

大家 そうですか。

小町 それが原因で旦那が子供連れて出てって、私一人になっちゃったんだよね。

大家 小町さんらしいと言えらしいですけど。

小町 でね、一昨日、旦那から数年ぶりに連絡があつただけど、ええ。

小町 子供が信号無視した車にはねられて、今入院してるらしいんだよ。旦那もそんなに貯えが

あるわけじゃなかったらしく、費用面で何とか協力してもらえないかって。

大家 小町さんとしては？

小町 そりゃあ私だって余裕があるわけじゃないけどさ、何とかしてやりたいじゃないか。

大家 ええ。

小町 そこで相談なんだけどね、今月の家賃、少し待ってもらえないもんかね。

大家 今月のもつて・・・小町さん3ヶ月と21日滞納中ですよ？

小町 分かつてるつて。まとめて払うからさ。

大家 当てがあるんですか？

小町 今、結構お金持つてる社長さんがウチの店にハマってくれてんだよ。若い子の2、3人も付けりや、家賃の三ヶ月分くらいすぐさ。

大家 小町さんのお店はどれだけ高級店なんですか。

小町 いいんだよ。あるところからは少しくらい多く取ったつて。だからさ、頼むよ。もう少し待つてもらえないかねえ？

大家 ・・・・仕方ないですね。理由が理由ですし。1ヶ月と9日待ちましょう。次に5ヶ月分をまとめてお願いします。

小町 すまないね。恩に着るよ。やっぱり大家さんは話が分かる人だ。

大家 私には子供がいまさんから分かりませんが、大切なものなのでしょう？

小町 ね、大家さん。大家さんにはいい人いないのかい？

大家 いい人？

小町 分かるだろ？

大家 いませんね。欲しいとも思いません。

小町 もったいないねえ。大家さんは女の私から見ても氣立てがいいのに。ほら、少し笑ってみな。

大家 笑う？

小町

・・・もういい。

一青が上手から入ってくる。

一青

大家さん、お話があります。

大家

何でしょう？

一青

言いにくいことなんですけど・・・まだ仕送りが来てなくてですね、その・・・家賃少し待ってもらえないかなあつて。

大家

またですか？最近遅れがちですね。

一青

すみません。成績が下がって、一人暮らしを親が快く思っていないんです。

大家

4ヶ月連続ですよ。4ヶ月前は7日の遅れ。3ヶ月前は11日の遅れ。2ヶ月前は12日の遅れ。先月は13日遅れました。一青さんがこのアパートに入居して一年と2ヶ月。14分の4が遅延というのはあまり良い入居者とは言えませんね。

一青

・・・す、すみません。

大家

仕方ありませんね。私が立て替えておきます。

一青

いいんですか！？助かります！！

大家

3日で一割利子を取りますから、早くした方がいいですよ。

一青

3日で一割！？無茶苦茶じゃないですか！！

大家

バイトでもして稼ぐんですね。

一青 小町ママ、何か言ってくださいよ。

小町 ウチでバイトする？

一青 俺はもしかして、とんでもない生活環境で受験勉強してるんじゃないだろうか・・・。

小町 だいたい何でわざわざ一人暮らししてるんだい？親御さんだって家賃捻出するの大変なんじゃないか？

一青 いや、元々は一人暮らしの件は親の方から言ってきたんですよ。お爺ちゃんとお婆ちゃんと一緒に住むから家をリフォームするって言って。で、リフォームは終わったんですけど、またここでバタバタすると受験に差し支えると思って、親にわがまま言って、一人暮らしさせてもらってます。

小町 それで成績下がってたら世話ないね。

一青 はい・・・。

大家 でも一青さんは真面目に勉強してますよね？それで何故成績が下がるのか分かりません。どこの大学に行くかはもう決まってるのかい？

一青 え？いえ・・・。身の丈に合ったところに行こうと思ってます。

小町 ……今時の子ってのは、こういうもんなのかねえ・・・。

上手から信彦が入ってくる。

信彦 こんにちは。

一青 あ、先生、こんにちは。
信彦 大家さん、これ、今月分です。

信彦、封筒を大家に渡す。

一青 家賃ですか？

信彦 うん。一青君も？

一青 いえ、俺は少し待って欲っていました。

信彦 そう。

一青 先生はすごいですね。家賃遅れたことないんじゃないですか？

信彦 すごいというか、ごく当たり前のことなだけだね。こんなことをすごいと思ってしまう、その感覚の方がすごいよ。

大家 正確には信彦さんが入居して5ヶ月後に一回だけ1日遅れたことがありましたね。
信彦 そういえばそんなこともあったような気がしますけど……。物事全てを記憶してるんですか？

大家 大抵のことは。

信彦 そ、そうですか。

小町 先生はまたコレかい？

小町、パチンコのジエスチャー。

信彦 ええ。まあ。今日も稼がせてもらいました。

一青 勝負運強い人はいいですよねー。憧れちゃいますよ。

信彦 一青君、君は僕が運だけでこんなに毎回勝つてると思っているのか？

一青 違うんですか？

信彦 勝負っていうのはね、「勝つべくして勝つ」んだよ。僕は基本的に運否天賦の勝負はしないよ。

一青 え、じゃあ……。

信彦 パチンコだって店に通い、その台がいつ出たかをチェックして、サイクルを調べて勝負してるんだ。時には店員から裏情報を聞いたりしてね。

一青 そんなことしていいんですか！？

信彦 言ったら？勝つべくして勝つて。店側はそうじゃないお客をカモにして利益を上げてるんだから、ある意味おあいこさ。

小町 その情熱が一つの作品に注げばいいのにねえ……。

信彦 そうなんですよー。書きたいことが多すぎて、話が飛んじやうですよ。

大家 でも、そんなに書きたいことが多いのは、逆に書きたいことじゃないから多いのかもしれないね。

信彦 え、どういことですか？

大家 分かりません。言ってみただけです。

一青 大家さんって思わせ振りのことを言っ、思わせ振りのまま会話終わらせますよね。

大家 そんなことより、

信彦 そんなこと・・・。

大家 小町さんがプライベートでいろいろあつて落ち込んでいるようです。二人で楽しませてく
ださい。

一青 急に何言い出すんですか。

大家 入居者のストレスケアも大家の務めですから。

一青 だからって何で俺たちが・・・。

大家 ここで小町さんを楽しませることが出来たら、立て替え期間の利子は取らないことにしま
すか？

一青 頑張りましょう先生!!

信彦 いや、僕のメリットが見当たらないんですが・・・。

大家 あと、先程、小町さんから言われたのですが、私は氣立てが良いのですが、笑顔がないと
のことです。

小町 結構気にしてたんだね・・・。

信彦 そう言えば大家さんの笑った顔って見たことないですね。笑ったことないわけじゃないで
すよね？

大家 記憶にありません。

信彦 え、笑うだけですよ？

大家 どうすればいいのですか？

信彦 目尻を下げて、口の両端をこう上げてみてください。

大家 ・・・・こうでしょうか？

大家、言われた通りやってみるものの、微妙な笑顔。

一青 何か怖いですよ!!

信彦 すまなかった。ここは大人しく協力させてもらうよ。

小町 で、何をして私を楽しませてくれるんだい？

信彦 大家さん、我々は何をすればいいですか？

大家 そうですね・・・絵にしましょう。

信彦 はい!?

大家 絵です。

一青 いや、駄目っすよ。俺、絵は超下手ですって!!

大家 だから面白いんじゃないですか。

一青 それって、はずかしめられてるだけですよね!!

大家 利子・・・。

一青 頑張りましたよう先生!!

信彦 君は人として何か大切なものを失くしてる気がするぞ？

大家 では、これに書いてもらいましょか。

一青 何書けばいいですか？

大家 お題ですか。そうですね…こういうときは神の声に耳を傾けましょ。

一青 はい？

大家 こうして耳を澄ますと、神の声が聞こえてくるんです。

大家、両耳に手を当てて、お客の方を向く。「お客さん、お題を言つて」のアピール。事前
にサクラを仕込んでおくこと。

大家 頂きましょ。お題は「
2分!？」。2分で書いてください。

信彦

大家 よーい、スタート。

お題の絵を書き始める一青と信彦。10秒ほどして。

大家 ちなみにこれは対決ですから、負けた方には罰ゲームが待ってますからね。

信彦 聞いてないですよ。

大家 言ってますから。

信彦 完全にハイリスクノーリターンの勝負だ・・・。

二人が書いている間の2分、大家と小町で場をつなぐ。

大家 終了!! それでは信彦さんの方から見てみましょうか。

信彦、絵を見せる。

大家 続いて一青さんの絵をどうぞ。

一青、絵を見せる。

一青・・・あの、これどうやって勝ち負け決めるんですか？

大家 もちろん、神の拍手で決めます。

信彦 おい、一青君、これははずかしめというより公開処刑に近いぞ。

大家 それでは神よ。信彦さんの絵の方が上手いと思うなら拍手を。

大家、拍手を待つ。袖にいる役者も拍手。大きく。

大家 次に、一青さんの絵の方が上手いと思うなら拍手を。

大家、拍手を待つ。

大家 えー、それでは信彦さんの勝ちということ。

一青 これちゃんと絵の上手い下手で判断されてます!?! あいつが罰ゲーム受けた方が面白いとかで決まってるんですか!?!

信彦 そんな絵を描いておいて見苦しいぞ君は。

一青 勝った瞬間急に強気ですね!!... お願いします。もう一回。もう一回だけチャンスください。

大家 どうします?

小町 本当に一青ちゃんの為を思うなら「やめときなさい」って言うべきなんだろうけどねえ。ま、面白いし、いいんじゃないかい?

大家 それでは2回戦突入です。これで負けた方が罰ゲームです。

信彦 僕、リスクだけが増えてません!?!

大家 神よ、お題をお願いします。

一青と信彦はスケッチブックから先程の絵を破いて小町に渡す。大家、先程と同じポーズ。お題をもらおう。

大家 それでいきましょう。お題は「

」。制限時間は同じく2分です。ヨ―

イ、スタート。

2人、絵を描き始める。大家と小町は先程2人が描いた絵について突っ込む。

大家 終了です。それでは信彦さんの作品から見てみましょう。

一青 あー、もう俺完全にオチ扱いですね。

信彦、絵を見せる。

大家 信彦さんの勝ちー。

一青 いやいやいや!!・・・待ってください。描いたんですから。

大家 そうですね。主旨は小町さんを楽しませることでした。それでは一青さんの
「どうぞ。」

大家 信彦さんの勝ちー。

一青 いやいやいや!!一応。一応聞いてみてください。

大家 信彦さんの絵の方が上手いと思う神よ、拍手を。・・・一青さんの絵の方が上手いと思う神
よ、拍手を。

一青が負けるようにコチラで操作。神の人、拍手頑張れ。

一青

もうあきらめつきました。大人しく罰ゲームを受けます。

信彦

むしろこの絵で何で食い下がったのかを聞きたいんだが。

大家、ポケットから袋を取り出し、中に手を入れて一枚の紙を出す。

大家

では、罰ゲームは……「ものまね3連発」です。

一青

3連発!?

大家

それではハリキつてどうぞ。

一青

えー……。じゃあ……。掃除機の音「ゴ」。次きまして船の汽笛の音。「ボ」。次

信彦

きまして、千と千尋より力オナシ。「あゝ」。
全部同じじゃないか!!

小町は大ウケ

大家

まあ小町さんが楽しんでいるようなので良しとしましょう。私は笑えませんでした。

一青

す、すみません。

大家 今のはアレですよ。クオリティの低いものまねでも同じようなことを

すことにより笑いに変えようとする手法をとったんですよ？

一青 笑いを説明するのマジでやめてもらえますか？

小町 いやー、でも楽しませてもらったよ。ありがとう。

信彦 何言ってるんですか。小町ママにはいつも励ましてもらってるんですから。

一青 そうですよ。何があったのかは知りませんが、元気出して下さい。

信彦 今日は僕達が音頭をとるか。

一青 そうですね。

大家 いつものやつですか？

信彦 はい。じゃあ、一青君、せーの。

男二人 ファイトー！！

女二人 ファイトー！！

男二人 ファイトー！！

女二人 ファイトー！！

全員 ファイトー！！

ゝ以下歌詞と同文

今回は一回で終わり。歌の終りと同時に源十郎が入って来る。

源十郎 これは皆さん、おそろいで。

一青 あ、源さん。一緒にやりませんか？

源十郎 はい、ぜひ。ただその前に大家さん相談が。

大家 大丈夫です。その先は言わなくても分かりましたから。なるべく早くにお願いしますね。

源十郎 あ、もうママさんから聞いてます？

大家 ええ。お子さんのことですよ。

小町 さあ、元氣も出たことだし、部屋に戻るとするかね。

源十郎 お子さん？いえ。ママさんお子さんいたんですか？

小町 えっと、あの、さ・・・。

大家 小町さん？

小町 いや、部屋に戻ろうかなって。

大家 家賃のお金、何に使ったんですか？

小町 え、その・・・あ、イタタタ・・・お腹が!!お腹がストレスで!!

大家 小町さん？

小町 アニメ、ドラえもんより、しずかちゃん。「のび太さんのエッチ!!」

大家 小町さん？

小町 困った時に使えるとっさの一言。・・・「テヘペロ!!」

大家 小町さん!?

小町 ゴメンなさい。

大家 少しお話する必要があるそうですね。

小町 いや、忙しい大家さんに時間とらせるなんて……。

大家、小町の首をつかんで下手へ連れて行く。

源十郎 何か私、悪いことしたでしょうか。

信彦 大丈夫。源さんは何も悪くないです。

源十郎 何かあったんですかね？

一青 多分、皆が想像している通りのことだと思います。

3人 ……うん。

場面転換の音楽。一青、上手へはける。大家下手から入って来る。

信彦 と、いうわけで、小説を書くのはしばらく休んで、劇の台本を書いてみたくなったという

わけです。協力してもらえませんか。

源十郎 先生にはいつもご馳走になっていきますからもちろんですが具体的に何をすればいいのです
ようか？

信彦 台本は書いたことがないのでイマイチイメージがわからないんですね。ですから今ここで
ちよつとやってみてもらえないかと思つて。

源十郎 ここでですかいいや、自分、お芝居なんてやったことないですよ。

信彦 別に本格的にやってくれて言っているわけじゃありません。

源十郎 でも役者をやるというのは……。

信彦 本当にちよつと動いて、何かごによごによ言ってもらえればいいだけですから。

源十郎 完全に役者じゃないですか。

信彦 嫌ですか？役者。

源十郎 いい年して役者やっているなんて、よっぽど頭が悪いか、性格が破綻しているか、友達

いないか、人生棒にふつてゐる奴のどれかですよ。何だろう？自分で言っていて胸が痛い。

信彦 大丈夫ですって。本当にちよつと動いてもらうだけですから。

大家 具体的にはどんなお芝居を？

信彦 そこはまあ、男ですから殺陣のある芝居がしたいですね。

源十郎 殺陣？

信彦 チャンバラです。

源十郎 いーですね、チャンバラ!!

信彦 源さんも好きですか!?

源十郎 はい!!男なら誰でも好きなんじゃないですか？やりましょう。自分の相手は誰が？

信彦 まあ……今は2人しかいないので、大家さんで。

源十郎 え!?

大家 分かりました。

源十郎 ちよ、ちよ、ちよ、ちよつと待って下さい。大家さんですかに

信彦 ええ、大丈夫ですよ。何か持つわけじゃないですし。フリだけですから、大家さんにケガさせることはないと思います。

源十郎 いや、その、大家さんの心配というよりも自分の身が心配というか。

信彦 源さんって本当大家さん苦手ですよ！何かあったんですか？

源十郎 いえ特に何かあったというわけじゃないんですけど。

信彦 確かに大家さんは対応こそ冷たいですけど、我々入居者の為にいろいろ良くしてくれているじゃないですか。優しい方だと思いますよ？

源十郎 もちろん今は優しい大家さんかも。

大家 信彦さん。

信彦 は、はい。

大家 始めましょうか。

信彦 え、あ、はい。

大家、2人から少し離れて刀を構える格好をする。

大家 設定を。

信彦 えーと、じゃあ・・・幼い頃、父を殺された武士の娘が、女ながら剣の修行をして十五年、やっと憎き仇を見つけたってシチュエーションはいかがでしょうか？

大家 頂きました。

信彦 ありがとうございます。それでは固くならずにはサクつと試みてみましょう。よい……

スタート!!

大家 …… (棒読みで) オイ、お前。お前は源十郎と申しますか？

信彦 カット!! …… 文法おかしいです。本人かどうか確かめなくていいので「ここで会ったが百年目!!」とかそういうセリフをお願いします。

大家 この頃の時代の人間は百年も長生きできません。

信彦 いや、あの、言葉の重みというか、まあお芝居ですから。

大家 お芝居ですから何でも許されますが、それはそういう世界観を持つ芝居をした時のことです。今行っていたのはリアル路線であり……

信彦 大家さんこういうのやりだすと意外と面倒くさいタイプですね。

大家 修行をして十五年と言ったんは信彦です。

信彦 …… そうですね。それでは「ここで会ったが十五年目!!」ということにしましょう。

大家 (棒読みで) ここで会ったが十五年目。父の仇、覚悟。

源十郎 十五年目? そうか貴様はあの時の娘か。大きくなったものよ。

大家 (棒読みで) 憎き父のその顔一日たりとも忘れたことがなかったぞ。

信彦 しまった。思いの外、大家さんがポンコツだった。

大家 さあ、刀を抜け。今この日、この時、私と立ち合い罪を償うのだ。

源十郎 よいのか? 抜けば女として情けはかけられんぞ。

大家 元より覚悟の上。いざ、勝負。

大家、回転しながら距離を取り、マイムで刀を構える。

信彦 え？

源十郎 ちよ、ちよつとストップ!!これ以上は危険です!!構えた瞬間目がマジじゃないですか!!

信彦 え、あ、ああ、そうですね。大家さんカットです。

大家 これからが良い所じゃないのですか？

信彦 えーと、これ以上は何か危険な香りがしたのでやめておきます。

大家 残念です。

小町が下手から入って来る。

小町 何やってるんだい？

源十郎 ああママさん。今、先生のお手伝いで芝居やってます。

信彦 ホラ、この間芝居の話をしたじゃないですか。そしたら小説もいいけど台本も書いてみた
いなと思ひましてね。ただイメージがわかなかったので2人に協力してもらっていたんで
す。

小町 何だい、何だいそんな面白そうなこと。どうして私に一言声をかけないんだよ？

信彦 そういえば詳しくかったですもんね。お芝居好きなんですか？

小町 これでも若い頃はね、宝塚に入れたらいいなあと思ったくらいなんだから。

大・権 ・・・・おお!!

信彦 いや、「おお」って。

小町 で、何やるんだい？

信彦 小町ママが手伝ってくれるなら設定を変えましょうか。

小町 私はやっぱり恋愛ものがいいねえ。・・・あ、こんなのはどうだい？昼メロも真青のドロドロ愛情劇。2人の女が1人の男をめぐって争うっていう。

大家 それで、こんな所にまで何しに來たんです？

信彦 あ、始まった。

小町 夫の浮気相手がどんな人かと思えば・・・あの人も趣味が悪いわね。

大家 アナタを奥さんを選んだ時点でそれは分かっていることだと思えますけど。

小町 言ったわね。人のものに手を出しておいて!!このドロボウ猫!!

大家 そんなに大事なもののなら金庫にでもしまっておいたらいいんじゃないですか？もつとも私に会いたくて出たがるでしょうけど。

小町 悪びれもせずよくそんなことが言えるわね!!売れ残りのクセに!!

大家 私に出会ふよりも先にアンタが出会っただけの話でしょ!!

小町 何ですって!!

大家 何よ!!

大家と小町、つかみ合いのケンカになりそうな瞬間、間から源十郎が入って来る。

源十郎 やめてー!! 私の為に争わないで!! ってこれ男と女逆じゃね?

小町 いいんだよ。今時、女の為に争う骨のある男なんていやしないんだから。

信彦 何言ってるんですか、あれだけ熱烈にアプローチされておきながら。

小町 え? 誰?

信彦 ホラ、例の。

小町 ・・・・・ああ。あんなの一時の事さ。本気にしてられないよ。

源十郎 一時って、もう3年ですよ。

小町 夜の女はね、あんな男にやだまされないんだよ。

源十郎 自分は結構本気だと思えますけどね・・・。

小町 そんなことより勝手に芝居を止めるんじゃないよ。芝居を止めていいのは演出に言われた時だけだろ?

全員耳をふさぐ。

大家 ・・・何でしょう耳が痛いのですが・・・。

信彦 えっと、恋愛もいいのですがやっぱり時代劇がいいですね、僕としては。

小町 いーじゃないか時代劇。設定はどうするんだい?

信彦 ベタなやついきましよう。体の弱い親とその娘。そこに借金取りが現れるってやつ。

小町 いいじゃないかい？ベタにはベタの良さってのがあるのさ。じゃあ私はね・・・。

源十郎 ゴホッゴホッ すまないねえ。お前には苦労かけっぱなしで。

大家 何言ってるんだよおとちつあん。それは言わない約束だろ。

小町 え・・・。

信彦 ホラ、入って下さい。

小町 ・・・オウ、オウ！約束の時間になっても来ないから来てやったぜ。

源十郎 これはこれは小町のダンナ。こんな汚い所へ。

小町 全くだ。シケた家だな。何も無えじゃないか。

源十郎 誠にすいません。

小町 で、金はできたのか？

源十郎 それが見ての通り自分がこんな状態でして、ゴホッゴホッ!!金の工面が出来ておりません。

ゴホッゴホッ!!

大家 大丈夫かい。おとつあん。

源十郎 それでもう少し待ってもらえないかと・・・。

小町 いーや待てねえな!!約束を守るのは人として当然の事じゃねえのかい。それをこっちは十

日も待ってやったんだ。それを更に待てだど？

源十郎 元気になりましたら必ずお返ししますので。

小町 じゃあ元気になって金を返しに来るまで娘は預かっておくれ。

小町、大家の腕をつかむ。

源十郎 ど、どうか娘だけは!!

小町 やかましい!! そんなに大切な娘ならせいぜい早く返しに来るんだな!!

大家 あーれー。おとつあんー!! たーすーけーてー。

小町 へっへっへっ。可愛がつてやるぜ。

小町と大家下手へ少し移動。

下手から一青が走って入って来る。

一青 た、大変です!! いつもの奴らがきました!!

信彦 おっ!! 新しい展開か?

一青 何言ってるんですか!! 来たんですよ、いつもの奴らが!!

小町 来たって……え?

源十郎 まさか?

力丸 邪魔しますよ。

力丸を先頭に茜、陣兵が入って来る。

住民達は上手へ移動、5対3で相対する。

力丸 これはこれは皆さんお揃いで。

大家 また来たんですか。

力丸 もちろん来ますとも。良い返事を聞かせてもらえるまでは何度でもね。

大家 しつこいですね。立ち退くつもりはないと何度も言っていますが。

力丸 いやー、人の心は移ろいやすいもの。こうして足を運んでいけば、答えが変わる日が来ないとも限りませんからね。

大家 答えが変わることはありません。

力丸 でもですよ？住人が誰もいなくなったら、やっていけないじゃないですか。

大家 今はいます。

力丸 今はね。でも分かりませんよ。何が原因で退去するかなんて。事故にあつて長期入院するはめにあつたり、誘拐されて帰ってこれなくなったり、最悪、通り魔に刺されて死んじゃうかもしれないですからね。

小町 それは脅迫かい！？

力丸 たとえ話ですよ。あくまで例えばの話です。なあ、陣兵。

陣兵 そうです。あくまでたとえ話ですから。

信彦 でも完全に脅してましたよね。

陣兵 ああ！？妙な言いがかりつけてんじゃねえぞ temeエ。

小町 大声出すのはよしとくれ。

陣兵 あ、すみません。

大家 誰にも何もありません。事故にも合いませんし、誘拐もされませんし、刺されもしません。例えそんなことがあったとしても、

力丸 あったとしても？

大家 その方が帰って来るまで部屋は空けて待っています。

住人、「おお!!」と感動の声。

小町 大家さんよく言った!! 普段は無口で愛想無くて、感情もなくて何考えてんだか分かんない

不気味なオーラ漂わせている、家賃の回収しか頭にない人だけど、根は良い人なんだね!!

大家 小町さん、言い過ぎです。

力丸 何でこんな住人の為にそこまで頑張るんですかねえ。俺には分かりませんよ。

大家 私はこの地主に大家になってくれと頼まれました。職がなくて困っている私を見かねて助けてくれたのです。私にはここを守る責任があるのです。

力丸 責任も何も、この住人、家賃遅れがちだろ。・・・陣兵。

陣兵 はい。

陣兵、資料のようなものを取り出し読み上げる。

陣兵　まず・・・お前。

一青　え？

陣兵　青島一青¹⁷歳、学生。実家を離れて一人暮らし。目的は受験勉強。5人兄弟の長男。

信彦　え、5人兄弟？

一青　ええ。ですから下のやつらがうるさくて勉強にならないんです。

陣兵　趣味はアニメとゲーム。二次元をこよなく愛する生粋のオタクで、年齢イコール彼女いない歴を更新中。最近ハマっている食べ物「もずく」らしいです。ここ4ヶ月ほど親からの仕送りが遅れているのが原因で家賃も遅れがちです。

力丸　次。

陣兵　次は・・・緑川・・・。

信彦　僕ですか。

陣兵　緑川信彦、26歳。自称小説家。本業の収入はゼロなのに、年収が六百万を越す浮草生活満喫男。好きな言葉は何ですかと聞いたところ、「弱肉強食ならぬ焼肉定食なんつって」と答えてくれました。

力丸　ちよっと待て。

陣兵　はい。

力丸　お前、住人の個人情報調べるのに、本人にアンケート取ったのか。

陣兵 はい。

力丸 お前、答えたのか。

信彦 はい。

力丸 ・・・続ける。

陣兵 まあ、今のところは家賃が遅れたということはないようですが、何せ浮草生活ですからね。

来月の保障はありません。

信彦 返す言葉ありませんな。

陣兵 次に・・・小町さん。

小町 私？

陣兵 桃山小町さん。スナック「ちよつとだけよ」のオーナーママで、年齢はよんじゅう、

小町 ゴホッゴホッ！

陣兵 ・・・・・年齢は、

小町 ゴホッゴホッ！

陣兵 ね

小町 ゴホッ！ゴフォ！！

陣兵 ・・・・・抱えている女性スタッフは十五名。これは店舗規模を考えても明らかに雇い過ぎです。小町さんの人の良さが現れているといえます。困っている人を見ると放っておけない姉御肌で、従業員からはかなり慕われているようです。

力丸 ・・・・・それだけか？

陣兵 最近シャンプーをティモテからエッセンシャルに変えたようです。

力丸 それだけか。

陣兵 洗剤はダウニーが好きらしいです。

力丸 家賃は!?

陣兵 ・・・・ 3ヶ月半ほど未納です。

力丸 (大家に) な?

陣兵 最後に、黒金源十郎。

力丸 自分ですね。

陣兵 年齢は四十五歳。職業は

力丸 ちよつと待て。

陣兵 何でしょう?

力丸 アイツ源十郎っていうのか?

陣兵 らしですよ。

力丸 マジか。

陣兵 ええ。免許証見せてもらいました。

力丸 いやだって、どう見たってアイツ・・・

信彦 おっと源さんへの突っ込みはそこまでだ。

大家 何が言いたいのでしょうか。住人の皆さんは遅れてはいますが払う意思があります。問題

ありません。

力丸　それで大家として責任を果たせていると言えるんですかねえ。

大家　確かに良いことはありません。ですが、私がどんな手を使って何をさせてでも回収するので大丈夫です。

一青　ひよっとして一番怖いのは、あの人なんじゃないですか？

力丸　モノは言いようですね。大家さん、いいですか？家賃というのは・・・

茜　力丸。

力丸　え、あ、はい？

茜　疲れた。

力丸　はい？

茜　長いんだもん。疲れた。

力丸　いや、あの、ですから車で待って頂いても・・・

茜　やだ。ここにいる。

力丸　そうですか・・・。

茜　でも疲れた。

力丸　あ、はい。・・・おい、陣兵。

陣兵　はい。

陣兵、キャンプ用の椅子を用意する。座る茜。

力丸 ようするにですよ、大家さん。期日も守れない住人を守るのはバカバカしいと思いません

か。この人達のせいでアナタの信用が・・・

力丸

え、はい？

茜 楽しい？

力丸 ・・・・はい？

茜 お仕事。楽しい？

力丸 えっと、なぜ今このタイミングでその質問を？

茜 今まで見てただけど、お仕事頑張ってるなと思って。

力丸 ・・・・ありがとうございます。

茜 よくやるなーとも思うけど。

力丸 よくやるなって、この件はお嬢の命令で動いているんですよ！？

茜 うん。だから、頑張って！

力丸 ええ・・・！？ あ、はい。

陣兵 お嬢、相変わらず発言がフリーダムっすね。

茜 何だよ。下っ端が話しかけんなってんだろ！

陣兵 す、すいません！

茜 でもね、茜は、陣兵も今後の働きは期待してるんだぞ。

陣兵 あざーす！自分、頑張るっす！

茜 アタイの教育は厳しいよ！付いて来れるかい？

陣兵 はい！付いて行くっす！

茜 陣兵！

陣兵 お嬢！

茜と陣兵、腕をクロスさせる。

茜・陣 というわけで、そちらにお返しいたします。

力丸 お前等、本当に自由だな。

大家 ・・・ウチに帰ってやってもらえますか？

力丸 今日はこんな茶番を見せる為に来たわけじゃありません。大家さんにお見せしたい物がありません。

大家 ・・・・何でしょう。

力丸、背広のポケットから一枚の紙を取り出し、大家に渡す。

大家 これは・・・。

力丸 土地の権利書です。

小町 権利書！？

住人全員が大家の所に集まる。

力丸　なかなか話が進まないで先日、地主と話を付けて来ました。ここの土地はもう我々のものですよ。

大家　私は何も聞いてませんが。

力丸　話す必要もないと思っただんじやないですか？

信彦　まさか無理矢理！？

力丸　そんなことはしませんよ。実に平和的な話し合いでした。

小町　アンタの言ってる事なんか信用できるもんか。

力丸　しかし、そこに権利書があるのは事実です。

小町　何だい、こんなもの！

小町、権利書を大家の手から奪い、破く。

力丸　・・・・・・・・随分大胆なことをしますね。ただそれ・・・・・・・・コピーでして。

力丸、手品で新しい権利書を取り出す。喜ぶ茜と陣兵。

源十郎　それをよこせ！

源十郎、権利書を奪いに力丸の近くへ。力丸、抵抗せずそのまま紙を奪われる。

源十郎　こんなもの、こうしてやる！

源十郎、権利書を破る。歓声を上げる住人。

力丸　それもコピーです。

力丸、再び手品で権利書を出す。喜ぶ茜と陣兵。
源十郎、奪い、破る。歓声を上げる住人。

力丸　勿論、コピーです。

力丸、手品で権利書を取り出す。喜ぶ茜と陣兵。

源十郎　まさかそれも……。
力丸　さあ、どうですかねえ。

源十郎、奪って破く。住人達、力丸の方を見る。

力丸、手品で権利書を出してから。

力丸 コピーです。っていうか本物持ってくるわけ無いだろ気付けよ。

信彦 地主さんは納得した上で土地を売ったんですか？

力丸 勿論。通常の土地評価額の倍払うと言ったら了承してくれました。

信彦 倍!? そこまでしてこの辺りの土地を買い占めたいのですか？

力丸 お嬢からの命令なんですね。アナタ達もそうです。引越し代金ならコチラで持ちます。住む

所も用意しましょう。このボロアパートよりは快適に過ごせると思いますが？

小町 何言ってるんだい! 金の問題じゃないんだよ。私はね、このアパートが好きなんだ。この場

所で、皆でバカやって笑い合うのが好きなんだ。

信彦 その通りです。ここの住人は問題ばかり、トラブルばかりですが、他人の問題やトラブル

を自分の事のように考えられる人達なんです。大切な仲間です。この土地で、このアパー

トで、皆と一緒に暮らすことが重要なんです。

源十郎 さすが先生! いいこと言いますね! ちなみに、引越し代金は全額出るんですか？

力丸 勿論。

源十郎 お金の問題じゃないと言っているだろう! ちなみに、家賃はこれと同じですか？

力丸 ご希望とあらば安くしても構いませんよ。

源十郎 家賃の問題じゃないと言っているだろう! ちなみに、広いですか？

力丸 3LDKです。

源十郎 間取りの問題じゃないと言っているだろう！……ちなみに、
信彦 源さん、もう「ちなむ」の止めてもらえますか？

茜、スクツと無言で立ち上がる。全員、茜を見る。

茜、無言のままゆっくり源十郎に近付き、肩に手を置いて、

超ウケる。

茜 お嬢！

茜 だって力丸ばかりしゃべって全然つまんないんだもん。ズルイ！

力丸 そう言われましても……。

茜 はい、じゃあここからはボタンタッチ。

力丸 いや、お嬢……。。

茜 バトンタッチ。

力丸 お嬢。

茜 タッチ！

力丸 ですから。

茜 (泣きながら) 陣兵衛！力丸がイジめる！

力丸 分かりました、分かりましたよ！

茜 (スパッと切り替えて) ここからは私が話を進めます。まずは自己紹介させていただきます

しょう。私は、

大家 九頭竜茜。九頭竜組、組長の一人娘、ですよ。

茜 覚えてくれたの!?

大家 前にいらっしやったのが18日前。その時に7回目の自己紹介をしていただきました。7

回も自己紹介されれば嫌でも覚えます。

茜 力丸!この人達、私の名前覚えてくれたって!

力丸 そのようです。

陣兵 良かったですね、お嬢!

茜 テメエにや言つてねえんだよ!

陣兵 やっぱお嬢は自由や。

茜 茜はね、力丸みたいに甘くはないんだから。まずは・・・そのアナタ!

一青 え、お、俺ですか?

茜 ちよつとこつち来て。

一青 で、でも・・・。

陣兵 てめえ、お嬢の言うことがきけねえって言うのか!?

一青 分かりました。分かりましたから。

一青、後ろの方から前へ出て、茜の近くへ。

茜　じゃあ、いくわよ。心の準備はいい？・・・パンはパンでも食べられないパンは何？
一青　・・・はい？
茜　パンはパンでも食べられないパンは何！？

一青、住人たちを見て助けを求めるが、住人たちも困惑。

一青　えっと・・・。

茜　ブツブー。時間切れよ。

一青　あ、あの、はい！！

茜　時間切れって言うてるのに。特別なんだからね！！どうぞ！！

一青　フライパン！！

茜　ブツブー。

一青　ええ！？

茜　正解はアンパンでした。

一青　だってアンパンは食べられるじゃ・・・。

茜　茜、餡子嫌いなのだ！！

一青　あなたが食べられないパンってことですか！！？

茜　だから言ったでしょ。私は力丸ほど甘くないって。じゃあ次はねー。

携帯の音。力丸が出る。

力丸

（茜に）組長です。．．．はい。お疲れ様です。．．．ええ。お譲と一緒にいます。今、例のアパートに来ていますが．．．。いえいえ。大丈夫です。あ、代わります。

力丸、携帯を茜に渡す。

力丸

組長からお話があるそうです。

もしもし、パパ？どうしたの？え、今から？ううん。大丈夫だけど。焼肉！？行く行くー！！うん、分かった。じゃ、またあとでねー。

茜、力丸に携帯を返しながら、

茜

力丸、陣兵、帰るよ。

力丸

え？

茜

パパが焼肉食べに行こうって。

力丸

はあ．．．。では今日はここまでということでは？

茜

うん。．．．じゃ、またねー。

茜、住人に手を振って下手に去っていく。

力丸
陣兵。移動だ。

陣兵
あ、じゃ、ちよつとだけ時間いっすか？

力丸
・・・早くしろよ。

陣兵
ありがとうございます。

陣兵、小町に近付く。

陣兵
あ、お久しぶりです。

小町
どーも。

陣兵
これなんですけど。

陣兵、ポケットからネックレスを取り出す。

陣兵
すみません。業者から直接買ったんで、こ洒落た包装とかないんですけど、受け取ってください。

小町
お店に来てお金使ってくれた方が嬉しいんだけどねえ・・・。

陣兵 いや、そこはやっぱリケジメなんで。・・・スンマせん。

小町 じゃあ私もケジメだね。受け取れないよ。

陣兵 小町さんはいいじゃないですか。そんな大したもんじゃないので。

小町 大したもんじゃない物を私に!?

陣兵 そういう意味じゃなくてですね、その・・・。とにかくどうぞ。

小町 何度も言うけど、こういうのもらったって、立ち退いたりはいしないからね。

陣兵 分かってます。自分も地上げとは別と考えてほしいです。なので、どうぞ。

小町、なかなか受け取ろうとしない。茜が戻ってくる。

茜 何してんの!?! パパ待たせちゃうでしょ!! 茜が運転しようか!?

力・陣 今行きます!!

力丸 陣兵、行くぞ。

陣兵 じゃ、これ。

陣兵、ネックレスを強引に小町に渡す。

陣兵 失礼します。

力丸　じゃ、今日はここまでにしますが、また来ますよ。

力丸、陣兵、下手に去る。一青、その場にへたり込む。

一青　こ、怖かったー。

小町　何だい、だらしないねえ。いつも私たちに毒づきながら突っ込むくせに。

一青　だって相手はヤクザですよ？

信彦　向こうだって馬鹿じゃないんだ。手を出してきたりはしないから大丈夫だよ。しっかし、

今日も皆が見ている前で熱烈ラブコールでしたね。

小町　私をからかっているのさ。

大家　と、言いつつ、満更でもない小町さんであった。

小町　変なナレーションつけるのやめとくれよ。

大家　と、言いつつ、大切そうにプレゼントをしまう小町さんであった。

小町　何だい、こんなもの!!

小町、ネックレスを叩きつけようと構えるが止まる。暫くしてポケットにしまう。

大家　その方が小町さんらしいです。

小町　品は良さそうだからね。後で質屋にでも持っていくさ。

大家　・・・やれやれです。

源十郎　それよりどうするんです、大家さん。向こうには権利所が。

大家　分かってます。まずは地主さんに会って話をしていきます。仮にあの人たちの言っていることが本当だとしても、我々は今ここにこうして住んでいるんです。居住権がありますから、少しは抵抗できるはずですよ。

一青　また来るみたいなこと言っていましたけど・・・。

大家　大丈夫です。私がいる時に一青さんには指一本ふれさせません。

源十郎　大家さんが言うのと、説得力が違いますね。

大家　源十郎さん。

源十郎　すみません。

大家　とにかく我々は一致団結して対抗しなければなりません。頑張りましょう。

全員　はい！！

大家　それでは例のやつをいつときましょう。ファイト。

全員　ファイト！！

大家　ファイト。

全員　ファイト！！

大家　ファイ

信彦　ちよ、ちよっとすいません、大家さん。

大家　何でしょう。

信彦 音頭代わってもらってもいいですか？

大家 何故です？

信彦 え？えーと……。すみません、察して下さい！！

大家 私の音頭では盛り上がれませんか？

男3人 「そんなことはありません」と言えば嘘になります！！

大家 ・・・・それでは小町さん、お願いします。

小町 それじゃいいかい？気合い入れて行くよ！！ファイト！！

全員 ファイト！！

小町 ファイト！！

全員 ファイト！！・・・ファイト！！　　↓以下、歌詩

一回歌って、全員で拍手。ハイタッチなどをして盛り上がる。

大家 頑張りましょう。

全員 はい！！

場面転換の音楽。一青、上手に移動しスタンバイ。

小町、信彦、源十郎は上手へ去る。大家は下手へ去る。

下手からサラが入って来て横になる。雀の鳴き声。

一青、大きく伸びをして、ストレッチをする。

一青 うん。今日も良い天気だ。

一青 ストレッチを続け、その流れで下手の方を向いた時、サラが倒れているのを見つけてビクツとする。

一青 え、何？・・・誰？

一青、サラに近づく。距離を取りつつ様子を伺う。

一青 何？恐いんですけど・・・。え、死んでる？死んでるの？マジで？

サラ、少し動く。

一青 動いた！！動いたよ今！！え、生きてるの？何？どっいつのこと？

一青、周りを見渡すが誰もいない。サラ再び動く。顔が見える。一青マジマジとサラの顔を見る。しばらく考え、意を決して声をかける。

一青

．．．あのー。そんな所で寝てたらカゼひきますよ？．．．起きて下さい。カゼひきますって。もしもし？

サラ、起きない。

一青

まいったなー。あの、起きて下さい？

一青、サラをゆすって起こそう近づく。

小町、信彦、源十郎が入ってくる。

小町

一青ちゃんおはよー。

一青

わー！！さわってません！！まだ何もしていませんから！！いや、「まだ」ってそういう意味じゃないくて、何かするつもりだったわけでもなくですね！！

小町

朝っぱらからテンション高すぎだよ。

信彦

アレ？その子は？

一青

あ、あの、何か知らないですけど、倒れてました。

信彦

倒れてたっていつから？

一青

分かりません。俺が朝の体操しに来た時にはすでにいました。

小町

．．．まさか死んでるわけじゃないだろ？

全員サラに近づく。一瞬、顔を見合わせた後、小町がサラの体をゆすりながらこす。

小町　ちよつとアンタ。大丈夫かい？気分が悪いなら病院に連れってやるから。こんな所で寝

てたら余計具合悪くなっちゃうだろ？

サラ、ゆつくり目を覚ます。大勢の人がいることに驚き、後ずさる。

小町　ああ、ゴメンよ。驚かせちゃったかい。ホラ、アンタ達、少しさがつて。

一青、信彦、源十郎、上手へ少し移動。

小町　見た所ケガはしてないようだけど……大丈夫かい？

サラ　あの……。

小町　ん？

サラ　……ここはどこ？私は誰？

全員シーン

信彦 …… 分かりやす!!

源十郎 え?

信彦 えって、分かりませんか?

源十郎 どういうことですか?

信彦 ですから、こういうことですよ。……あなたの名前は?

サラ 分かりません。

信彦 どこから来たんですか?

サラ …… 分かりません。

信彦 何故ここで倒れていたんですか?

サラ 分かりません。

源十郎 こ、これは!!

一青 つまり!!

3人 どういうこと?

信彦、ズルツ。

信彦 分かりやすすぎて逆に分かりませんか? 記憶喪失ですよ。記憶喪失。

3人 記憶喪失!?

信彦 一時的なものかどうかは分かりませんが、何らかのトラブルに巻き込まれて記憶を失った

のかもしれませんが。

一青 記憶喪失なんて本当にあるんですね。

源十郎 で、彼女どうするんです？

小町 どうするって・・・あ、大家さん!! こっちこっち!!

大家、下手より入って来る。

大家 何でしょう。

小町 この子なんだけどね。

大家 小町さんのお店に入った新しい子ですか。可愛い子ですね。はじめまして。よろしくお願いします。このアパートの大家です。皆さんからは大家さんと呼ばれています。ですのでアナタも大家さんと呼んで下さい。さん、はい。

サウ 大家さん。

大家 大変素直な方ですね。

小町 大家さん、聞いとくれよ。この子、記憶喪失なんだって。

大家 はい？

小町 記憶喪失。

大家 そうですか。さ、私の自己紹介は終わりました。あなたの自己紹介をどうぞ。お名前は？

一青 大家さん!! あなたパーですか!?

大家 パーとはヒドイですね。

一青 記憶喪失だつて言ってるじゃないですか。名前が分からないんですよ。

大家 名前が？住所も？

一青 住所も。

大家 電話番号も？

一青 電話番号も。

大家 ・・・・・（サラに）本当ですか？

サラ はい。

大家 そうですね。それは大変ですね。では、ご機嫌よう。

源十郎 ちよつと大家さん、それだけですか!?

大家 はい？

源十郎 彼女、困ってるじゃないですか。

大家 そうでしょうね。

源十郎 力になってやりましょうよ。

大家 具体的には？

一青 家を見つけてやるとか!!

大家 どうやって？

小町 名前を思い出させてやるとか？

大家 現実的ではありませんね。

信彦

所持品から何か分かるかも!!

大家

何も持っていないようですが。とにかく私は地上げの件で忙しいんです。．．．アナタも、具合が悪いのでしたら3時間程ここにも構いません。病院に行くならこのお金を差し上げます。近場の大きな病院の地図を後で渡しますから。

大家、ポケットからお札を取り出して渡そうとする。

サラ

すいません。でも、受け取るわけには．．．。

大家

受け取って下さい。このままでは入居者皆さんの冷たい視線に耐えられません。

サラ

え？

大家

現在、「大家さんって意外とヒドイんだなあ」という電波を受信中です。私はこういうの結構にするタイプなんです。

サラ

はあ．．．。

大家

ですからどうぞ。

大家、強引に渡す。

大家

それでは。ご機嫌よう。

大家、下手へ去る。

源十郎 まあ、これはこれで一つの助け方ではありませんけどね。

小町 病院に行くなら私も付いて行ってやるから。

サラ ありがとうございます。

一青 ・・・・やっぱ警察に行くのがベストですかねー？

大家、走って戻ってくる。

大家 警察!?

一青 ビックリした!!

大家 一青さん、警察に行くんですか？

一青 え？ええ。やっぱ警察に行って調べてもらった方がいいですね。

大家 何て言うつもりですか。

一青 そりゃあ、事実をありのままに言いますよ。アパートの前にこの人が倒れていて記憶喪失だって。

大家 ダメです。

一青 え？

大家 却下です。

一青 どうしてですか!!

大家 そんなことしたら警察がここにくるじゃないですか。

一青 だって、それは……

大家 嫌いなんです。

一青 はい？

大家 嫌いなんです、警察。

一青 はい？

大家 こうしましょう。(サラに)あなたは今日から小町さんの養女です。

小町 コラコラ!!

大家 お母さんって呼んでみましょう。さん、はい。

サラ お母さん。

大家 大変素直な娘さんですね。

小町 ちよつと大家さん何言いだすんだい!! 私に子供なんて育てられるわけないだろ？

大家 大丈夫です。育てる必要はありません。もうこんなに成長してます。むしろ、これで老後
も安心です。

小町 若干リアルだからやめとくれ。

大家 じゃあ信彦さんの娘ということ。

信彦 無理がありますよ。どう見ても5つか6つくらいしか離れてないじゃないですか。

大家 じゃあ妹とか？お兄ちゃんって呼んでみましょう。さん、はい。

サウ お兄ちゃん。

大家 大変素直な

信彦 いい!! 着ボイスにしたいくらい、いい!!

大家 決まりですね。

一青 はい!! はーい!! 反対です!! ダメですよ!! 本当の兄弟じゃないんですから!!

信彦 冗談だよ。何熱くなってるんだ?

源十郎 ・・・・ホレましたか?

一青 違いますよ!! そんなんじゃないですね!!

小町 とうとう一青ちゃんにも春が来たかい。

一青 小町ママ!!

源十郎 そのまま冬になったりして。

一青 源さん!!

信彦 そう興奮しなさんなって。大丈夫。僕の部屋には招かないから安心したまえ。

大家 と、なると・・・。

大家、源十郎を見るが、

大家 ここはスルーして。

源十郎 何でやねん!!

大家 だって、アナタ、ちょっとこっち来て下さい。

大家、サラを源十郎の隣に立たせる。

大家 どう見ても人身売買のバイヤーと売られた娘ですよ？

信彦 おあ!!この2人が立つてるだけで警察が来そうだ。

大家 ですからダメです。とはいえ、一青に預けるわけにはいきませんから・・・どうしたものですかね。

サラ あ、すいません。ご迷惑をおかけしてしまつて。私もう出て行きますから。

小町 そうはいかないよ。何の解決方法も見つからないままどつかへ行かれたんじゃ心配で夢見が悪いだろ。

サラ でも、これ以上皆さんにご迷惑は、かけられませんから。

一青 あ、そうだ!!大家さんの所は!!?

大家 それは私に娘がいる年齢に見えるということでしょうか?

一青 そうじゃなくてですね。ホラ、さっき大家さん、地上げの問題で忙しいって言つてたじゃないですか。大家さんのお手伝いってことで。

源十郎 いいですね!!アパート内の掃除とか外観の掃除とか。大家さん楽できますよ!!?

小町 女性の部屋ならアンタも安心だろ?

一青 お手伝いさんとして雇う。その代わり住む所を用意する。もちろん記憶が戻るまでという期

限付きで。．．．どうでしょう？

大家 皆さん本気ですか？

小町 名案だと思っけどねえ。

大家 ここで却下したら私は人でなしでしょうか？

源十郎 少なくとも大家さんの株は大暴落ですね。

大家、一人一人の顔を見る。一青、小町、信彦、源十郎、うなづく。

信彦 警察に行かれるのは嫌。でも僕達は彼女を見捨てる事が出来ない。となれば方法の一つだと思ひますけど。

大家 ．．．．やれやれです。分かりました。(サラに)住む所は用意します。食事も約束します。その他必要な物は申請して頂ければ購入します。ただし、お給料は出ません。期間はアナタの記憶に戻るまで。それでよろしいですか？もちろん、アナタが私達のことを信用できるのなら、アナタがそうしたいのなら、ですが。

小町 そうだねえ。本人の意思が大切だね。

サラ あゝ．．．お願いできればありがたいです。

大家 そして、皆さんも．．．彼女に記憶が戻り、無事自分の家に帰り着くまでこのアパートから引越すことを禁じます。

源十郎 まあ、元々引越す予定もないですし、自分は別に構いません。

小町 うん。言い出したのは私達なんだし。

信彦 最低限の責任ってやつですね。

一青 でも、ここに居続けるってことはあの人達に抵抗し続けるってことですよね？

小町 一青ちゃん、男だろ？

一青 う．．．分かりました。

大家 というわけで、今日からアナタはこの住人です。仕事はアパートの管理業務、掃除や電球の取り換え。買い出し。荷物の代理受け取りなどです。

サラ 分かりました。頑張ります。

大家 では、このままでは不便なので仮にでもいいですから決めなくてはなりませんね。

源十郎 何をですか？

大家 彼女の名前です。

源十郎 ああ、そうか。確かに。何がいいですかね？

一青 あ、あの．．．「サラ」なんてどうでしょう!!

信彦 サラ？サラってまさか．．．。

一青 はい!! 超銀河新世紀伝説物語アルティメット魔法少女マジカル・キャロットに出て来るサブヒロインのサラちゃんです!! いや、一目見た時から似てるなって思ってたんですよ!! 実写化するなら絶対彼女ですって!! 声も声優の花園みちるさんよりも全然合ってると思います!!

信彦 まてまてまて、一青君。落ち着け。

一青 はい？

信彦 周りを見てみる。彼女を含め我々もドン引きだ。

一青 ええ！？

源十郎 どうやら一青君の春はマイナスからスタートのようですね。

小町 で、どうする？もちろん拒否することも出来るけど？

サラ あ、いえ。はい。そのお名前で。

小町 サラでいいのかい？

サラ はい。ちょっとビックリしましたが、良い名前だと思います。

大家 分かりました。では今からサラさんと呼ぶことにしますので宜しく。

サラ はい。あの、皆さん、ありがとうございます。本当にありがとうございます。

源十郎 いいんですよ。袖振り合うも多生の縁というじゃないですか。

信彦 自己紹介は追々でいいですかね。

小町 サラちゃん、お腹はすいてないかい？

サラ そういえば、少し。

小町 何か食べに行こうか。

信彦 いいですね。今日は皆休みですし、一緒に食べに行きましょう。

一青 やったあ！！

信彦 何も言っていないのにおごってもらう気満々だな。

一青 違うんですか！？

小町 先生、男だろ？

信彦 それを言われちゃ断れませんかー。

会話をしながら、サラ、小町、一青、信彦、下手へ去って行く。大家も行くこうとするが、源十郎が何か考え事をしているのに気付く。

大家 源十郎さんも行きましょう。

源十郎 え？ええ……。

大家 どうしたんです？

源十郎 あんまり……サラさんなんですけど……。

大家 はい。

源十郎 どこかで見たことある気がするんですね。

大家 サラさん？

源十郎 はい。気のせいかもしれませんが。

大家 それは源十郎さんのお仕事に関係することですか？

源十郎 自分は宮大工の源さんですよ。ここのアパートにいる限りは。大家さんが自分の話にのって頂けるなら話は別ですが？

大家 そういう駆け引きは好みではありません。

源十郎 失礼しました。……しかし、

大家 「宮大工の源さん」、は、おしゃべりじゃありませんよね？

源十郎 ……そうですね。

大家 さ、行きましょう。

大家、先に下手へ去る。後姿を見送り、続けて源十郎も下手へ去る。

場面転換の音楽。

信彦 どうしたんです、小町ママ。溜め息なんかついて。

小町 どうしたもこうしたもさ、この間話してた社長さんいるだろ？

信彦 ああ、ぼったくろうとした社長さんですよ？

小町 店では結構大きいこと吹いてたくせに、実際は雇われ社長でさ、権限なんかこれっぽっちもないのよ。

信彦 どうして分かったんです？

小町 うちに来て飲んでる時に、会社の経理の女の子が来て「もう今月は接待費で落とせませんので、自腹で飲んでください!!」って言って帰ってった。そしたらすぐに社長も帰っちゃってさ。

源十郎 それは恥ずかしい。

小町 5ヶ月分の家賃がパアだよ。

信彦 でも少しはぼったくったんですよ？

小町 そのぼったくったって言い方やめてくれない？・・・ちよつとね。

信彦 やっぱり。

小町 そういふ先生はどうしたんだい？

信彦 え？ああ・・・僕はいつものことですよ。

源十郎 小説ですか？

信彦 ええ。また担当者からダメだしされました。

源十郎 なんて言われたんです？

信彦 話が飛び過ぎだって。

源十郎 話が飛び過ぎ・・・。

小町 今度はどんな話なんだい？

信彦 いたって普通のお話ですよ。あるミカン農家の長男が新しい品種のミカンを作って、業界に名を残そうとする話です。

小町 おもしろそうな話じゃないか。それがボツになったのかい？

源十郎 ママさん。先生のお話は冒頭で判断してはいけません。冒頭だけなら先生はミリオンセラ―作家の実力を持っています。

小町 ・・・・先生さ、マラソン大会とかでスタートダッシュして、ゴールする頃にはビリになつてるタイプだろ。

信彦 勝手に決めつけないでください！！

源十郎 で、その後どうなるんです？新種のミカンは完成するんですか？

信彦 ええ。一応完成します。ですが皮が黒いミカンなんです。

源十郎 それ、腐ってるんじゃないですか？

信彦 いえ、熟れてくれば熟れてくるほど黒ずんでくるミカンです。

小町 嫌過ぎる・・・。

信彦 で、そのミカンなんですけど、水っぽいキャベツの味がするミカンでして、ミカンの味がしないんです。

源十郎 もう半分嫌がらせみたいなミカンですね。

信彦 当然全く売れなくて、業界にも不名誉な形で名が残ってしまいます。そして、そのことに腹を立てた主人公が世界に復讐を誓い、体を鍛え始めるんです。

小町 それだけの発明技術があれば化学兵器とか作れそうなのに、体鍛えちゃうところが凄いな。

信彦 武術を習うために中国へ。そしてそこで地底人と恋に落ちます。

源十郎 待った。

信彦 はい？

源十郎 もう一度言ってもらえますか？

信彦 地底人と恋に落ちます。

小町 どうやら担当者の判断は正しいようだね。

源十郎 ただ、ある意味読んでみたい気はしますが・・・。

信彦 まあ、僕はいつものことですけど、源さんは？源さんも溜め息ついていましたよね？

源十郎 ええ、それなんですけど。この間、京都に出張に行ったの覚えてます？

小町 ああ、3日くらい前だろ？

源十郎 その時に

信彦 ちよつと待った。

源十郎 はい？

信彦 その話、「何か壊しちゃった系」じゃないですよ？

源十郎 違います。

信彦 続けてください。

源十郎 その時に色々な所を見て回ったんですけどね、一冊の古い本が置いてあったんですよ。中を読むとたくさんのお歌が書いてありまして。でも古い本ですから、書いてある詩も古臭くてつまらなかったの、自分が新しく詩を書き足したら怒られちゃいました。

小町 そりゃ、古いとはいえ、人の本に勝手に書いたら怒られるだろ。

源十郎 良かれと思ったんですけどね。

小町 で、どんな詩なの？

源十郎 力作です。まず出だしが・・・明け方の月を見ていたら。

小町 明け方の月を見ていたら・・・うん。良い出だしじゃないか。

源十郎 明け方の月を見ていたら、焼きそばが食べたくなった。

小町 ん？

源十郎 お腹が空いたっていいじゃない。人間だもの。

小町 パクリじゃないか!! そんな落書きみたいな詩を書いたらそりゃ持ち主も怒るでしょ。

源十郎 持ち主っていうか、博物館の館長さんですけどね。

小町 館長？一体何の本に落書きしたの？

源十郎 万葉集

信彦 あんた、なんてことしたんだ!!

源十郎 両手にバケツ持って3時間も立たされました。

信彦 そんなもんで許してもらえるものなのか？源さんの話は相変わらず破壊力ありますよね。

小町 相変わらずって言えばサラちゃん。記憶戻らないねえ……。可哀そうに。

源十郎 もうあれから一ヶ月たちますよね。

信彦 その間ずっと大家さんに掃除やら洗濯やら買い出しで相当こき使われていますよね。

小町 あれは大家さんなりの優しさだよ。忙しい方が余計なこと考えなくていいだろ？記憶なんて思い出そうと頑張ってる思い出せるもんじゃないんだからさ。

源十郎 そうですね。でもサラさん、初めは何もできませんでしたが、要領いいから何でもこなせるようになってきましたよ。

信彦 明るくなりましたよね。よく話すようになったし。

小町 サラちゃんは品があるよ。良いとこのお嬢さんなんじゃないのかい？

信彦 だとしたら家は凄い騒ぎになっているでしょうね。

源十郎 でも、そういうニュースありませんし……。

小町 記憶が失くなるってのは怖いよね。サラちゃんにはいつまでも居てほしいけど、あの子のために本当の家に帰してやるのが筋ってもんだろうね。

信彦 これ以上、一青君が本気になる前に、ですか。

小町 一青ちゃんね・・・。

源十郎 あれからサラさんに良い所見せようと益々勉強頑張ってますよ。

小町 単純だねえ、男つてのは。

信彦 サラさんは一青君のこと、どう思ってるんでしょうね。

サラ、大家、下手から入ってくる。この間にサラはメイド服に着替える。

サラ 呼びましたでしょうか？

信彦 さ、サラさん！？何故にメイド服！？

大家 サラさんはいわば使用人です。それなりの格好をさせてみました。

源十郎 大家さん、グッジョブ！！

小町 サラちゃん！！かーわーいーいー！！

小町、サラを抱きしめる。そんな2人を見て、信彦と源十郎、顔を見合わせる。

信・源 かーわーいーいー！！

両手を広げてサラに近づくが大家が立ちはだかる。

大家 殺しますよ。

信彦 冗談ですよ。冗談。

信彦と源十郎、リターンしてスタスタと元の位置へ。

源十郎 メイド服を買いに出かけていたんですか？

大家 はい。最近掃除がいき届いていて、アパートがとてもキレイです。予想以上に助かっている
ので、ご褒美です。

信彦 メイド服が本人にとつて褒美になっているかは疑問ですけど。

サラ あの、この服、とても可愛いです。ありがとうございます。

小町 け、けなげ過ぎる。

大家 皆さんはお気に召しませんか？今日からサラさんにはこの格好でお世話してもらいます。

信彦 じゃ、じゃあこの格好でお茶入れてもらったり？

大家 はい。

源十郎 この格好で掃除してもらったり？

大家 はい。

小町 この格好で一緒に買い物に行ったり？

大家 はい。どうです？お気に召しませんか？

3人 最高です!!

大家 と、いうわけで、来月から家賃3千円値上げします。

源十郎 そんな!!

大家 サービス料というやつです。

小町 メイド服着ただけで3千円もアップするなら、私もメイド服着る!!

信彦 その言葉を

源十郎 キャッチ

大家 アンド

サラ リリース

小町 返さないでよ!!

大家 サラさん。どうやら家賃値上げ作戦は失敗のようですね。

サラ 残念です。また他の作戦を考えましょう。

信彦 共犯だったのか。

源十郎 これ、やっかいな管理人が一人増えてしまっただけじゃないですか？

一青、下手から入ってくる。

一青 ただいมาแล้ว。

小町 あ、おかえり一青ちゃん。今日は遅かったね。

一青 はい。友達と勉強しました。

小町 凄いね。私が学生の頃なんて進んで勉強なんかしたことないよ。

一青 さすがに疲れました。

小町 ならホラ。サラちゃん見てみな、疲れもぶっ飛ぶから。

一青 サラさん？

一青、サラを見る。

サラ おかえりなさいませ。ご主人様。

信彦 いい!! 着ボイスにしたいくらい、いい!!

源十郎 先生が興奮してどうするんですか。今のはあくまで一青君に……あれ、一青君？一青君？……立ったまま気絶してます。

小町 一青ちゃんには刺激が強すぎたんじゃないかい？

サラ 大家さんから元気になる魔法の言葉を教えられたのですが……。

小町 まあ、間違っちゃいないだろうけどさ。

一青 サ、サラさん、どうしたんですか、その格好!!

サラ 使用人は使用人らしくということで大家さんが買ってくれました。

一青 大家さん!! アナタは神だ!!

大家 崇め奉って頂いて構いません。

一青 はい!!

サラ 遅くまで勉強お疲れ様です。

一青 え、あ．．．いえ。学生の本分は勉強ですから。

サラ 一青さんは大学に行かれるんですか？

一青 そのつもりです。

サラ だからそんなに頑張ってるんですね。将来は何に？

一青 え？

サラ そこまで頑張って勉強しているので、何かやりたいものがあるのではないかと思ったのです
が．．．。

一青 な、なりたいものですか．．．。その．．．。大学に行くことが目標だったというか、
その．．．あ、いえ、違います!! その．．．。

小町 サラちゃん。アンタがいくつか知らないけどさ。今時の子は普通こんなもんだよ。将来のイ
メージがしづらい世の中になったっていうか．．．。でもま、私も似たようなもんな。

信彦 一青ちゃんくらの年で将来とかあんまり考えなかったかもね。

小町 そうか、小町ママにも学生時代があったんだもんな。

信彦 どういう意味!?

小町 何でもありません。続けて下さい。

いや続けるような話じゃないんだけどね。(周りの気配をさしって)．．．そうかい？私はさ、
高校の頃、学校の教師と付き合ってたんだよ。

源十郎 教師とですか!?

小町 もちろん、大つぴらには付き合えないよ?週末に相手の家に遊びに行くくらいで。私は結構本気だったんだけど、向こうはそうじゃなかったらしくて、校長の口ききでさつさと他の人と結婚しちゃった。そこから人生の転落の始まり。失恋が元で決まっていた演劇の専門学校もけって悪い連中とずっと遊んでたよ。その時にも何人かの男と付き合ったけど……私は尽くし過ぎちゃうのかねえ……。男の甘い言葉にさんざんダメされて、最後にはお金だけとられて捨てられてさ。「男なんてもういいや!!」って入ったのが夜の世界。立場が変われば分かるもんだねえ、人の言葉のウソ・ホントって。だから稼げる稼げる。ダメされて来た分、ウソが上手くなつて稼ぎまくったさ。でも、それにも疲れちゃってね。独立して、今の店をオープンしたんだよ。店名の「ちよつとだけよ」も、皆には笑われるけど、私が作ったお店で、私が私でいられるほんの少しの時間ってことでつけた名前なんだよね。だから、うちで働く女の子達には、本音でお客と向き合えて教育してるんだよ。イヤなら客の席につくな!!お客を力モとして見ていいのはオーナーママである私だけだ!!ってね。……先生はどうなんだい?昔から小説家になりたかったのかい?

信彦 え、僕ですか?僕は……まあ、そうですね。小町ママが男に翻弄された人生だったように、僕は得意なことで好きなことのギャップに苦しんだ人生だったかもしれない。

サラ ギャップに苦しんだ人生、ですか?

信彦 はい。……僕は理数系が得意でして、計算や科学式なんかはちよつと勉強すればすんなり頭に入ってきました。それよりも苦手だったのは国語です。特によくテストに出てきた

「作者の言いたいことは何か？」って問題が苦手で一回も正解したことがありませんでした。どんなに一生懸命考えても微妙にズレてるというか、方向性が違う回答ばかりしてしまいました。．．．でも、僕の興味のあることってそういうものばかりなんですよね。正解が一つじゃないものが好きなんです。小説を書きながら、これを読んでもくれる人はどんなことを考えてくれるんだろうって思うとモチベーションが上がるんです。でも．．．。

サラ でも？

信彦 今の自分が果たして小説家といえるのかどうか．．．。最近はやっと自信がありません。一青 先生は文才はあるんですから。話さえまとまったらそれで充分イケると思うんですけどね。信彦 そんな話で面白いのかい？もっと意外性があった方が．．．。

一青 先生のは意外性じゃなくて、脈絡がないんです。

信彦 なっ!?

小町 源さんは？夢とかあったのかい？

源十郎 自分は．．．夢というより悩みでしょうか。

サラ 悩み．．．。

源十郎 自分は今まで何かをなしとげたことがありませんでした。いつも壁が立ちほだかると逃げてしまっていたんです。自分には無理だと決めつけて．．．。でも、ある人のウワサを聞いて自分を変えなくちゃと思ったんです。

サラ ある人のウワサですか？

源十郎 はい。その人はいつも弱者の味方で、困ってる人の為に自らの体を犠牲にして戦場に立つ

傭兵でした。鉛の弾が飛びかう中で、その人は拳銃などを一切使用せず一本の細い棒だけで敵を倒していったそうです。

サラ 憧れの存在ということですか？

源十郎 そうですね。その人のように強くありたいと思いました。

サラ 実在の人物なんですよね？

源十郎 もちろん実在します。

サラ ……日本の方ですか？

源十郎 え？あ、はい。そうですけど。

サラ あ、だから日本で働いてらっしゃるんですね。

源十郎 え？

サラ 憧れの人のいるこの日本に来て、同じ空気を吸いながら仕事をしたかった、と。

源十郎 え？

サラ え？

源十郎 え？

サラ え？源十郎さんは日本に帰化して……。

信彦 おっと、源さんへの質問はそこまでだ。

サラ す、すみません。

大家 サラさん。一青さんに渡すものがあつたのではないですか？

サラ あ、そうでした。一青さん、これなんですけど。

サラ、ポケットからお守りを取り出し、一青に渡す。

一青 お守り……ですか？

サラ はい。大家さんから来年受験とお聞きしまして。

一青 ありがとうございます!!俺、頑張ります!!

サラ でもあまり無理はしないで下さいね。

一青 いえ、大丈夫です!!このお守りさえあれば2日や3日寝なくても頑張れます!!

小町 良かったじゃないか一青ちゃん。どれどれ、見せてみな。

小町、お守りを見る。

小町 サラちゃん。

サラ はい。

小町 お守りとかにあんまり詳しくないでしょ。

サラ はい。……え、何かマズかったですか!?

小町 これ、安産のお守りなんだけど。

サラ え!?

一青 大丈夫です!!俺、正解をバンバン産みますから!!

信彦

あんまり上手いこと言えてないぞ？

一青

ほっといて下さい!!

周り、一青をちやかしたり、サラをちやかしたり盛り上がる。

一青黙っている。周り、一青が黙ってるのに気付き、静かになる。

一青

・・・俺、小学生の頃「将来の夢」って作文に「ヒーロー」って書いたんです。小さい頃って言っても小学6年の時で、クラスで非現実的なこと書いたの俺だけでした。当然皆から笑われました。「ガキくさい」って。でも俺「将来の夢」って言われてもそれしか浮かばなかったんです。ずっと考えて、どんなに無い頭回転させても「ヒーロー」って言葉しか出てこなかったんです。恥ずかしい話ですけど、今でもそうです。「夢」って聞かれたら「ヒーロー」って言葉しか浮かんできません。皆に笑われてから「夢」とかって考えるの恐くなっちゃって・・・。小町ママはさっきフォローしてくれましたけど、他の奴らは結構将来のこと考えてます。先のこと考えた上で進路決めてます。本当、俺、何やってんだらうって・・・勉強しててむなしくなる時もあるんですね。

大家

なる程、それでは勉強してても成績は上がらないわけですね。

小町

ちよっと大家さん。

大家

ここでフォローしてなぐさめることが一青さんの為になるとは思えません？

小町

そうかもしれないけど言い方ってあるだろ？

一青 いえ、大家さんの言う通りです。目標もないのに頑張れるわけありません。俺が今までや

ってきた勉強って、頑張ってるフリなんだと思います。フリじゃ成果なんて出るわけないですよね。

サラ すみません！！私が余計なことを聞いたせいで、思い出したくないことを・・・語らせてしまいました。

一青 あ、サラさん。それは違います。

サラ え？

一青 今、話してて思ったんです。「あ、俺、本当はこの話誰かに聞いてほしかったんだな」って。

ずっと溜め込んでた思いを吐き出すことが出来てスッキリしたと言ってるんですから。それに、そのおかげで普段は聞けないような皆さんの過去を知ることが出来ました。

サラ 本当にすいません。ただ私は皆さんのことを

源十郎 知りたいと思った？

サラ ・・・・はい。

小町 それがね、私達は嬉しいんだよ。サラちゃんが私達のこと知りたいと思ってくれるのは私達のことを好いてくれてるからだ。記憶喪失のサラちゃんが、自分のことじゃなく、まず私達の事を知ろうとしてくれている。それが嬉しいんだよ。

サラ ・・・・私も・・・。

小町 ん？

サラ 何も言わなくても私の気持ちをキチンと受け止めて頂けるのは嬉しいです。

信彦 輪をかけて人の良い連中が集まっていますからね。

源十郎 類は類を呼ぶと言いますから。きっとサラさんもこっちサイドの人間です。

サラ はい!!

大家 そうです。忘れていました。サラさんに一つ教えていないことがありました。

サラ 何でしょう？

大家 歌です。

サラ ・・・歌、ですか？

一青 そうだ!! ここ一ヶ月アレやってませんでしたね!!

大家 このア・パートのシンボルソングです。トラブルや問題があった時に皆で歌うんです。この歌を覚えればまた一つ。サラさんを信用することにします。

源十郎 大家さんはまだサラさんを仲間と認めてないんですか？

大家 私は皆さんほどお人良しではありません。そう簡単に仲間とは思えませんね。いくつかの段階を踏まなければ。

サラ ・・・分かりました。教えて下さい。

大家 いいですか? ・・・ファイト。戦う君の唄を、戦わない奴らが笑うだろ。ファイト。冷たい水の中を。

源十郎 ちよ、ちよと大家さん。

大家 何でしょう？

源十郎 歌ですよ？

大家 はい。

源十郎 歌わないと。

大家 ・・・・歌っていましたが？

源十郎 え？

大家 歌っていましたが、何か？

サラ （大家のマネをしながら）ファイト。戦う君の唄を、戦わない奴らが笑うだろう。ファイト。

大家 ダメですね。もっとリズムに乗らないと。こうです。ファイト。戦う君の唄を。

サラ ファイト。戦う君の唄を。

大家 違います。よく聞いて下さい。ファイト。

小町 大家さん、ごめん。多分、このやりとりエンドレスになりそうだから止めていい？

大家 ようやくノッてきた所ですが。

一青 ここまで「ノッて来た」って言葉が似合わない人も珍しいよな・・・。

サラ これは応援の歌なんでしょうか？

信彦 まあ応援の歌ではあるんだけど・・・小町ママ。ずっと前に言ってた小町ママの解釈が

正しい気がするんですが。

小町 ああ、あの話かい？

信彦 ええ。

小町 あくまで、私の考えなんだけどね。人ってのはさ、案外その瞬間、瞬間を一生懸命生きて

るもんさ。あの時あーしておけば良かったとか、こーしておけば良かったとか思うことも

あるけど、それは過ぎてから思うんであって、もし仮に、その時にあーしておけば良かったことが出来たとしても、時間が過ぎれば新しい「あーしておけば良かった」が生まれると思うんだよね。人ってのは常に頑張ってるんだよ。何んだかんだ言ってる頑張ってる。だからね、この歌の「ファイト」は「頑張れ」じゃないんだよ。そんな生易しいモンじゃない。「戦え」。戦って戦って、戦い続けるって意味のファイトだと私は思ってるのさ。

サラ

なかなか過激な応援歌だろ？

小町

それでは一度歌ってみましょう。いきます。ファイト。

大家

大家さん！

全員

・・・・・・どうぞ。

大家

それじゃ腹から声出していくよ！

小町

はい！

全員

ファイト！

小町

ファイト！

全員

ファイト！

小町

ファイト！ファイト！　　以下、歌詞。

全員

2回ほど歌う。歌い終わった後、全員でハイタッチ。

大家、センターに出てきてポーズ。

大家
イエーイ。ノッてきたぜベイベ―。

全員、呆氣に取られるが、直ぐに大家と同じポーズを取り、

全員
ベイベ―。

場面転換の音楽。サラを残して全員下手へはける。
入れ違いで茜、カ丸、陣兵が入ってくる。

茜
だーかーらー!! 何度も聞くけど、アンタは何なのって!!

サラ
はい。私はサラと申します。

茜
名前はもう何度も聞いたわよ!!

サラ
このア。パート使用人です。

茜
それも何度も聞いた。

サラ
一か月程前からお世話になってます。

茜
それも聞いた!!

サラ
えーと……後は何を？

茜
何なのそのメイド服!! カワイイ格好しちゃってさ!! 皆のアイドルってわけ!! うらやましいじゃ

ない!!

陣兵

お嬢、ひっかかったのそこですか?!

茜 だって皆のアイドルって私のポジションでしょ?!これじゃキャラがかぶっちゃうじゃない!!

ない!!

陣兵

そう思ってるのは多分お嬢だけだと思うっす……。

茜

ちよつとカワイイからって、そんな服着て皆に甘やかされてるんでしょ。

サラ

私はアナタの方がカワイイと思います。

茜

バ、バババババカ!!あ、当たり前じゃない!!私は皆のアイドルなんだから!!

サラ

はい。

茜

「はい」じゃないわよ!!何、それって余裕?内心じゃ勝ってると思ってるんでしょ!?

サラ

いいえ。本当にカワイイと思います。

茜

えー?そうかなあ?カ丸、この子が、カワイイって!!

カ丸

……良かったですねえ。(サラに)そんなことより。

茜

そんなこと……。

カ丸

住人の皆さんはどちらへ?お話があるんですが。

サラ

一青さんは現在学校です。信彦さんはパチンコ。小町さんは美容室。源十郎さんは美術館へ行ったのでおそらく破壊して帰宅すると思われます。大家さんは「ちよつと出てくる」と言ってお出されました。皆さんそろそろ帰ってくると思いますがお待ちになりますか?それとも「伝言を承りましょうか。」

陣兵　なんか、皆のアイドルというよりも、ガッツリ使用人として使われてる気がするんですけど。
力丸　まあ皆さんが留守なら仕方ありませんね。アナタで結構です。この書類にサインして頂けま

か？

陣兵、書類を取り出し、力丸へ。力丸、サラへ書類を渡す。

サラ　これは何の書類ですか？

力丸　アパートの補修工事の契約書ですよ。大家さんから頼まれてるんです。

サラ　では申し訳ありませんが、大家さんのサインをもらって頂けますか？私のサインでは権限がないと思います。

力丸　ああ、そんなに難しい契約じゃないので大丈夫です。

サラ　それでしたらそもそも契約書がいららないのではないのでしょうか？

陣兵　アニキ、このメイド意外とガードが固いつすよ。

力丸　このアパートに来て初めて地上げの交渉してる気がするな。

サラ　地上げ……ですか？話は皆さんから聞いています。ヤクザの一人娘で破天荒なお

嬢さんと、小姑みたいに口うるさい、のべつとしたしゃべり方するアニキとその他一名がいるって

!!

陣兵　おいおい!!

サラ　その他一名はドMだって。

カ丸 あいつら普段俺らのことどんな目で見てたんだ？

サラ その書類は地上げに関するものですね。絶対にサインしませんから。

茜 あんたねっ！！

全員、茜を見る。

茜 皆のアイドルのクセに頭もキれるってどういうことよ！！ズルイじゃない！！
カ丸 お嬢、すいません。ちょっと黙っててもらっていいですか？

一青、小町、信彦、源十郎が下手から入ってくる。口々に「ただいま」

サラ あ、皆さん。おかえりなさいませ、ご主人様。

小町 ー。やっぱりそのお出迎え何度聞いてもサイコーに……。

住人、ヤクザの人がいることに気付き、慌てて上手へ。

ヤクザと住人で相對する。

小町 あ、あんた達また来たの！？

信彦 ーこ最近姿を見せなかったからあきらめたのかと思っていましたよ。

陣兵　ここの一月はな、お嬢の大学のレポートに付き合わせられてたんだ。頭悪くてこの世界に入っ

たのに、今じゃ相対性理論だつて5時間は語れるぞ。

一青　ある意味うらやましい……。

力丸　とにかく。前回の話し合いから時間がたってしまいました。土地の権利書はこちらにあるんで

す。この書類にサインしてもらえますか？この書類にサインしてもらえれば、お約束した通り引越した金も引越した先のマンションもご用意致します。ただし、先着順です。最後までサインしなかった方の面倒までは見れませんのであしからず。

茜　おお、ね、力丸、今かけ引きつぽいこと言った！？

力丸　お嬢、かけ引きですから、かけ引きであることを明確化するのやめてもらえますか？

陣兵　アニキ、すぐそついうこと言うから小姑つぽいって言われるんですよ。

力丸　そうだお前ら、俺のこと普段小姑つぽいって思ってたのかつて、何の話してた！！

サラ、住人達の前に出て来て、両手を広げる。

サラ　権利書のこととはよくわかりませんが、私達はここに住んでいるんです。ここにいます。他

に移るつもりはありません。お引き取り下さい。

力丸　おかしいですねえ。あなた権限ないんですよ？だったら断る権限もないはずだ。

サラ　それは……。

大家、下手から入って来る。

大家
戻りました。

サラ
お帰りなさいませ、女神様。

全員シーン

一青
言わせてるんだ!! 大家さん日頃自分のこと女神って言わせてるんだ!!

大家
殺しますよ?

一青
何であの人の脅し文句いつも「殺す」なんですか!?

大家、ヤクザの人がいることに気付く。

力丸
どーも。

陣兵
邪魔してます。

小町
ちよつと、大家さん。こつちこつち。

小町、手招きで大家を呼ぶ。大家スタスタと住人の方へ。

大家 何も危害は加えられてませんか？

源十郎 はい。サラさんが盾になってくれました。

大家 サラさんが？

源十郎 はい。

大家 そうですか。で、今日は何て言ってるんです？

信彦 立ちのくことに了承する契約書にサインしろって。

小町 あ、でも大丈夫だよ。サラちゃんがキッチンと断ってくれたから。

大家 サラさんが？

サラ このアパートは私にとって守るべき大切な場所です。

大家 恐くはなかったのですか？

サラ もちろん、恐いです。でも……居場所がなくなって皆さんと一緒にいられなくなる方がもっと

恐いです。

大家 ……そうですか。

陣兵 あ、あの!!

力丸 ……どうした？

陣兵 ちよつとすんません。あの……小町さん。

小町 ……何だい？

陣兵 この間のネックレス、どうでした？してくれてます？その……今見えてる範囲で

ないようなんですけど。

はして

小町 ああ……アレかい？

陣兵 はい。きつと似合うと思うんすよ。してくれてます？あ、それとも大切すぎてし

まって

あるとか！

小町 あ、あれは……。

陣兵 はい！！

小町 あのネックレスは……。

陣兵 はい！！似合うと思うんすよ！！

小町 あれは……失くしちゃったよ。

陣兵 え？

小町 失くしちゃったよ。あんな小さなネックレス。もつと大きなダイヤでも付いていれ

ば良

かったんだ。知らない間にどっかいつちまったよ。

陣兵 失くした……。

小町 何だい。私にくれたもんだろ？私がどうしようと勝手じゃないか。

陣兵 ……はい！！そうっすね！！

力丸 おい陣兵。

陣兵 すんません！！ケチって小さいネックレスなんかプレゼントして！！今度はでっかい

ダイヤの

付いたやつにするっすから！！

茜 違うじゃん陣兵、あのネックレスは。

陣兵 いいんす！！ケチった自分が悪いんす！！あんな小さなネックレスが小町さんに似

ずないです!!自分の勘違いでした!!すみません!!

茜
陣兵!!

陣兵 大丈夫です!!自分、これまで以上に頑張るっすから!!小町さん、待って下さい!!今度は失くさない位デカイダイヤの付いたやつプレゼントしますから!!

小町 ……私は片づけが苦手な女だからね。それも失くしちゃうかもしれないよ。

陣兵 その時は!!

小町 ……その時は!!

陣兵 その時は………いいっす!!その時はまた金貯めて新しいの買いますから!!もっと大きいダイヤのやつ。

茜
陣兵……

陣兵 お嬢に付いて行くっす!!だから稼がして下さい!!

茜 任せときな!!

陣兵 お嬢!!

茜
陣兵!!

茜と陣兵、腕をクロスする。

茜・陣 というわけでこちらにお返しします。

力丸 お前等、本当に自由だな。(大家に向き直って) まあ実際の所、俺も素直にこの書類にサイ

ンしてもらえとは思ってませんでしたけどね。

大家 私は今、地主の所へ行ってきました。あなた達、まだ約束のお金を払ってないそうですね。支払いも終わってないのに請求書だけかざしてどうするつもりです？まだ売買契約は完了してないんですよ？

力丸 だが手付けは払ってます。

大家 手付けなら現状はまだ仮契約の段階でしょう。

力丸 それが何か？ほかに競合がないなら同じことでは？

大家 ところがですね・・・いるんですよ。競合が。

力丸 何？

大家 私です。私がこの土地を買うことに決めました。

全員 ええ！？

力丸 バカ言うな。こっちは地主の了承を得てるんだぞ！？

大家 あなたたちの購入金額の倍払うと言ったら商談が成立しました。

力丸 俺たちの倍だと！？手付けも払えないだろうが。

大家 ところがどっこい。一括で払ってきました。これが銀行で発行してもらった支払証明書です。

大家、支払証明書を力丸に見せる。

力丸 何でただの大家がこんな大金持つてるんだ！！

陣兵 ニセモンじゃないですか？

茜 んゝん。これは・・・。

力丸 本物だ。

大家 本当はこんな派手なことをしたくなかったんですけどね。事、ここに至っては仕方ありません。それにあなた達は地主さんに嘘をついていましたね。あの方が地上げに協力することをするはずがないと思っていましたが。

力丸 嘘なんてついてませんよ。俺は「この土地を守りたい」と言ったんです。土地は守りますよ？ 建物は知りませんが。

大家 地主さんはそうは受け取っていませんでした。

力丸 どう受け取るかは、その人次第ですよ。そこまで責任は持てません。

大家 が、それもこれも「これ」で解決です。

大家、支払証明書を取る。

陣兵 アニキ！！

茜 力丸！！

力丸 あわてるな。まだ手がないわけじゃない。（大家に）確かに支払いが完了しているのはそちらですが売買契約はこちらにも結んでるんです。これは2重契約だ。そちらに引く気がないなら我々は地主に追い込みかけますよ？ 契約違反だって。それでもいいんですか？

陣兵 おお!! イヤミな言い方がますます小姑っぽい!!

大家 往生際の悪い人達ですね。・・・・いいでしょう。ここまできたら私も今日中に決着をつけたいと思います。3本勝負です。先に2ポイント先取した方がこの土地を手に入れるということではないですか?

茜 やったろうじゃない。望む所よ!! 何で勝負するの!?

大家 まずは・・・・相撲対決です。

陣兵 ぬはははは!! 相撲だと!?! 町内ちびっ子相撲3年連続横綱の俺様に勝てると思っているのか!?! まずは1勝いただきだな!!

大家 源十郎さん。行って下さい。

源十郎、後手から、のそつと出て来る。

力丸 まてまてまて!! それは反則だろ!!

陣兵 まあ、任してください。相撲はガタイじゃありません。見てて下さいよ。いっちょ稽古つけてやりますから。

茜 きゃゝ陣兵頑張って!!

信彦 それでは行司は僕が。

信彦、センターに来る。上手に源十郎。下手に陣兵。

お互いに睨み合い、離れて構える。程ほどの緊張感。

信彦 見合って、見合って!! はっけいよい残った!!

二人、同時に立合い組む。陣兵、組んで止まった瞬間投げられる。

陣兵 もう一丁!!

陣兵。すぐに立ち上がり、源十郎に突進。受ける源十郎。
次の瞬間、あっさり投げられる。

陣兵 まだまだ!!

陣兵、おきあがり突進。投げられる。

陣兵 どうした、どうした!!

陣兵、起き上がり突進。投げられる。グツタリする陣兵。
ゆっくり起き上がる。

陣兵 ありがとうございます。・・・・・（力丸達に）口ほどにもない奴でしたよ。

力丸 ヘロヘロじゃねえか。

茜 アンタが稽古つけられてどうすんのよ!!

源十郎、後方へ戻る。大家、前へ。

大家 文句はありませんね？これでコチラの1勝。あと1回勝てばこの土地は私のものです。次の

勝負は・・・。

茜 ちよつと待った!!

大家 ・・・何でしょう？

茜 一方的に勝負の内容をそっちが決めるのはズルくない!?

力丸 おお! お嬢がマトもなことを!!

大家 分かりました。次の勝負の内容はそちらが決めて下さい。

茜 じゃあ、一発ギャグ対決で!!

力丸 お嬢く〜!!

陣兵 ぬははははは!! 一発ギャグだと!?! お笑いの本場で生きてきた俺様に勝てると思っているのか!?! 今度こそ1勝いただきだな。

大家 源十郎さん、行して下さい。

源十郎、後方から、のそつと出て来る。

力丸 まてまてまて!!絶対反則だろ!!ギャグやる前からすでにキャラが面白すぎるじゃねえか

!!っていくか、お前、本当に日本人・・・

信彦 おっと、源さんへの突っ込みはそこまでだ。

大家 それではこちらから先にやらせて頂きます。・・・源さん、お願いします。

源十郎、無言でセンターへ。客席の方を向く。

全員、シーンと静まり返る。次の瞬間。

源十 だっちゅゝの。

源十郎、胸に谷間を作りながら「だっちゅゝの」のポーズ。

力丸 あいつとんでもない飛び道具出しやがった・・・場の空気は完全にアウェイだが準備はい

いか陣兵!!

陣兵 は、はあ・・・。

力丸 心折れてんじゃねえよ。こっちが言い出した勝負で負けるわけにはいかねえだろうが!!よ

茜

し行け、

力丸!!

力丸、ピタツと止まる。ゆっくり茜の方を振り返り、「俺ですか？」とジェスチャーで確認。
うなずく茜。

力丸 いやいやいや、無理ですよ!! あのとにどんなことをやったって、絶対すべりますって!!

陣兵 やっぱアニキは男っす!!

力丸 お前、後で覚えておけよ。

茜 力丸のお茶目なところも見てみたいぞ!!

力丸 わかってます? 次のギャグに地上げがかかっているんですよ?

茜 うん!! 頑張ってる!!

力丸 いろんな意味でどうなっても知りませんからね。場合によっては、良い大人がここでマジ泣

きするかもしれませんよ?

茜 それはそれで見てみたい気もするけど、でも、頑張ってる!!

力丸 言う側は楽だよな・・・。

力丸、しゅしゅ、センターへ。客席の方を向く。まわりシーンとする。

力丸 ハイテンションから素!!

力丸、渾身の一発ギャグ。全員、関心したように。

全員 おお。

力丸 お前等、それ一番やつちやいけない反応の仕方だろう!!

大家 これなら神の声を聞くまでもありませんね。お望みとあらば2周目をやりますか？

力丸 いや、いい。。。

茜 力丸何やってんのよ!! 地上げ出来なくなっちゃうでしょ!!

力丸 じゃあなぜ、対決を一発ギャグにしたんです。

茜 楽しいから!!

力丸 お嬢。。。

サラ あの。。。

茜 何？

サラ 素朴な疑問なんですけど、この辺の土地を買い占めてどうするんですか？ 広さはかなりありますから何でも建てる事が出来るとおもいますが、駅からも遠いし。。。

陣兵 そういえば俺らも、地上げした後の計画聞いてませんでしたね。お嬢の勢いに乗せられてやってきましたけど。

茜 ふっふっふ!! ききたい!!?

陣兵 はい、教えてほしいっす。

茜 カ丸も聞きたい？

カ丸 はい。ぜひお願いします。

茜 地上げが成功したら、なんと!!

陣兵 なんと!?

茜 遊園地を作るつもりだったのだ!!

全員、シーン。全員、耳に手を当てて。

全員 はい？

茜 遊園地!! メリーゴーランドとか、観覧車、コーヒークップにジェットコースターなんか
もつくって、その名も九頭竜ランド!! 入場料200円!! 安っ!!

カ丸 えーと、あの、お嬢、このことはオヤジは・・・。

茜 くん。知らないよ。「地上げするっ!!」って言ったら、「頑張れ」って応援してくれた。

カ丸 そ、そうですか・・・。

陣兵 でも入場料100円は安すぎないっすかねえ？

茜 そのほうがいろんな人が来てくれて楽しいじゃん。楽しい場所作って、誰でも遊べるように
したらさ、みな、少しは感謝してくれるでしょ？

カ丸 まあ、そうですね。

茜 そしたらさ、恐くないってわかってくれるかなって。そしたらさ、みな、一緒に遊んでくれ

るかなって。

力丸 お嬢・・・。

茜 結構良いアイデアだとおもったんだけどねえ。でも、ま、いつか。十分楽しかったし、
ありがとね。力丸。陣兵。これも組長の娘に生まれた宿命ってやつだぜい!! また他の方法
考えなきや。じゃあ、そういうことで。

茜、下手に去ろうと移動。

サラ あの!!

茜 ・・・・何?

サラ お友達が欲しかったんですか?

茜 ばば、ばか!! ちがうわよ!! なにきいてたの!! い、いつも力丸や陣兵の面倒ばかり見
ているから、遊園地作って遊びたいなって言ってるのよ!! い、いるわよ友達ぐらい。10
0人いるわよ!! 108人いるわよ!! 多すぎて困ってるぐらいなんだから!!

陣兵 何で今、煩惱の数言ったんですかね?

力丸 いっぱいいっぱいなんだろう。

サラ では109人目にしていただけませんか?

茜 は!?

サラ 私、友達いないんです。ですから、友達になってください。

茜 なにいつてんの!?!と、友達になるってどういうことなのかわかってる!?!友達なんて面倒くさいだけなんだから!!一緒に映画観たり、その後でカフェでお茶したり、頼んだケーキをシェアして食べたり、ウインドウショッピングしたり、ガールズトークで盛り上がったりして、面倒くさいんだから!!め、めんどくさ・・・い。

茜、遠くを見つめてボーっとする。

力丸 今、かなりウットリした目をしてらっしゃいますが。

茜 な、なによ!!今日、初めて会っていきなり友達って。ま、まだお互いのこと知りもしないのに。よくそんなことが言えるわね!!

サラ はい。ですからこれからお互いのことを知っていきましょう。

茜 もってる資格と長所と短所。志望動機と出れる曜日も、教えなさいよね。

力丸 お嬢、バイトの面接じゃないんですから。

サラ はい。今度お会いするときまでに用意しておきます。とりあえず今日は名前だけ。私の名前はサラです。

茜 名前はさっき何度も聞いたわよ!!こ、これ以上ここにいたらバカがうつるわ!!力丸!!陣兵

陣兵 はい!!

陣兵、下手へ去る。茜、下手へ移動。

力丸
お嬢。

止まる茜。

力丸 俺も陣兵も、お嬢のことは「お嬢」としか呼んでません。このまま帰りますと、彼女——
サラさんはお嬢の名前知らないままですが。

茜、サラに背中を向けたまま黙っている。

力丸 お嬢の名前、教えなくてもよろしいんですか？

茜、黙ったまま。陣兵戻ってくる。

陣兵 お車の用意できました。

茜、しばらく黙っている。茜、さらに背中を向けたままポツリと。

茜 茜。

サラ ——茜さん、ですか。

茜 九頭竜茜！覚えときなさいよ！100人目！

茜、サラの方を向いて台詞を言った後、下手へ走り去る。

力丸と陣兵、少し笑う。力丸、住人達に軽く会釈して去る。

陣兵 じゃ、小町さん。失礼します。

陣兵も会釈して去ろうとする。

小町 あ、あのさ、

陣兵 はい？

小町 さっきの事なんだけど……。

陣兵 さっきの事ですか？

小町 いや、何でもない。

陣兵 ……そうっすか。失礼します。

陣兵、下手へ去る。

一青　こ、怖かった。

信彦　一青君はあの人達が来ると本当に心配を消すね。

一青　だって怖いじゃないですか。

サラ　大丈夫です。入居者の方は使用人である私が守ります。

一青　（ウツトリしながら）サラさん！

信彦　コラコラ。

サラ　それに地上げの問題は女神様のおかげ・・・

大家　大家で結構です。

サラ　大家さんのおかげで解決しましたし。何より・・・

源十郎　友達になりましたね。

サラ　はい。

サラ、頭痛がするのか、少し頭を押さえる。

サラ　そういえば、さつき茜さんに「友達になって下さい」と言った時、以前にも誰かに同じ事を言った事があるような気がしました。

小町　え、それって・・・

一青 記憶が？

サラ そうだと良いんですけど……。本当にそんな気がしたただけなので違うかもしれません。

源十郎 大丈夫です。いつかきつと思いい出せますから。

サラ そうですね。ありがとうございます。

大家、サラに近付く。

大家 「この場所を失うことの方が怖い」そう仰いましたね……。もし私が帰ってこなかった

らどうするつもりだったんです？

サラ 分かりません。

大家 分からない？

サラ 私は非力ですから暴力で来られたら盾ぐらいにしかありません。でも、何が何でも何とかするつもりでした。その……。具体的な方法を聞かれても思いつきませんけど……。

大家 やれやれです。

サラ でも、暴力で来る様な人達じゃないって思ったんです。

大家 そうですか。

サラ すみません。今後は皆さんをキッチンと守れるように、今日から筋トレします！

大家 頑張りましたね。

サラ ……え？

大家 良く頑張りました。

サラ ・・・・はい。

大家 それでは行きましょう。

信彦 え？行くってどこにですか？

大家 買い物です。

信彦 買い物？

大家 友達と遊びに行くのにあんな格好で行かせるつもりですか？身内として恥ずかしすぎます。

一青 あんな格好って、これは大家さんが（大家がジロツと見る）すみません。

信彦 大家さんも良いトコありますね。

大家 何言ってるんです。お会計はお願いしますね。

信彦 な!!

小町 ついでに何か食べて行こうじゃないか。

信彦 ちよつと！

大家 私は大金を使っちゃってスツカラカンです。

小町 そういや、あんな大金どうしたんだい!?

大家 ・・・・内緒です。

一青 でもこれで怖い思いをしなくてよくなったんですよね？

源十郎 それは分かりませんよ？地上げではないですけど、また来るでしょうから。

一青 え、来ますかね？

信彦 来るさ、必ず。

小町 そーそー。

住人、話しながら下手へ移動。サラ、皆を見ている。

大家 どうしたんです？主役が遅れてどうするんですか。行きますよ。

サラ ・・・はい！！

音楽が流れ、日々が流れていくエチュード。

メインはアパートの住人だが、たまにヤクザ3人組も出てくる。ただし住人とヤクザの絡みは無し。あくまでそれぞれが生活を送る。3シーン程行ったら音楽フェードアウト。同時に照明が暗くなる。それに合わせるように舞台真ん中にサラだけが残り、他の住人は舞台後方へ。横一列。明りはサラだけ。喧騒の音。サラ、頭を押さえる。上手からレオ、下手からノエルが入ってきて住人達の列に加わる。喧騒の音が下がったら、

レオ こっちにはいないぞ！！そっちはどうだ！！

ノエル こっちにもいません！！

レオ きちゃんと確認したんだろうな！！

ノエル もちろんです！！まさかもう城から逃げたんじゃ！！

レオ バカな!! まだ我々の動きには気付いていないはずだ!!

ノエル しかし!!

レオ 落ち着け!! 一番の罪を隊長がかぶって下さってるんだ。このまま見つかりませんでしたと報告するわけにはいかないんだぞ!!

ノエル 分かってます。しかしどこにもいないんです!!

レオ 一人一人バラバラに探しても見落としがあるかもしれん。ここからは2班に分かれて行動する!! いいか、必ず見つけ出せ!!

全員 はっ!!

レオ、上手へ。ノエル、下手へ去っていく。同時にマーサが入ってくる。

マーサ ユリア様!!

サラ 急にメールをもらってびっくりしました。ここに来るのも久し振りですね。

マーサ ここに来るまでの間で誰かに見られませんでしたか!?

サラ メールに書いてあったじゃないですか。誰にも見付からないように二人だけの秘密の場所へ来てくれたって。

マーサ 本当に誰にも!?

サラ 後ろもきちんと確認しながら来たので大丈夫です。どうかしたんですか? 城の中が騒がしいようですが。

マーサ ユリア様、お願いがあります。

サラ 何です？

マーサ 今すぐ逃げてください。

サラ え？

マーサ あちらの扉から出て付きあたりを右に。噴水の道を左に進んで城の敷地から出てください。
車を待たせてあります。

サラ マーサ、何を言ってるの？

マーサ 時間がないんです。急いでください。

サラ 一体どうしたんです？説明してちょうだい。

マーサ お願います！！

サラ マーサ！！

マーサ 時間がないんです！！

サラ ・ ・ ・ あなたが冗談でそんなことを言う人ではないことは分かっています。場内の騒ぎと
何か関係があるんですか！？ 離国が攻めてきたとか！？

サラ、下手へ移動しようとするが、マーサに止められる。

マーサ 今城内に戻るのは危険です！！

サラ でも、お父様とお母様が！！

マーサ 危険です!! ユリア様はあちらの扉から逃げてください!!

サラ 逃げるなら皆で一緒に逃げなきゃ!!

マーサ いいえ、城内に行かせるわけにはいきません!!

サラ 離しなさい。・・・離しなさい!!・・・離して!!

マーサ、ビクツとしてサラを離してしまう。サラ、下手へ去ろうとするが、

マーサ 国王は、なくなりました!!

サラ ・・・え?

マーサ お二人ともなくなりました。

サラ お父様とお母様が?

マーサ はい。

サラ 敵国から暗殺されたのですか!?

マーサ いいえ。暗殺ではありません。

サラ では!?

マーサ クーデターです。・・・ユリア様・・・我々がクーデターを起こしました。

サラ マーサ・・・。・・・マーサ・・・。マーサ!!

マーサ 申し訳ありませんユリア様。あなたが友と呼んでくれたマーサはもういないものと思ってください。

サラ クーデターの首謀者は誰なんです？

マーサ 陸軍第8部隊隊長……。

サラ カイトが！？なぜ！！

マーサ それは私の口からはお話できません。

サラ ……カイトはお父様の全てを知っているのですか？

マーサ え？

サラ お父様は完璧な人ではありません。普通の人と同じように良い所があれば悪い所もあります。ですが国王としての責任から逃げることなく一生懸命お仕事をされていました。私の父は……国王はクーデターを起こさねばならぬほど無能な国王でしたか！？お父様の全てを知った上でのクーデターなのですか！？

マーサ ……私の口からはお答えできません。

サラ ……ときなさい。直接カイトに話をします。

マーサ 危険です！！カイト隊長はユリア様を殺すつもりです！！

サラ クーデターを起こしておいて、なぜ私を助けようとするんです。

マーサ それは！！……クーデターの中にユリア様の殺害まで入っていることを知らされていませんでした。私はユリア様の命だけは守りたいんです！！

サラ マーサ。私は……私の命と同じようにお父様とお母様の命も考えてほしかった。

マーサ 時間がありません!! もうすぐこの場所も見付かってしまいます!!

サラ 私はカイトと話をします!!

マーサ お願いです!! どうかお逃げください!!

サラ 父と母を殺されて、私一人だけ逃げろと!?

マーサ ユリア様お願いします!!

サラ 私はカイトと刺し違えてでも王家の務めを果たします!!

マーサ ユリア様!!

マーサ、サラの両肩に手を置く。「キーン」という短い音。サラ、ゆっくりうなだれる。

マーサ このような方法でユリア様の自由を奪う無礼をお許してください。ユリア様・・・あなたは
今から全ての記憶を失います。名前も地位も幼い思い出も全て、消えてなくなります。・・・
日本がお好きでしたね。チケットを手配してあります。どうかそこで新しい人生を歩みく
ださい。どうかそこで幸せになってください。・・・どうかそこで・・・たくさんの友達を
作ってください。

マーサ、ユリアを上手方向へ向ける。

マーサ 今から私が時間を稼ぎます。三秒後に移動を開始してください。

マーサ、ユリアからゆっくり離れる。

マーサ・・・無事を祈ります。

マーサ、下手の方へ移動。レオとノエルが下手から入ってくる。

レオ マーサ、こっちはどうだ!?

マーサ こっちにユリア様はいなかった。

ノエル 移動しながら逃げてるんですかね。やっぱり敷地の外を探したほうが

マーサ まだ東側の搜索が終わってないはずだ。そちらへ向かえ!!

ノエル しかし・・・。

マーサ 早くしろ!!

ノエル はっ!!

ノエル、下手へ去る。

レオ 俺たちはどうする?

マーサ カイト様に現状の報告だ。行くぞ。

レオ、下手へ去る。マーサ、一回だけ上手を振り返り、下手へ去る。残されるサラ。舞台明るくなる。

小町 サラちゃん!! 今日ウチの女の子急に休みになっちゃってさ。ヘルプに入っておくれよ。ダメダメ。ダメですよ!! サラさんにそんなことはさせられません!!

小町 あんたはサラちゃんの保護者かつつの。

源十郎 じゃあ皆でヘルプに行きましょう。

小町 ちよつと、誰でもいいってわけじゃないんだからね!!

信彦 源さんは用心棒ってことで。

大家 私は呼び込みでもしましょうか。

全員 大家さんが!?

小町 やめとくれ!! 店のイメージが悪くなっちゃう!!

サラ 分かりました。皆一緒ならお手伝いします。

小町 そうかい? 助かるよ。あとはその他のお荷物に何の仕事させるかだね・・・。

大家 何か言いましたか?

小町 いーえ、何でもありません。じゃ、サラちゃん、頼むね。・・・サラちゃん? サラちゃん大丈夫かい?

サラ （頭を押さえながら） ユリア……？

小町 え？

サラ あ、何でもありません。はい、頑張ります!!

日々が流れていく音楽。フェードイン（先程の曲の続きから）。再び日々が流れていくエチュード。曲の終りまで続く。
最終的には住人全員が出ている状態。次の場面がそのまま始まる。

信彦 これで一通りは終わった感じですかね。

小町 そうだねー。後はあそこにまとめてあるゴミを捨てに行くだけかな？

サラ あ、それは私が。

一青 手伝います。

サラ ありがとうございます。

源十郎 今年の大掃除は楽でしたね。

小町 サラちゃんが小まめに掃除してくれてるからさ。助かるよ。

サラ いえ、それが仕事ですから。

信彦 しっかり毎年の事なので麻痺してましたが、アパートの大掃除を住人にやらせるってのも
凄い話ですよ。

大家 何言ってるんです。一年間お世話になった住まいに感謝をこめて綺麗にする。すばらしい

ことじゃないですか。

信彦
本音は？

大家
業者にお願いと高いじゃないですか。

信彦
そんなことだろうと思いましたが。

小町
ま、気分がすっきりするのは間違いないけどね。さて、少し休憩するかい？

源十郎
そうですね。そうしましょう。

数名は立ったまま。数名は座り込む。

一青
あゝ、朝早かったから眠いですよ。

信彦
油断したら寝ちやいそうだね。

サウ
お茶を用意してありますけど。

小町
お!! さすがサウちゃん、気が利くね!!

サウ
あ、いえ、思いついたのは大家さんです。

源十郎
大家さん!! 自分は大家さんのことを誤解してました!!

一青
俺も!!

信彦
僕もです!!

大家
・・・たかがお茶でそこまで感動するって・・・。皆さんは私の事をどういう目で見てる

んですか。

サラ では、持ってきますね。

サラ、お茶を取りに下手へはける。

源十郎 普段体を動かしていないので良い運動になりますね。

信彦 確かに。僕この間、図書館で高い所の本取ろうとして手を伸ばしたら、背中彎っちゃいました。

一青 背中彎るって、よっぽどですよ。

小町 私も。この間・・・一昨日かな？ビールケース持ち上げようとしたら腰がグキって。あれは痛かったー。

大家 小町さんの場合、運動不足というよりも肉体的限界が近付いているのではないですか？
小町 大家さんの直球は内角をえぐってくるねー。

サラ、戻ってくる。全員サラからお茶を受け取る（サラはお盆を持っているだけ。皆は上に乗っているコップを取っていく）。

一青 う、うまい!!こんなに美味しいお茶を飲んだのは初めてです!!

サラ 大袈裟ですよ。

一青 本当ですって。

信彦

いや、でも本当にお茶を入れるのが上手くなりましたよ。お願いした当初なんて水1に対してお茶つぽが9でしたからね。喉が渴いていたので一気に飲もうと思ったら、湿ったお茶つぽがドバっと口の中に入ってきて、危うく窒息しそうになりました。

サラ

す、すみません。

信彦

いいいえ。良い幽体離脱をさせていただきました。

源十郎

半分死んだるやん!!

一青

ちよ、ちよつと待ってください。・・・先生、サラさんのお茶、飲んだことあるんですか？

信彦

え、あるよ？何度も。

一青

何度も!?

信彦

あれ？一青君はもらってないの？サービスオプションの一覧表。

一青

オプションの一覧表!?! って何ですか!!

信彦

これなんだけど・・・。

信彦、ポケットから一枚の紙切れを取り出す。一青、それをひったくるように取る。

一青

サービスオプションの一覧表・・・お茶くみ、千円。モーニングコール二千円。手料理一万五千元。かつこ材料費別途。子守唄3曲、二万円。スマイル0円。かつこ笑い。何ですかこれ!!

大家

サラさんには給料がありませんから。稼ぐための手段です。

一青 大家さん、あなたは悪魔だ!!

大家 忌み嫌って頂いても構いません。

源十郎 モーニングコールが気になりますね。どうやって起こしてくれるんですか？

信彦 指定した時間に携帯に電話して起こしてくれるんです。台詞が3種類ありまして、まずスタンダードなのが・・・

サラ 指定の時間になりました。起きてください。おはようございます。今日も一日頑張りますよう。

信彦 これに対してスイートコースが。

サラ 時間だよ？早く起きて。もう、寝ぼすけさんなんだから。早く起きないとポンポンだぞ!!
信彦 やっぱいい!!レコーディングスタジオで録音してMP3に変換後、スマホでリピート再生したいくらい、いい!!

小町 もう一つのパターンは？

信彦 もう一つはハードコースです。私は頼んだことありません。・・・どうぞ。

サラ (大家の真似をしながら) 早く起きないと殺しますよ。殺しますよ。殺しますよ。いいんですか？殺しますよ。3、2、1・・・。

全員 いーやーだー!!

一青 気になる!!1の後、何されるのかスゲー気になる!!

小町 気になるって言えばさ、サラちゃん。あんたまだ何も思い出せないのかい？

サラ ・・・・そうですね。何か思い出せそうな感じはあるんですけど、ハッキリとは。

一青　　そういえば頭痛の回数、多くなってますね。

小町　　いや、サラちゃんが今のままでいいならいいんだけどね。私たちはずっと居てほしいと思
ってるからさ。ただ・・・。

信彦　　そうですね。ご家族も心配しているでしょうし。

源十郎　　もう半年が経つんですね。

サラ　　何かきっかけがあれば思い出すかもしれませんけど。

一青　　きっかけですか・・・。

下手から茜と力丸、陣兵の声がする。

茜　　ちよつと待ってて!! いったん帰る!!

陣兵　　ここまで来て何言ってるんですか、お嬢!!

茜　　だって力丸が悪いんだよ!! 到着してから言うことないじゃない!!

力丸　　俺はただ、今日のラッキーカーラーは青ですよって教えただけですけど。

茜　　そういうことは服選ぶ前に教えてよ!! 帰って着替える!!

陣兵　　日が暮れちゃいますよ。今日朝六時から洋服選んでたんですよ!?

茜　　帰るんだから離してよ!! はーなーせー!!

茜、両脇を力丸と陣兵に掴まれズルズルと入ってくる。

信彦 これはまた随分と賑やかな登場ですね。

小町 何の騒ぎだい？

陣兵 あ、小町さん!! お久しぶりです!!

陣兵、小町に挨拶するのに茜の腕を離す。こける茜。

力丸 おいおいおい・・・。

陣兵 あ、小町さん、これ・・・。

陣兵、持ってきた花束を渡す。

小町 私の事は諦めたんじゃないのかい？

陣兵 え、何ですか？

小町 別に・・・。

陣兵 受け取ってください。

小町 ・・・・お店に花が欲しかったところだからね。受け取ってやるよ。

陣兵 はい!!

小町、陣兵から花束を受け取る。陣兵、茜たちの方へ戻る。

大家 お久し振りですね。地上げの件はもう話がついていると思いますが？

力丸 分かってる。今日はその話じゃない。

大家 では？

力丸 さ、お嬢。

力丸、茜を前に出そうとするが、茜は抵抗する。

陣兵 お嬢、大丈夫ですって。さんざ練習したじゃないですか。

茜 練習なんかしてない!!

力丸 そうですね。練習なんかしてませんよね。ただほら、今日はお嬢から大事なお話があるじゃないですか。

茜 大事な話は無い!!

じゃ何しに來たんだってことになっちゃうじゃないですか。お嬢、ここは勇氣を出して。

陣兵 お嬢、頑張りましょう!!

茜、無言でサラの方へゆっくり2歩前進するが、くるっと振り返って、陣兵のお腹へパンチしながら

茜 やっぱり無理!!

陣兵 「ぐお」と悲鳴をあげながら倒れる。

力丸 大丈夫か陣兵!?

陣兵 やっぱお嬢は自由やゝ（バタツと気を失う）。

力丸 お嬢!!

茜 だって怖いんだもん。

力丸 ・・・分かりましたよ。じゃあ俺が言ってきます。

茜 え!?

力丸 俺たちはお嬢に付き合って結構な時間割いたんです。

茜 うっ・・・それは有り難いと思ってるよ。

力丸 なのに何の成果もなく帰るのは納得できません。なのでお嬢が直接言えないなら、俺が言ってきます。

力丸、サラの方へ行こうとしたとき、茜、力丸にチョークスリーパーをかけて止める。

茜 ちよっと力丸待ってよ!!

力丸　だって言えないんですよね。

茜　だめ!! 自分で言うの!!

力丸　じゃあ言ってくださいよ!!

茜　だめ!! 無理!!

力丸　だから俺が言いますって!!

茜　だめだって言うてるでしょ!!

力丸　こういうのは勢いが大事なんです。遅くなればなるほど言いづらくなるものなんですよ。
茜　分かった、分かったからちよつと待ってて。

茜、力丸の首をグキツ。その場に倒れる力丸。

信彦　・・・あんたら何やってんだ？

茜　ちよつと力丸、邪魔。

茜、力丸の体を押して陣兵の近くへ。茜、力丸と陣兵の上半身を起こして気付けをする。
目を覚ます2人。

茜　・・・言ってくる。見守ってて。

陣兵　大丈夫っすよ、お嬢。

力丸 絶対うまくいきますから。
茜 ……うん。……。言ってくる。

茜、意を決してサラの元へ。

サラ あ、茜さん、こんにちは。

茜、ピタッと止まり、力丸と陣兵の方を向く。2人、小声で助言。

力丸 ただの挨拶ですよ!!

陣兵 早く返して!!

茜 うむ。苦しゅうないぞよ。

2人 お嬢さん!!

サラ お久し振りですね。

茜、力丸と陣兵の方を向く。

力丸 なぜいちいちこつちを見るんです!?
陣兵 会話ですよ、会話。

茜 かたじけない。

2人 お嬢さん!!

サラ あの、

茜 待った!!

サラ え?

茜 先に話しかけるの無し!!

サラ 分かりました。・・・どうぞ。

茜、黙る。下を向く。意を決して前を向き、サラに近付く。サラの顔の目の前までくる。暫くそのまま。

サラ あの・・・近くないですかね。

茜、サラの顔をジッと見た後、「フン!」と言って力丸たちの方へ。その途中、わざとらしく封筒を落とす。

力丸 お、お嬢さん・・・。

陣兵 全然練習が活かされてませんっすよ。

サラ あの・・・落としましたけど。

茜 あら、落し物じゃない。何なの？それ。

サラ 見てもいいんですか？

茜 さ、さあ・・・いいんじゃないかしら。

サラ、封筒の中を見る。

サラ 映画のチケットですね。あ、これ、私の見たかったやつです。

茜 （真剣に喜んで）え！？ そうなの！？ （我に返り）お、落し物はねえ、拾った人のものだって

法律で決まってるのよ。

陣兵 え、そうなんすか！？

力丸、陣兵の脇腹を殴る。陣兵、「ありがとうございます」と言いながらダウン。サラ、住人を見る。

信彦 そうですねえ。確か新しく条例が出来たとか出来ないとか・・・。

茜 とにかく拾ったのはあんたなんだから、それはあんたの物よ！！

サラ そうなんですか？嬉しいです。

茜 チ、チケットは何枚あるのかしら？

サラ えーと、あ、2枚あります！！

一青 あー!!じゃあ、じゃあ、じゃあ……僕と行きませんか？

源十郎、スリッパで一青の頭をたたく。一青、無言で源十郎におじぎ。源十郎もおじぎ。

サラ 茜さん。

茜 な、何よ。

サラ 一緒に行きませんか？

茜 え、いいの!?

サラ はい。茜さんさえよろしければ是非。

茜 えー、どうしようかな。私はこれでも結構忙しいんだから。友達多いし。私と遊びに行きたがってる人、今順番待ちなんだけど、サ、サラがどうしてもっていうなら優先してあげないこともないわよ？

サラ はい。どうしても茜さんと一緒に映画に行きたいです。

茜 じゃ、じゃあさ、一緒に映画行くからさ!!その後、お茶してくれる？

サラ はい。

茜 じゃあ、お茶した後のお散歩は!?

サラ えっと、それは……。

サラ、大家を見る。

大家 映画が2時間として、お茶が1時間。移動含めて3時間30分以内なら構いませんが？

小町　ちよつと大家さん、何言つてんだい。

源十郎　そうですよ。もっと時間をあげて下さい。

大家
しかし、まだ大掃除が終わってませんから。

一青な、なら、僕ゴミ捨て全部やります。

小町 私も、玄関一人でやるよ。

源十郎 自分も、さつきサボった物置のそうじやりますから。

全員 それは当たり前だ。

しかし、このような前例を作ることはあまり好ましくないのですが。

一青 大家さん！！

……そういえばサラさんに仕事を頼むの忘れてました。

小町 仕事って、大家さん……。

大家（力丸に）あなたの事務所に地主と契約した書類まだありますよね？

力丸
あゝあゝ

大家 済んだこととはいえ契約書が2通もあるのはよろしくありません。サラさん取ってきて下さい。

その書類はどこに？

力丸 書類は……九州の事務所にある。

え!? ウチの組九州に事務所なんかありましたっけ?

力丸、陣兵のわき腹にボディブロー。陣兵「ありがとうございます。」

大家
遠いですね。

力丸
ああ。今日中には帰ってこれないな。

陣兵
いや、大丈夫ですよ。だって書類はここに、

陣兵、ポケットから書類を出そうとするが、力丸、ボディブロー。

陣兵「ありがとうございます」

大家
と、いうことですので、大変かもしれませんが、取って来て下さい。

サラ
……はい!!

小町
やっぱり大家さんだねえ……。

大家
小町さん達といると調子が狂います。

小町
そりやすまないんね。

茜
行こ!!?

サラ
はい。行ってきます。

信彦
あ、サラさん、待った。

サラ
はい?

信彦、サイフを出して丸ごとサラに渡す。

信彦 今日から一年間、毎日目覚ましをお願いします。これは前払いです。

サラ え？でも。

信彦 お友達と遊びに行くなら必要でしょ？

茜 そんなの全部私が出すのに！！

信彦 逆の立場で考えて下さい。よっかかる人は心から楽しめないと思いますよ。対等の立場なら尚更。

茜 う……そうかもだけど。

力丸 お、お前……。

男全員 格好良すぎだろ。

信彦 いや、なーに。大したことじゃありませんよ。はっはっは。……コースは常にスイートをお願いします。

サラ 分かりました。頑張ります！！

力丸 よし、陣兵、車回してこい。

陣兵 はい。

陣兵、下手へ走り去る。

茜 でも良かった。サラも見ただった映画で。

サラ CMで見ました。面白そうだなーって。

茜 あれねー、ドキドキするよね!!

サラ 茜さんとは趣味が合うのかもしれないね。

茜 ストップ

サラ え?

茜 さん付けやめてくれない?あと、敬語も。

サラ ええ?!

茜 茜でいいよ。私だってサラって呼び捨てにしてるし。

サラ 私は別に呼び捨てで構いませんけど。

茜 なら、私も呼び捨てでいい。

サラ でも、私の方が年下かもしれないし。

茜 年上かもしれないよ?

サラ そうですけど。

茜 じゃ一回練習してみよ?いきなり呼び捨ては難しいかもしれないから……茜って言った後に「さん」を飲み込んでみて。

サラ 「さん」を飲み込む……やってみます。……茜、さん。

茜 まだ微妙に聞こえる。

サラ
茜……

サラ、「さん」を飲み込んで呼びかける。妙な間が出来る。

茜
へ、返事がしづらい……。

力丸
サラさん、すみません。これでもお嬢、勇気ふりしぼって話してるんです。サラさんもお嬢に一步近づいてやっちやくれませんか。

サラ
はい。……頑張ります。あの、行きます。

茜
おう。

サラ
……茜。

茜
おう!!サラ。

サラ
……おう。

サラ、茜、2人で「テヘ」と笑う。

力丸
お嬢にこないいお友達が出来ると言ってる……。

茜
ちよつと、力丸、アンタ泣いてんの!?

力丸
な、泣いてませんよ!!陣兵の奴、遅せえな。どうしたんすかね?

茜
あーごまかしてるー。

住人達も笑い、幸せな空気。

源十郎の携帯が鳴る。相手を確認してこっそり出る。

源十郎 はい、もしもし。……今は周りに人がいるので、後で掛け直します。……え？もう一度言ってください。……本当ですかそれは！？

源十郎の声に、全員注目する。

源十郎 何故入国の許可が降りたんですか！？王女！？……あ！！

源十郎、サラの方を向いて

源十郎 どこかで見たと思ってました。そうか、あなたは……。

下手奥から陣兵の声。

陣兵 逃げて下さい！！

全員一斉に下手を見る。陣兵が走って入って来て、力丸の前で倒れる。

力丸
陣兵!!

陣兵
アニキ、全員連れて逃げて下さい。

力丸
どうした?!

陣兵
いきなりやられました。早く逃げて下さい!!

茜
陣兵、大丈夫!?

陣兵
時間がありません。妙な奴らが来ます。

力丸
妙な奴ら!?

陣兵
とにかく逃げて下さい!! 早く!!

その光景を見ていたサラ、頭をかかえずくまる。

小町
サラちゃん!?

一青
サラさん!!

下手よりレオ、ノエル、マーサが入って来る。手には警棒。

力丸
何だお前ら!?

力丸、レオの前へ。レオ警棒で力丸の頭を殴り、舞台後方へ飛ばす。

陣兵
アニキ!!

茜
力丸!!

陣兵
テメエ!!

陣兵、レオへ向かつて行く。ノエル、下から上へ陣兵の体をかち上げて同じように舞台後方へ飛ばす。レオ、ノエル、マーサ、住人とヤクザ3人をにらみつける。大家、源十郎、小町、信彦、一青とサラを守るように前へ。力丸、陣兵、起き上がり茜を守る。

小町
何だいアンタら!! 私達はね、人からうらまれるようなことはしちやいないよ。い

きなり上がりこんで暴力を振るうなんてどういうつもりだい!?

マーサ
黙れ。お前達が余計な抵抗をしなればすぐに終わる。

信彦
ヤクザ同士の抗争というわけではなさそうですね。

力丸
知らない連中だ。

信彦
武器を持つてるとはいえ相手は3人。この人数で一氣に勝負をいけますか。

源十郎
危険です!! そんなに甘い相手ではありません!!

大家
私が出ます。

信彦 待つて下さい大家さん。……（不穏な空気を感じ下手を向く）何だあの人は！！

カイト、下手から登場。マーサ、レオ、ノエル、敬礼。

カイト お久し振りです、ユリア様。

カイト、受信機のような物を見る。

カイト レオ、お前の計算では誤差 500 mではなかったのか？

レオ 申し訳ありません。

カイト 本国に戻ったら至急改善しろ。これでは実戦で役に立たんぞ。
レオ はっ！！

カイト、サラの方に向き直り。

カイト 失礼しました。さ、ユリア様、行きましょう。

小町 ユリア様って……サラちゃんのこと言ってるのかい？

信彦 あなた達は誰なんです！？

カイト ……そうか。記憶を失ってらっしゃるんですね。

カイト、マーサを見る。目をそらすマーサ。

カイト　ですが我々には関係のないことです。大人しく一緒に来て頂けますか？そうすればせめて母国で処刑してさしあげましょう。

茜　処刑！？

小町　サラちゃんは何したって言うのさ！！

カイト　王族の国家逃亡は処刑。当然の措置です。

茜　王族……サラが！？国家逃亡ってどういうこと！！？

信彦　情報が多すぎて訳が分かりませんが、一つだけ確かなことがあります。

力丸　このまま素直に引き渡すわけにはいきませんね。

大家　皆さんは動かないで下さい。かえって邪魔になります。ここは私が。

カイト　さあ、こちらへ来て下さい。周りの人間を巻き込みたくなければ。

サラ　あの、私……。

カイト　早くしないと犠牲が増えるだけです？このように。

カイト、合図を送る。レオとノエルが力丸と陣兵を警棒で殴り倒す。一人になる　茜。カイト、茜に近付く。茜動けない。カイトゆっくり腕をのびし顔面をつかむ。　そのまゝ力

まかせに床にたたきつけ、茜の背中を踏みつける。カイト、右手を出し、レオはその手に銃を渡

す。銃口を茜に向ける。

マーサ 隊長!!

カイト ノエル、俺の後ろに立つな。

ノエル あ、申し訳ありません。

ノエル、立ち位置を舞台後方に。

カイト 記憶と同時に王族の誇りまでなくなりましたか!?!ご自身の意志で同行願いたかつ

たのですが仕方ありませんね。

茜 この私を足げにするなんて良い度胸してるじゃない!!撃てるものなら撃ってみなさいよ!!

源十郎 いけません!!この人達にそのような挑発は危険です。

カイト 撃てないと思ってるのか?

カイト、再度銃口を茜に向ける。

茜 サラ!!逃げて!!

サラ でも!!

茜 でもじゃないわよ!!いいから行きなさい!!

陣兵　お嬢!!

茜　これでも組長の娘だからね!! いざって時には命かける覚悟は出来てんだ!! 皆もいいからサラを連れて逃げて!!

レオ　逃がすと思っているのか?

レオ、住人に近づく。

源十郎　大家さん、サラさんと一青君をお願いします。

源十郎、前へ出ようとした時、先に小町が動く。

小町　あんた達がサラちゃんとういう関係なのか知らないけどさ、ちよつとやりすぎやないかい!?

なんじ

レオ　ユリア様を変な名前で呼ぶのやめてもらおうか。

レオ、小町に平手打ち。助けに入った源十郎もレオに警棒で殴られる。

陣兵　小町さん!! テメエ!!

陣兵、レオに向かって行くが、逆に殴られる。小町、源十郎起き上がりレオの方へ
住人達に近付く。信彦が前へ。

ノエル、

信彦 勝負しましょう!!

ノエル 勝負?

信彦 ジャンケンです!! ジャンケンで勝負です!! 分かりますか、ジャンケン!!

ノエル この状況でジャンケンってお前本気で言ってるのか?

信彦 少しでも勝てる見込みがある方法ですから。

ノエル 面白い。

信彦 いきますよ。ジャンケン!!

ノエル おい!!

ノエル、急に大声を出す。信彦ビックリしてグーのまま。ノエル、パーを出す。

ノエル 俺の勝ちだな。

信彦 ひ、卑怯じゃないですか!!

ノエル ここぞという時には気合を入れるタイプだね。不可抗力だ。

信彦 勝負数を決めてませんでした!! 3回勝負です!!

ノエル いいだろう。……お前のクセは分かった。

信彦 ジャン、ケン!!。ポン!!

信彦、グーを出す。ノエルはパー。

信彦 さ、3回先に勝った方が!!
ノエル ジャンケン、ポン。ポン。ポン。ポン。

4回たて続けにジャンケンする。全て負ける信彦。

信彦 そんな…。

ノエル だから言っただろ? クセは分かったって。

レオ ノエル!! 何を遊んでいる!!

ノエル どいてもらおうか。

茜 何してるのサラ!! 早く逃げなさいよ!!

サラ でも!!

ノエル どけと言ってるだろ。

ノエル、警棒をかける。その瞬間後ろから力丸が突進してノエルの腰あたりにタ
信彦も前方からノエルを押さえつける。陣兵、小町、源十郎もレオと応戦。

カイト マーサ、何をしている？

マーサ、動かない。

小町 サラちゃん逃げとくれ！！

信彦 行って下さい！！

茜 早く行きなさいよ！！

源十郎と力丸、陣兵も口々に逃げるよう言う。その間、レオ、ノエルから攻撃続ける。キンと短い音がして、サラ頭を抱えてひざまづく。悲鳴を上げるサラ。静寂。

を受け

カイト あの時と同じような状況を目にして何か思い出しましたか？

サラ、ゆっくりと立ち上がり、カイトの方を向く。

サラ 今すぐその足をどけなさい……カイト！！

カイト 記憶を取り戻せたようで何よりです。では大人しくこちらへ来て頂けますか？

カイト、茜の髪をつかんで立たせる。サラの方へ押す。

茜
サラ。

サラ
すみません。ご迷惑をおかけしました。

茜
どうして逃げなかったのよ!!

サラ
そんなこと、出来るわけじゃないじゃないですか。

茜
サラ、あのさ。

サラ
茜。

茜
……え？

サラ
ありがとうございます。

サラ、茜とすれ違い、カイトの方へ。マーサ、前へ出てくる。

マーサ
ユリア様!! 申し訳ありません!! 私にした事は、国外逃亡という名目を与えてしまっただけでした!!

サラ
マーサ、私は何を信じればいいのですか？

マーサ
私がいけないんです。いつまでも答えが出せない私がいけないんです。

サラ
私か、カイトか、ですか？

マーサ
それは……。

マーサ、一瞬スキが出来る。サラ、その瞬間、マーサの警棒を取り、カイトへ振るう。手で止めるカイト。

カイト 素晴らしい。こんな状況でもまだあきらめていませんか。

サラ カイト!! 何故お父様とお母様を殺した!? 何故クーデターなど起こした!?

カイト あなたにとって良き父、母だったとしても、良き国王ではなかったということです。

サラ あれだけお父様に目をかけてもらっておきながら、欲に目がくらんだか。裏切り者め!!

カイト 俺は常に国のことを思っています!! だからこそどんな戦場にも行きました!! どんな地

獄にも耐えてきました!! 国の為に!! 国王の為に!! それを!!

サラ 裏切り者め!!

カイト ……戦場を知らないあなたに、そんな言葉を吐く資格はない。

カイト、サラの首すじをたたき、気を失うサラ。抱きかかえるカイト。そのまま下手へ去ろうとするが、カ丸が前へ。

カイト だけ。……だけ!

カ丸、後づさりながら道を開けてしまう。カイト下手へ去る。

茜　ちよつと待ちなさいよ!!

全員カイトを追おうとするが、マーサが立ちはだかる。

マーサ　動くな!!

キインという短い音。マーサが声を出す瞬間、レオとノエルは目を閉じ、耳をふさぐ。全員体が動かなくなる。

小町　え!?これって?!

信彦　う、動かない。

マーサ……あなた達が今までユリア様を守って下さったのですね。心から礼を言います。
そして、
巻き込んでしまい申し訳ありませんでした。

小町　お礼や謝罪なんていらないよ!!サラちゃんをどうするつもりなのさ!!

マーサ　命があっただけ良かったと思って下さい。これ以上、こちらに関わるのは危険です。

茜　サラはね……サラは私と映画に行くって約束したんだ!!

マーサ　申し訳ありませんでした。

茜　あやまんないですよ。何であやまんのよ!!あやまんないですよ!!

マーサ 我々の姿が見えなくなるまで、そのまま置いて下さい。

マーサ、下手へ移動。レオとノエルに。

マーサ 行くぞ。

ノエル 勝負ねえ……全然期待ハズレだったな。お前レベルの人間が強いのかこの国は。

ノエル、信彦に一言、イヤミを言って下手へ去っていく。レオ、力丸の近くに。

レオ 確かにな。……お前はヤクザだろ？ヤクザは自分を貫く男の集まりと聞いて

が……噂というのはアテにならないな。いや、隊長の前に出れただけでも
か……。

いた
ほめるべき

レオ、下手に移動し、背を向けたまま。

レオ 平和ボケした島国の信念の貫き方など、所詮この程度か。

レオ、下手へ去って行く。

マーサ いいか、これ以上、我々に関わるな。これは忠告だ。

マーサ、下手へ去って行く。

茜 待ちなさいよ!!

小町 お待ちよ!!

茜 サラを返せー!!

静寂。全員、体を動かそうとするが動かない。

信彦 何なんだこれは!!

大家 おそらく催眠術の一種ではないかと。

源十郎 この大人数をあの一瞬ですか!?

陣兵 ずっとこのままなんすかね?

大家 いいえ、あの人の言葉通りならもうすぐ動けるようになるはずです。

全員引き続き動こうとするが動けない。

小町 全く何なんだいあの連中は。

力丸 お嬢、大丈夫ですか!?

茜 私は平気。それより陣兵が。

陣兵 俺も大丈夫ですよ。アニキは?

力丸 俺は……ヤバいかもな。

陣兵 え、大丈夫ですか!?

茜 力丸!!(力丸がずっと下を向いているのを見て)……力丸……。

陣兵 小町さんは大丈夫ですか!?!殴られたトコとか。

小町 私は平気。夜の仕事してりやあのくらい毎度のことさ。そっちは?

信彦 大丈夫です。

源十郎 自分も大丈夫です。

全員、ゆっくり動きだす。

信彦 ……やっと自由に動けますね。

大家 源十郎さん。

源十郎 はい。

大家 何故私を行かせなかったのですか。

源十郎 大家さんには最後を守ってもらおうと思いました。

大家 どういうことですか?

源十郎 大家さんはご自身が考えている以上に我々に情を移しています。誰かが人質にとられたら大

家さんは止まってしまいます。しかし、全員がやられた後ならその心配がありません。もちろん、やられる前に何とか出来ればベストでしたが。

大家 なるほど。源十郎さんは意外と策士ですね。

信彦 大家さん、警察に連絡しますよ。嫌いとか言ってる場合じゃありませんからね。

力丸 ムダなことはやめといった方がいいでしょう。

信彦 何故。

力丸 何て説明するつもりだ。記憶喪失の女の知り合いが連れ去ったとでも言うのか？

身内

が連れて行ったなら問題ないと思われるだろう。むしろ、何で今まで言わなかったんだと責められるのはこっちだ。

信彦 そうか……。

力丸 陣兵、お嬢を連れて帰れ。

陣兵 はい!?

力丸 帰れ。

陣兵 アニキはどうするんすか。

力丸 いいから帰れ。

茜 私は帰らない。

力丸 お嬢!!

茜 力丸、あいつらの後を追うつもりでしょ。

力丸 そんなことしませんよ。

茜 嘘。

力丸 嘘じゃありませんって。

茜 あ、そう。じゃあ好きにすれば。でも私は後追うから。

力丸 お嬢!!

茜 サラは逃げなかったもん!! 私の為に出て来てくれたんだもん!! あんな女に関わるなって言われて「はいそうですか」って引きさがれるわけないじゃん!!

力丸 危険すぎます!!

茜 もう決めたから。私が覚悟決めたらもう考え変えないって力丸よく分かってるよね?

力丸 お嬢に何かあったらオヤジになんてワビればいいんですか。

茜 逆よ。私を行かせなかったら。パパに頼んで力丸破門にさせるから。

力丸 お嬢……。

茜 とにかく私は決めたの。サラを助けに行くって。ずっと、ずっと、ずっと欲しくてやっと出来た友達なんだ。一緒に映画に行くって約束したんだ。絶対守ってもらうんだから。

大家 私も行きます。

小町 大家さん。

大家 源十郎さんの作戦は間違っていないと思います。でも、それでもやっぱり怒ってますすみません。

大家 この怒りは、……あの人達にぶつけます。

小町 大家さんが行くなら私も行くよ。

信彦 僕も行きます。

大家 駄目です。

信彦 でも今から後を追うてどうする気です？車はあの人達の一台しかありませんし

タクシー

使うならお金が必要では？

大家 本当に命を落とすかもしれないですよ？

信彦 その覚悟があるからさっきだって前へ出たんじゃないですか!!……すみません。

でも、自分自身に対してイラだっているのは大家さんだけじゃないんです。

小町 サラちゃんが笑顔で去っていったなら追いはしないさ。でもそうじゃなかった。警

察がアテにできないなら私達が行くしかないだろ？

陣兵 小町さんが行くなら俺も行きますよ。

力丸 お前。

陣兵 もう絶対小町さんを殴らせやしません。小町さんは俺が守ります。

大家 皆さん、覚悟は出来ている、ということですね？

全員うなずく。

力丸 (源十郎に)あいつらは一体何なんだ？アンタ何か知ってるんだろ？

大家 時間がないので手短に。

源十郎 はい。まず……サラさんはある国の王女です。その国は30年以上も戦争を続け

ている

国でした。

小町 品があるとは思っていたけど……。

源十郎 数か月前、その国にクーデターが起き、国王と女王が殺されました。首謀者は

おそ

らくあの男でしょう。

信彦 何故サラさんまで？

源十郎 王族の血を絶やす為だと思います。

力丸 国外逃亡した王女を連れ戻し国民の前で公開処刑……自分の支持率を上げる

為の

罠か？

信彦 先程の話を聞く限りでは逃亡を手伝ったのはあの女性。でもあの人も手のひらで踏らされて

いた感じでしたね。

力丸 クーデターの動機は？

源十郎 その情報は入ってきていません。

小町 つて、源さん、アンター一体何者なんだい？

源十郎、深々と頭を下げて。

源十郎 すみません！！

小町 ちよ、ちよつと源さん。

源十郎 皆さんに今まで嘘をついていました。自分の仕事は宮大工ではありません。自分

は、

世界平和機構のスタッフです。

信彦 国連みたいなものですか？

源十郎 国連とは少し違います。我々は世界平和の為に、加盟国でなくても積極的にか

かわつ

ていきます。

信彦 そのスタッフが何故ここに？

源十郎 伝説の傭兵に力を借りる為です。

信彦 伝説の傭兵って……源さんが以前話してくれた？

源十郎 はい。ずっと交渉を続けていました。

信彦 え？その人と会えてはいるんですか？

源十郎 はい。しかし、引退した身ということで断られてしまいました。そして、もう一つ謝らなくてはならない事があります。

小町 まだあるのかい？もうこの際だから全部言っちゃいなよ。

源十郎 はい。……実は自分、日本人じゃありません！

全員、シーン。

源十郎 本名はカルロスといいます。

陣兵 ……何やろ。こんな時なのに油断すると腹抱えて笑ってしまいそうになるな。

力丸　で、アイツ等はどこに行ったのか分かりますか？

源十郎　おそらく大使館だと思います。あそこなら仮に日本が動いても簡単には手出しできません。

力丸　大使館か……。どこにあるんです？

源十郎　分かりません。

力丸　分からない？

源十郎　あの国の大使館は公に発表されていません。調べることは可能ですが時間がかかります。

信彦　そういえば、あの人達は何故ここにサラさんが居ることが分かったのでしょうか？

大家　発信機です。

信彦　でもそれらしいものは持っていなかったと思いますけど？

小町　サラちゃんが持っていたもの……。あ！もしかしてピアス？

大家　その可能性が高いと思います。超小型発信機を開発したのでしょうか。

茜　でも受信機がなくちゃ意味無いんですよ？

大家　受信機ならここにあります。万能型の受信機です。

大家、スマホのような受信機を取り出す。

力丸　何でアンタがそんなモン持ってんだよ！

大家　内緒です。

力丸　何者なんだアンタ。

大家 秘密です。

茜 とにかくこれを頼りに移動すればサラの居る所に辿りつけるんだよね？

大家 はい。

陣兵 じゃあ早速移動しましょう。向こうもこっちがこんなに早く行動するなんて考えてないと思うっすから。

源十郎 少しでも油断してくればチャンスはありますね。

信彦 では行きましょう！

全員、移動しようとするが一青、動かない。

信彦 一青君？

小町 どうしたんだい？行くよ。

一青 俺……。

茜 ちよつと何してんのよ。時間がないんだから。

一青 俺……行きません。

茜 は？

一青 俺が行ったって何の役にも立たないと思うし、待ってます。

茜 今更何言ってるの。皆行くんだよ？

一青 俺は行くなんて一言も言ってます！行っても足手まといになると思うんで、ここにいます。

茜 何が足手まといよ。アンタただ怖いだけでしょ？

一青 怖いですよ。だから役に立たないんじゃないですか。

茜 開き直らないですよ。なっさけない男ね。

一青 情けなくていいです。

小町 一青ちゃん、アンタ、サラちゃんに惚れてんだろ？ だったら……。

一青 惚れてません！ 勝手に決めないで下さい！

小町 でもさ、

一青 俺は行きたくないって言ってるんです。何で強制するんですか！ 怖いのに無理矢理行かなくち

や駄目なんですか？ さっきだって全然動けなかったんですから今度だって動きませんよ！ 怖いんです！ 皆さんは怖くないんですか？

力丸、一青に近付く。

力丸 さっきの俺、見てたろ？ どけと言われて引いちまった。駄目元で向かって行ってりや何か違った

かもしれないのに道を開けちまった。アニキ分である俺がアイツ（陣兵）の見える前でヒヨッチ
まっただ。

一青 ……怖いんですよ？

力丸 勿論、怖いさ。だが怖いだけで終わらせるわけにはいかないんだよ。下の奴に生き方を見せるの
が上の務めだからな。

陣兵 アニキ……

力丸 それに、次は大丈夫な気がするんだよな。

一青 え？

力丸 怖さつてのは慣れるもんだ。より強い怖さを味わえば大抵の怖さには耐えられる。事実、今まで一言も俺としやべれなかったお前が普通に会話してるだろ？

一青 あ……

力丸 ただ怖さに耐えられること、度胸は別もんだ。度胸がなきゃ足は前に出ねえよ。

力丸、足を大きく上げて一步を踏む。一青に背を向けたまま。

力丸 俺は行くぜ。

力丸、下手へ去っていく。続いて陣兵、茜も去る。

源十郎（信彦と小町に）すみません。先に行ってもらえますか？

信彦と小町、顔を見合わせる。

信彦 一青君、後悔しないんだね？（一青が何も言わないことを確認して）……無事を祈っている174くれ。

信彦、下手へ去る。

小町

惚れた女も助けに行かないなんて、とんだヒーローがいたもんだ。私は一青ちゃんなら大きくなってもヒーローの夢を持ち続けて欲しいと思つてたけど……一青ちゃん、今、一青ちゃんがなりたいものつてなんだい？

一青 答えない。小町、下手へ去つていく。

源十郎 一青君。

一青 俺のこと軽蔑してますよね。でも、怖いんです。

源十郎 どんな答えにしろ、それが一青君自身で考えたものならそれを尊重しますよ。それに一青君はまだ若い。

一青 源さん……。

源十郎 皆さんも今は冷静じゃありませんから。許してあげてください。

一青 そんな、俺が許す許さないって話じゃないです。

源十郎 自分は何、一青君の気持ちが良い分かります。以前お話したことありますよね？自分はいつても問題から逃げてきたつて。

一青 はい。

源十郎 今、自分は試されていると思っています。変わるか、変わらないか……。正直なところ今だって足が震えています。でも、見てて下さい。一步を踏み出してみせますから。

源十郎、力丸と同じように足を高く上げて一步を踏む。源十郎、一青の方を向いて。

源十郎 行ってきます。……大家さん、例の物は？

大家 物置のどこかです。

源十郎 じゃあ？

大家 探している時間はありません。このまま行きます。

源十郎 実は9割以上大家さんを当てにしていたんですけど。

大家 仕方がありません。……一青さん。

一青 はい。

大家 物置のどこかに黒い風呂敷があるはずです。もし、万が一、一步を踏み出すことが出来たら、それを持ってきて下さい。風呂敷の中に受信機がもう一つありますから場所は分かるはずですよ。

一青 え、でも！

大家 それでは源十郎さん、行きましょう。

大家と源十郎、下手へ去る。

一青 俺、きつと心変わりなんかしませんよ！俺、弱いですから！大家さん！源さん！

一青、一人残される。全員が去っていった下手を見る。

シーンとした空気に耐え切れず、周りを見回す。

一青 ……何すか……。俺が悪いんですか？俺が弱いのが悪いんですか！……弱いのが悪いんですか！

シーンとした間。

一青 どうしろって言うんですか。仕方ないじゃないですか、怖くて動けないんだから仕方ないじゃないですか。今でも体の振るえ止まらないんですよ？

シーンとした間。

一青 処刑なんて嘘かもしれないし。サラさんだって自分の国に帰れた方が幸せかもしれないじゃないですか。そうじゃなかったとしても誰かが助けますって………そっだ、やつぱりこういう時は警察だよ、警察！

一青、警察に電話しようとして携帯を出す。と、同時にお守りが落ちる。
それをゆっくり拾う一青。膝を付く。

一青
何がヒーローだよ。何が頑張りますだよ。でも……ちくしょう、怖えよ。怖えんだよ。……何で俺こんななんだろ。皆みたいになんか格好良くなりたいのに。度胸って何？どうすりゃいいんだよ……。

一青、お守りを抱きしめてうずくまる。下手から住人達が入ってくる。

陣兵
小町さん！俺の側から離れないで下さいね！

小町
一応、頼りにはしとくよ。

茜
力丸、茜の事は気にしなくていいから、自分の事だけ考えなね！

力丸
分かりました。俺なりのケジメを付けさせてもらいます。

信彦
どのくらいお役に立てるか分かりませんが、少々私も思うところありまして。

源十郎
大丈夫です。必ずサラさんを連れて帰るんです！

大家
さあ、行きましょう！

上手よりカイト達が入ってくる。サラはマーサに後ろ手を取られている。

カイト レオ！出国の手続きはどうなっている？

レオ 完了しています！明日の朝に空港へ向かいます！

カイト ノエル！戻り次第、処刑の手続きをしろ！

ノエル はっ！

カイト マーサ、ユリア様を例の部屋へお連れしろ。

サラ カイト！……今すぐ私を殺さないことを後悔しますよ……必ず！

マーサ ユリア様！

カイト そんなに早く死にたいですか？

カイト、警棒をサラに向けるが前にマーサが立つ。

カイト マーサ……。お前が欲しているものは二つ同時には手に入らないものだぞ？
マーサ ……分かっています。

一青、バツと顔を上げて前を向く。

一青 サラさん……。サラさん！

照明、シルエットに。第一幕が終わる。

【第2幕】

幕前、センターにマーサ、レオ、ノエルが板つき。上手からカイト。

カイト レオ。ここにいたのか。

レオ あ、隊長。

3人、敬礼する。

カイト 今は訓練中じゃないんだ。楽にしろ。

3人、休めの姿勢を取る。

カイト 訓練兵が3人集まって何をしてるんだ？……大かた俺の悪口でも言ってたんだろ？

マーサ そんなわけありません!!

カイト 冗談だ。そんなに怒るな。

マーサ 怒ってはいませんが……。

カイト お前は本当にマジメというか、恐いというか。

レオ 隊長、私に何か？

カイト ああ、この間頼んでおいた超小型発信器の件がどうなっている？

レオ ほぼ完成しています。誤差は500メートルといったところでしょうか。あくまで計算上ですので、まだ確証はありません。

カイト そうか。なるべく急いでくれ。

レオ かしこまりました。

マーサ 隊長、小型発信機なんて何に使うんですか？

カイト 小型じゃない。超小型の発信機だ。ユリア様が来月成人されるだろ？当然マスコミなんかへの露出も増える。そうなると思ってるってほしくないことが起こらないとも限らん。

ノエル 誘拐とかってことですか？

カイト ああ。敵国へ連れ去られたら一気に我が国が不利になる。いつどこにいても助けられるように、この……ピアスに埋め込んでおく。マーサ。

マーサ はい。

カイト お前にこのピアスをやる。

マーサ え!? 私にですか!!

カイト ユリア様と同じピアスだ。お前からユリア様の誕生日に渡してくれ。「私とおそろいのピアスなんです」ってな。

ノエル 隊長が直接渡した方が早いんじゃないですか？

カイト 私がピアスなんか渡したら気味悪がつてつてくれない可能性がある。

ノエル 隊長は自分が分かってらっしゃるんですね。

カイト　　というわけでマーサ、レオからピアスを受け取ったらユリア様へ……マーサ、マーサ。
マーサ　　あ、はい。

カイト　　ユリア様の誕生日にピアスを渡してくれ。

マーサ　　はい。

カイト　　よし！宿舎へ戻れ。

3人、顔を見合わせて移動しようとしなない。

カイト　　どうした。休んでいいぞ。

レオ　　あの……隊長。

カイト　　何だ。

レオ　　はい……その……。

カイト　　言いたいことがあるならハッキリ言え。

ノエル　　俺達、何で次の遠征に参加できないんですか！？3人とも実践はもうしぶんないって評価受けていたのに！！俺達隊長と一緒にいきたいです！！

マーサ　　ノエル。

カイト　　次の戦場は荒れる。訓練兵のお前達を連れて行くわけにはいかない。

ノエル　　それは俺達に経験がないからですか！？出兵出来なきや経験なんて出来ません！！楽な戦場なんてないって言ったのは隊長じゃないですか！！

マーサ ノエル!!

カイト 毎日、一生懸命訓練しているお前達には申し訳ないが、俺は出来る限り若い者には戦場を経験させたくないと思っっている。お前達のやるべきことは敵を殺すことではなく、この国の未来を作るのだ。

レオ 俺達は隊長に憧れて軍に入ったんですよ!?

カイト 気持ちはありがたいが、お前達にだって夢はあるだろ?

レオ 俺は隊長に付いていきます!!

ノエル 俺も同じです!!

レオ 隊長に認めてもらえるよう、今まで以上に頑張ります!!

レオ、ノエル、カイトに敬礼して下手に去って行く。カイト、ため息。

マーサが一緒に行かないことに気付き、

カイト どうした?

マーサ ああ、一つ聞きたいことが。

カイト 何だ?

マーサ レオに依頼している超小型発信機の研究開発費は全て隊長が個人的に出してると聞きました。が……。隊長はユリア様に特別な想いがあるのでしょうか?

カイト 特別な想いも何も俺はこの国に忠誠を誓った身だ。国王の家族は守るべき大切なものだ。

マーサ ユリア様はキレイなお方だと聞いています!!

カイト お前が何を言いたいのか良く分からんが、俺にはこの国を守りたいという思いがあるのは理解してもらってるか？

マーサ それは……はい。でも何故そこまで？

カイト マーサには言っただけだったが、お前が幼少期を過ごした孤児院に俺も世話になっていてな。

マーサ 知っています。隊長のことは先生から教えてもらいました。私の憧れだったんです。だからこうして軍に入ったんです。

カイト 隊長になってから国政の会議にも参加するようになったんだが、そこで初めて知ったことがある。

マーサ それは？

カイト お偉方のほとんどは孤児院の存続に反対でな。軍事施設に建て替えるべきだとの意見が大半だった。そんな中、たった一人孤児院の必要性を説いた方がいた。

マーサ それが……国王？

カイト 俺は国王に守られていたんだと感じた。孤児院で先生をママと呼ぶのが流行ったろ？孤児院の先生がママなら国王は父だった。本当の大きなくりで言えば我々は家族なんだ。

マーサ では……ユリア様に特別な想いがあるわけでは……ない、ですか？

カイト ……ああ。

マーサ そうですかあ。

カイト ユリア様は守るべき対象だ。特別な相手はもっと対等な立場でいたい。

マーサ ……あの、ユリア様ってどんな方なんですか？
カイト 優しい方だ。話をすればマーサもきつと好きになる。

——
間。

マーサ あの、隊長はいつ立たれるんですか？

カイト 明後日の朝だ。今度は一カ月以上敵地だろうな。

マーサ 帰ってきたら孤児院の料理長直伝のシチューごち走します。

カイト 何!? お前、あのシチュー作れるのか!?

マーサ はい!! ですから必ず帰ってきて下さい。

カイト 分かった。帰ってくる楽しみが出来たな。……行ってくる。

カイト、マーサとすれ違いセンターへ。その背に向かって、

マーサ 隊長!! 隊長が戦っている間、私、強くなります!! 強くなって、隊長の背中を守ります!!
カイト 俺の背中を守る? 10年早えよ!!

2人、笑う。

マーサ 必ず帰ってきて下さい。

カイト ああ。

カイト、客席に背を向ける。幕が上がる。舞台なはマスクをかぶった数名の姿が。

マーサ ……必ず帰って来て下さい。

遠くに銃撃音。マーサ、上手へはける。カイト、舞台中央へ。

兵士A 隊長!! 偵察が戻ってまいりました。

カイト 報告は?

兵士A 自分が確認しています。

カイト それで。

兵士A 敵の部隊はこれより北に3kmほど進んだ所にキャンプをはっています。その数およそ三千。
カイト こっちとの差は千か…。その位の数なら問題ないか?

兵士A 戦場に慣れた奴らばかりですから。

カイト やはり訓練兵は連れて来なくて正解だな。

兵士A 激しい戦闘になるのは間違いないですね。

カイト レッ、すまない。来月には退役するお前をこんな地へ連れてきてしまった。

兵士A 隊長。

カイト お前が結婚ねえ……。相手の実家の家業継ぐんだろ？何をやってるんだ？

兵士A 農家です。

カイト それでいい。お前には銃より鍬の方が合ってる。

兵士A いや、それなんですけど、やっぱり止めました。

カイト 何？

兵士A 結婚するのに一カ月ほど休みを頂きますが、またすぐ戻ってきます。

カイト 何言ってるんだ、そんなの相手が納得するわけー

兵士A 彼女には納得してもらいました。結局戦争が終わるまでは安心して住める場所なんてないんです。だったら少しでも早く平和を手に入れる為に動きたいです。

それに何より……隊長を残して軍は去れません。

カイト レッ……。

兵士A お目付け役の自分がいなくなったら隊長絶対暴走するじゃないですか。それを考えたら心配でおちおち畑も耕せませんよ。

カイト バカだバカだと思ってたが……本当のバカだな、お前は。

兵士A 隊長に言われたくありませんよ。

カイト 必ず生きて帰るぞ。

兵士A はい。

カイト よし！本隊に現在の場所を報告！！明日の朝、マルロクマルマル時に攻撃を開始す

る!! 第7、第9部隊にも連絡!! 進軍の足なみをそろえるよう言うておけ!!

兵士B はっ!!

急に激しい銃声音、爆撃音。全員、体勢を崩す。

カイト どうした!?

兵士C 敵襲です!! 南方より攻撃あり!!

カイト 南だと!! なぜ後ろから敵が来る!!

兵士C 分かりません!! かなり近くまで来ています!! 数、およそ四千!!

カイト 応戦して時間を稼げ!! 第7、第9部隊に通信!! 敵襲の有無を確認しろ!! なければこちらに応援要請!! 明日の戦闘を前に数を減らすわけにはいかん!!

兵士B 分かりました!!

兵士A、C、D、E、舞台後方に向かって銃撃している。

カイト 状況は!?

兵士C 勢いが止まりません!! 援軍をお願いします!!

カイト 今通信を行っている!! バラけるな!! 一点に兵力を集中させろ!!

兵士D いくら何でも敵が多すぎます!!

兵士E 何で後ろから敵が来るんですか!!

兵士C 我々の情報ももれてるとしか考えられませんよ!!”

兵士B 隊長!! 第7、第9部隊に敵襲はありません!!

カイト 援軍は!?

兵士B 本隊の許可がないと動けないそうです!!

カイト 至急本隊に連絡しろ!! 状況を説明し援軍を頼め!!

大きな爆発音。その場に全員倒れるがすぐに起きる。兵士B、Eは下手側に、兵士A、Dはセンター、兵士Cだけが上手側へ。兵士A、C、D、Eは後方へ銃撃。

兵士D 他の部隊には襲撃がないってどういうことですか!?

兵士C 俺達単体が狙われてるのでは!? だとしたら隊長!! 下がって下さい!!

カイト クルス!! もっと体勢を落とせ!!

一発の大きな銃声、倒れる兵士C。

カイト クルス!!

カイト、兵士Cの近くにかけ寄る。兵士Cの上半身を起こし、舞台手前側へ移動。

兵士A 隊長危険です!! 下がって下さい!!

カイト 衛生班!! クルスがやられた!! 衛生班!!

兵士E 動けません!! 応急処置をお願いします!!

カイト クルス!! 今止血してやるからな!! ここを押さえておけ!!

カイト、兵士Cのバンダナを取り、止血する。その間も激しい銃撃戦。

兵士C 隊長……俺の事はいいですから、下がってください。

カイト 何バカなこと言ってるんだ!! 全員で生きて帰るぞ!!

兵士C ダメです。このままだと全滅の可能性あります。俺が死んでも代わりはいませんが隊長の代わりはいないんですよ?

カイト ふざけるな!! 誰かが誰かの変わりになんてなれるわけないだろ!!

兵士C 隊長がいれば我々は希望を持てます。隊長だけは生きていなきゃいけないんです

カイト クルス!!……衛生班!! 早くしろ!! 血が止まらない!!

兵士E 無理です!! 反撃の手をゆるめれば一気にも込まれます!!

兵士C 隊長、この戦争、必ず勝って下さいね……。

兵士C、死亡

カイト クルス？……クルス!!

カイト、兵士Cを寝かせ、心臓マッサージをする。

カイト ダメだクルス!! まだ死ぬな!! お前言ってたろ!? 戦争が終わったらパン屋を開くんだって!! それが俺の夢なんですって!! クルス、死ぬな!! 俺は!! 俺はお前のような夢を持つ若者の為に戦ってるんだ!! 帰って来い!! クルス!! 帰って来い!!

大きな爆撃音。心臓マッサージを続けるが動かない兵士Cを見て呆然とするカイト

兵士B 隊長!! 本隊と連絡がとれました!! 援軍は来ません!!

カイト 何だと!?

兵士B 今回の任務、最終決定権は国王にあるそうです!!

カイト 国王への連絡は!?

兵士B 本隊でも取れていないそうです!!

カイト、懷から小さいメモ帳を取り出し、兵士Bへ投げ、そのまま反撃に加わる。

カイト 赤文字で書かれているコードへ連絡しろ!! 国王へのホットラインだ!!

兵士B 危険です!! 我々の通信は敵国に傍受されている可能性があります!!

カイト 構わん!! その可能性も生きて帰ることが出来なければ報告出来ないんだぞ!! 責任は俺がとる!! いいから通信だ!!

兵士B 分かりました!!

大きな爆発音。全員、体勢を崩す。すぐに起き上がり反撃。

兵士D 隊長!! 弾切れです!!

カイト 新しい武器を使え!! 明日のことは考えるな!! 今、生き残ることだけを考えろ!!

兵士B 隊長!! 国王につながりません!!

カイト バカな!! ホットラインだぞ!!

兵士B 代理の者が出てます!!

カイト 代理!? どういうことだ!?

兵士B 国王は現在、首脳会議に出席。

カイト 首脳会議!? 敵国も出席するんだぞ!! 参加しないんじゃないのか!!

兵士B 分かりません!! 昨晚、急ぎよ参加したようです!! 現在国王は!! 国王は……。

カイト どうした!?

兵士B 国王は……。

カイト イルマ!! 答えろ!! どうした!?

兵士B 首脳会議は一時休憩。国王は……各国の首脳と現在会食中。食事が終わるまで誰も取り継ぐなどのことです。

カイト ……何だと? ……国の為に今、命をかけて戦っている我々よりも一回の食事が大切だとでもいうのか!? 国王よ!! あなたは何をお考えなのです!! 貸せ!! 俺が直接話をする!!

大きな爆発音。全員体勢を崩す。

兵士D 限界です!! 隊長、退却命令を!!

兵士A どこに退却するつもりだ!!

兵士B ここから近いのは西の第7部隊です!! 急ぎましょう!!

兵士B、下手へ行こうとして立ち止まる。

兵士B そんな……。

カイト どうした!? 立ち止まるな!! 行け!!

兵士B 前方……西方より敵です!! 数およそ三千!!

兵士D 何だと!?

兵士B 隊長こっちは危険です!! 東へ!!

銃声、単発で三回ほど撃たれる。足↓体↓頭の順。兵士B、死亡。

兵士E、大声を上げて上手へ移動。途中、一発の銃声。足を撃たれる。その場に倒れる兵士E。

兵士E 足が!! 隊長!! 足を撃たれました!!

兵士Eの悲鳴。

兵士E 逃げましょう!! 早く!! 死にたくない!! 死にたくない!!

兵士E、体を起こし、上手へ移動しようとするが立ち止まり。

兵士E ……嘘だろ……。

一斉射撃の音。兵士E、何百発と撃たれる。兵士E、死亡。

カイト
アキト!!

カイト、銃を撃ちながら兵士Eの近くに。体に触れるが、兵士E動かない。上手を見ながら、

カイト レツ!!セイカ!!このままでは全滅してしまう!!個別に移動して本隊で合流するぞ!!武器はお前達が持って行け!!

上手に応戦しながら2人に語りかける。

カイト レツ!!セイカ!!移動しろ!!本隊で合流だ!!…レツ!!セイカ!!

2人の名を呼んだ瞬間、全ての音が止まる。シーンとした間。

2人、膝をついた後、倒れる。兵士A、兵士D、死亡。

2人が倒れた瞬間、音楽。カイト、さげび声。周りの兵士の名を呼びながら舞台を回る。最終的にセンターで立ち止まり何度もさげび。膝をついてうずくまる。さ

げび声をあげるのをやめた後、前を向く。

カイト 国王よ!!国の為に命をかけて戦っている我々をなぜ見殺しにした!!国を愛し、あなたを慕う我々をなぜ裏切った!!最前戦で戦う兵士よりも優先すべきことがあるのか!?国王よ!!なぜ我々を見殺しにした!!

全員 違う!!

兵士A 俺達を殺したのは隊長です!! 隊長の命令が俺達を殺したんです!!

兵士C 隊長の為に死にました!! 隊長!! 俺、隊長の為に死んだんです!!

兵士D なぜ隊長は生きているのですか!?

兵士B なぜ俺達だけ死ななければならないのですか!?

兵士E 教えて下さい!! 答えて下さい隊長!!

カイト 俺は……。

全員 違う!!

兵士B 裏切り者は国王です!!

兵士E 隊長!! 俺達の恨みをはらして下さい!!

カイト 恨み?

兵士A 国王を殺すのです!!

兵士C 俺達は国王のせいで死んだんですよ!!

兵士D 国の為に戦った俺達は国王に捨てられたんです!!

全員 違う!! 死ぬべきは隊長、あなただ!! 違う!! 死ぬべきは裏切り者の国王だ!!

違う!! 死ぬべきは!! 死ぬべきは!! 死ぬべきは!!

兵士達、起き上がりセリフを言いながらカイトに近づいて行く。最後、カイトに銃をつきつけて全員で大声で叫ぶ。カイト、その場に倒れる。兵士達、下手に去る。

上手からマーサとサラが入って来る。マーサ、倒れているカイトを見つけて走りより、かかえ起こす。

マーサ 隊長!!……隊長、しっかりして下さい!! 隊長!!

目をあけるカイト。マーサから離れ、一人で起き上がる。

マーサ お休みになった方が。最近、倒れる間隔が短くなっています!!

カイト 大丈夫だ。それより、どうした?

マーサ ユリア様が隊長にお話しがあるそうです。

サラ、カイトに近づく。

サラ 後悔や罪の意識が悩ませているのですか?

カイト 罪の意識?……ユリア様、申し訳ありませんが俺は国王を殺したことに少しの罪も感じていませんよ。

サラ そこまで言いきるにはそれだけの理由があるということですか?

カイト 国王は裏切り者だ!!

サラ ……どういふことです。

カイト 俺の率いた第8部隊は上層部の伝達ミスにより敵の集中攻撃を受けました。援軍を頼みましたが国王と連絡が取れず、第8部隊は俺をのぞいて全滅しました。

サラ 連絡が取れなかったには何か事情があったのではないですか？

カイト どのような事情があれば見殺しを正当化できるといいますか!? 死んでいった部下に、その家族に、恋人に同じことが言えますか!? ……ユリア様、俺の事が憎いのですか？

サラ もちろんです。

カイト 殺したいほど？

サラ ええ。

カイト ……俺も国王に対して同じ気持ちだったのです。

カイト、警棒を取り出し、サラに渡す。

カイト 俺が憎いのでしょうか？簡単なことです。俺の頭めがけて思い切り振り下ろせばいい。…

サラ、動けない。

カイト さあ。……さあ!!

サラ、意を決して警棒を振り上げるが、マーサに手をつかまれる。

マーサ 隊長……なぜ私を試すんです。

カイト 試す？

マーサ 私は隊長に忠誠を誓いました。言葉だけではなく、行動を伴って。それでもまだ私を信用して下さらないのですか。

カイト あの日、俺の指示に反してユリア様を逃がしたお前が信用を口にするか。

マーサ あれは隊長の計画の一つだったじゃないですか！！

カイト だが、お前の意志だったことは事実だ。違うか？

マーサ それは……。

カイト お前は一つを選べなかったばかりに俺の信用を失い、ユリア様との友情を失っている。マーサ。

お前の望んだ状況にはほど遠いと思わないか？

サラ マーサの望んだ状況？

カイト お前はクーデターに参加することにより俺の復讐の手助けをした。それにより俺の信用を得たかった。しかし、ユリア様だけは助けたかった。……だから発信機のついたピアスをそのままにユリア様を逃がしたんだ。いつか状況を見て迎えに行く為にな。

サラ ……なぜその情報を私に？

カイト ……これも含めて、試しているのかもしれませんが。マーサの答えを。

サラ カイト……あなたは。

下手よりレオ、ノエルが入って来る。

レオ 隊長!! 報告が。

カイト どうした。

レオ 先程の日本人連中が来ました。おそらくユリア様を連れ戻しに来たのかと。

サラ 皆さんが!?

ノエル 隊長の言った通りでしたね。あれだけの戦力差見せつけられてまさか本当に来るとは思いませんでしたよ。

レオ そういう気のゆるみが油断につながるんだ。気をひきしめろ。

ノエル すみません。

レオ 対応はいかがいたしましたよう。

カイト お前達で事に当たれ。他の者は極力、この件に関わらせるな。

レオ 分かりました。

カイト とはいえ、お前達もいつでもおりていいぞ。俺に連いて来れないと思ったのならいつでも裏切って構わないからな。

ノエル また隊長はそういうことを……。

カイト いずれにせよ俺の行く先には地獄しかないのだから。

ノエル いずれにせよ、ですか?それって……。

言葉を続けようとしたノエルをレオが手で制す。

カイト マーサ。

マーサ はい。

カイト、上手を指して、

カイト その階段を上がり、右に曲がると突き当たりに白い部屋のドアがある。そこにユリア様を連れて行け。ドアは特殊な作りになっていて、カギをかけたなら内側からは開けられないようになっている。それがこのカギだ。

カイト、3つのカギをマーサに渡す。

マーサ 3つともその部屋のカギですか？

カイト ああ。カギをかけたならレオ、ノエルに渡せ。お前達3人でカギを守れ。3人とも負けるなんてことは無いだろうからな。

ノエル 負けませんって。あんな戦闘力の低い連中、何なら俺一人でも充分ですよ。

カイト 全ての勝負が戦闘でカタがつくとは限らんだろ？

ノエル どういう意味ですか？

カイト 良くも悪くもお前達は甘いつてことだ。

カイト、サラに向き直って、ユリアの手から警棒を取る。

カイト それはユリア様と同じですかね。復讐をとげるチャンスを自ら放棄したのですから。……今度もし、私の前に立つことがあれば、その時は武器を手にし、俺の頭へ振り落とすのです。あなたにはまだ覚悟が足りない。

レオ 隊長!! 何故そんなこと言うんですか!!

カイト レオ。……俺の後ろに立つんじゃない。

レオ ……失礼しました。

カイト、下手へ移動。振り返り、

カイト お前達はどこまで真剣に国のことを考えている？俺について来る気があるなら甘さを捨て、覚悟を決めることだ。

カイト、下手へ去る。

ノエル 隊長は俺達と一緒に来て欲しくないんですかね？

マーサ お前は子供か。言葉や態度をストレートに受け取ってどうする。

ノエル じゃあ……。

レオ 決めればいい。自分の気持ちにしたがつてな。その気持ちが決まっていないう奴もいるようだが。

マーサ 私の事はいい。答えは必ず出す。それより隊長のお身体の方を考えねば。

レオ どうした？

マーサ また倒れていた。

レオ また!? 最近間隔が短くなっているような気がするが。

マーサ 事実、短くなっている。前の戦場での後遺症だろう。

レオ ではもう、あまり時間が？

マーサ ないだろうな。

レオ お前、それでもまだ隊長のことを……。いや、だからこそ、か？

マーサ ……私の事はいい。ユリア様を部屋へお連れする。ユリア様、一緒に来て下さい。

サラ マーサ。……あなたの苦しんでいたんですね。

マーサ どうか今は何もおっしゃらないで下さい。言葉を交わせばどうしても楽しかったあの頃を思い

出してしまいます。その思い出が、私を苦しめるんです。

サラ そうですか。そうですね。……行きましょう。

マーサ はい。

サラ、マーサ、上手へ去る。見送るレオとノエル。

ノエル ……あの。

レオ ん？

ノエル マーサ副隊長は、その……本当にユリア様と仲が良かったんですね。

レオ どうしてだ？

ノエル マーサ副隊長がユリア様に近付いたので発信機付きのピアスを渡す為ですよ。あくまでも形だけの付き合いなのかと思ってました。

レオ いや、マーサとユリア様が初めて言葉を交わしたのは、ピアスの件で動くとする前だ。

ノエル え、そうなんですか？

レオ マーサも軍に入り男だらけの中で生活していて、同性と話す機会なんかなかったからな。相当嬉しかったんじゃないか。

ノエル でも王女ですよ？友達っていうにはあまりにも身分が違いすぎて……。

レオ それを感じさせないのがユリア様の器だ。俺は直接話をしたことはないが、気さくな方だというのは分かる。

ノエル じゃあ、マーサ副隊長は本当にユリア様に友情を感じていた？

レオ だからこそ答えを出せずに苦しんでいる。

ノエル 気さくな女王か……理想ですね。

レオ 本来であれば全身全霊をかけてお守りせねばならんお方だ。

ノエル ……何だかんだ言って答えを出せていないのは自分達も一緒ですね。

レオ ああ。

ノエル でも良かったです。

レオ 何がだ？

ノエル マーサ副隊長とユリア様が本当の友達で。身分なんか超えた、本当の友達で良かったです。
レオ ああ、そうだな。……最初に声をかけたのはユリア様からだったそうだ。

照明切り換え。過去の明かり。上手からマーサが入って来る。警棒を使った格闘の練習。

サラが上手から入って来て、マーサの前を通って下手へ移動。通り過ぎた所で足を止め、振り返り
マーサを見る。

サラ あのと!!

マーサ ……はい。

サラ その制服は……軍の方ですか？

マーサ はい、そうです。

サラ やっぱり!!軍にも女性の方がいるんですね。

マーサ 2、3名はいます。私以外は皆、救護班ですけど。

サラ あなたは？

マーサ 私は陸軍に所属しています。

サラ ああ!!もしかして……マーサ?

マーサ どうして私の名前を?

サラ マーサなんですね!?噂というか……話はカイトから聞いています。

マーサ カイ……。……隊長を御存じなんですか。

サラ ええ。とても。

マーサ とても……ですか。

サラ 今は何をしてらしたんですか?

マーサ ……接近戦での格闘術を復習しました。隊長は打撃とりも接近戦技術を重しなので。

サラ でも戦場に行ったらほとんどの場合、銃を使うのでは?

マーサ はい。ですが、射撃というのは、余程の才能を持っていない限り、ある程度訓練したらそれ以上伸びようがありません。才能を持つ者は狙撃班に回されます。それ以外の者は戦場における生き残り方を学ぶべきだと隊長が言っていました。

サラ 生きて我が国へ帰って来る為に?

マーサ はい。

サラ カイトらしい考えですね。行動や言葉は粗野なのに、内面は凄く繊細なあの人らしいです。マーサはカイトの分かりづらくも良い所を理解しているようですね。

マーサ ……はあ……。

サラ で、具体的にはどんな事を?

マーサ 武器を用いた拘束術です。これ(警棒)を用いて相手を動けなくする方法を復習していました。

サラ 凄い!!そんな方法があるんですか!?

マーサ え、ええ、まあ。

サラ やつてみて下さい!!

マーサ え?

サラ 私にやつてみて下さい!!

マーサ ええ!?

サラ 私が敵として向かって行きますから、動けないようにして下さい。

マーサ どうして。

サラ 相手がいた方がより実践チックじゃないですか。行きます!!

サラ、マーサに向かって行く。マーサ、サラをよけて拘束術を使う。

サラ い、痛い……。

マーサ あ、す、すみません!!

マーサ、慌ててサラを離す。腕を押さえるサラ。

マーサ 痛かったとえすか?その……おケガは!?

サラ 凄い。

マーサ え？

サラ 凄いです!!強い女性には憧れます!!

マーサ そ、そうですか……。

サラ でも女性の身で軍の訓練は大変ではないですか？

マーサ ええ。まあ。

サラ どうして軍に？

マーサ え？えっと、その……。

サラ (ハツとして)ゴメンなさい!!初対面なのに立ち入った質問を……。何か理由があるのは明らかなの。

マーサ いえ、いいんです。私はその……。孤児なんです。進める道はそう多くありませんでした。

サラ それでもいくつかは選択肢があつたんですね？軍が一番ツライのでは。

マーサ はい。でも、私のいた孤児院の大先輩が軍で活躍している話を聞いて、私も力になりたいなうて思つたんです。今は全く戦力外ですけど、いつか私のことを仲間と思つてもらえる日が来たら嬉しいです。

サラ そうですか。あの、応援します!!

マーサ はい？

サラ 応援します!!マーサのその願いが叶うように応援します!!

マーサ あ、ありがとうございます……。でも、その、大先輩というのは、カイトの事ですよね!!

マーサ え、あ、はい。

サラ カイトはぶつきらぼうで厳しい人ですが、でも本当は優しくて誰よりもこの国の未来を考えています。

マーサ はい。……あの!!

サラ はい。

マーサ 隊長をよくご存知のあなたは、その、隊長の……。

サラ あ!! ゴメンなさい。私はマーサのことを知ってるからすっかり自己紹介するのを忘れてました。私、ユリアといいます。

マーサ ユリアさんですか。……ユリア?……ユリアって……ユリア様!?

サラ まだ成人してませんから国内にも顔を出してませんからね。知らないのも無理はありません。

マーサ あ、あの、ユリア様が何故私何かに声をおかけに?

サラ 良いニオイがしたんです。

マーサ はい?

サラ 今、通り過ぎた時に、マーサから良いニオイがして、振り返ったら軍の方なのに女性で、しかも私と同じくらいの若い方だったのでつい。

マーサ 良いニオイですか……。

サラ ええ。

サラ、マーサに近付いてニオイをかく。

マーサ ああ、ちよつと……。

サラ やっぱ良いニオイです。これは何のニオイですか？

マーサ 町で普通に売っている制汗スプレーのニオイですけど……。

サラ 制汗スプレー？

マーサ 汗のニオイをおさえるんです。

サラ 今の女性の間ではそれが流行ってるんですか!?

マーサ 流行っているというか……まあそうですね。エチケットというか……。

サラ マーサ!!

マーサ はい!?

サラ 友達になつて下さい!!

マーサ はい!?

サラ 本当はもつと町の事とか聞きたいんです。でもマーサは今、自主訓練をしている所だから、これ以上おしゃべりするとマーサに迷惑がかかります。

マーサ 別に迷惑では……。

サラ ですから、今度、マーサに時間がある時にゆっくりお話したいです!!だからお友達になつて下さい!!

マーサ いや、あ、身分が違いすぎますから。

サラ マーサは私と友達になるの嫌ですか？

マーサ いえ、そんなことはありませんけど。

サラ では身分のことは忘れて下さい。私も忘れます。

マーサ はあ……。

サラ 周りの目が気になるようなら、マーサに秘密の部屋を教えます。

マーサ 秘密の部屋ですか。

サラ そこなら私とマーサしかいません。気がねなくおしゃべりできます。

マーサ えつと……はい。分かりました。

サラ じゃあ、これからよろしくお願いします。

マーサ あ、はい。こちらこそ、よろしくお願いします。

2人、笑う。照明切り換え。レオとノエルに明かり。

ノエル 僕、ユリア様って一国の女王ですから、もっととつつきにくい人かと思ってました。

レオ 驕ることなく、見下すことなく、等身大でお話下さる方だったそうだ。

ノエル そんな方が姫なら守りたくなるのもうなづけますね。

レオ 守る……か。あの頃の隊長は本当に心からユリア様をお守りするつもりだった。それこそ自分の命うをかけてな。

ノエル そんな人が今ではユリア様を殺そうとしているなんて、運命って皮肉ですね。
レオ まあな。

ノエル レオ副隊長はどうなんです？

レオ ん？

ノエル カイト隊長のやっていること、正しいと思っっているんですか？

レオ 正しいか正しくないかであのお方に連いて行ってるわけではない。俺は俺を全うする為にあのお方の力になるんだ。隊長は考えるところとおっしゃったが、俺の進むべき道は隊長が行こうとしている道だと決めたんだ。

ノエル でも、その思いに疑問を持ち始めている？

レオ 知った風な口をきくな。

ノエル 違いますよ!! 同じです!! 僕も……レオ副隊長と同じです。本当はカイト隊長、自分を止めて欲しいと……。

レオ ノエル!! その言葉は俺達が口にすべきじゃない。

ノエル ……そうですね。あの、レオ副隊長。

レオ ん？

ノエル さつき「俺は俺を全うする為に」って言ってましたけど、全う出来ない瞬間が来たらどうするんです？

レオ 俺を全う出来ない瞬間、か……。

ノエル はい。

レオ その瞬間が来たのなら……。

ノエル はい。

レオ いや、その瞬間が来てくれたのなら……。

ノエル 来て、くれた？……のならば？

レオ ……俺も少しは楽になれるのかもしれないな。

ノエル え、どういう意味ですか？

レオ お前には分からないさ。ただ……。

ノエル はい。

レオ 間違はなく、俺達の悩みよりもより重い悩みを抱えているのはマーサだろうな。

ノエル ……そうですね。

レオ ユリア様と会話をする度、その自由さに、純粹さに、優しさに、惹かれていったそうだ。

照明、切り換え。マーサとサラに明かり。マーサ、周りをキョロキョロ見回す。

マーサ 城の中にこんな部屋があつたなんて知りませんでした。

サラ 城を築城する時に、設計工に特別に頼み込んで作ってもらったんです。この部屋のことはお父様もお母様も知りません。

マーサ いいんですか？その、私のような者をそんな大切な部屋に呼んでも。

サラ マーサ。

マーサ はい。

サラ 今度「私のような」とか自分を卑下するような言葉はやめてちょうだい。私はマーサと友達にな

りたいんです。

マーサ では、ユリア様こそ敬語を使うのをやめてもらえますか？落ち着きません。

サラ それはマーサも一緒です。

マーサ 私は敬語の方が話やすいので。

サラ 私も同じです。敬語の方が言葉が出ます。

2人、クスツと笑う。

マーサ 私達は以外と似ているのかもしれないね。

サラ ええ。……そういえば、この間、カイトと話をしました。

マーサ 隊長と？

サラ また戦場へ行くそうですね。

マーサ ……ええ。

サラ マーサも!?

マーサ いえ、私は……志願したのですが、却下されました。次の戦場は訓練兵レベルでは足手まといになると。

サラ 良かった……。

マーサ 良くありません!!私!!……私は隊長の背中をお守りする為に今まで頑張ってきたんです。それなのに……。

サラ やっぱり。

マーサ え？

サラ マーサはカイトに関する事になるとムキになりますね。

マーサ そんな事ありませんよ。

サラ 自分で気付いてないんですか？

マーサ 気付くも何も、別にムキになつてませんから。

サラ 本当に？

マーサ 本当です。

サラ 自分で気付いていないというか、自分の気持ちに気付いていないんですか？

マーサ 私は純粋に隊長を尊敬してゐるんです。隊長の言葉は絶対です。そういう意味では信仰心に近いかもしれません。

サラ 信仰心ですか。

マーサ それ以外の特別な感情は持つてませんから。

サラ 分かりました。何もそんなに否定しなくても。カイトがかわいそうです。

マーサ ユリア様が変わること言うからじゃないですか。

サラ でも、カイトの為に何かしてあげたいと思うわけですよ？

マーサ それは勿論。私は隊長の背中を守りたいです。

サラ そうですか。

マーサ ……何です？

サラ 別に。

マーサ 何かすごい意味ありげな質問のようなんですけど。

サラ ゴメンなさい。マーサが可愛くて、ついからかってしまいました。

マーサ うー。

サラ お詫びと言つては何ですが、マーサにこれを差し上げます。

サラ、マーサにお守りを渡す。

マーサ これは？

サラ お守りです。

マーサ お守り？これがですか？

サラ 日本という東の国のお守りです。

マーサ 我が国のお守りとは随分違いますね。

サラ ええ。常に身につけていられるというのは面白いシステムです。その小袋の中に神が宿っているそうですよ。

マーサ この中に神が!?

サラ 小袋の中の神に願い事をして、身につけておくと、願いが叶うそうです。

マーサ 願い事は何でもいいのですか!?

サラ 神によつて得手不得手があると聞きましたが……多分、大丈夫です。

マーサ お詳しいですね。ユリア様は日本がお好きなのですか？

サラ ええ。私の教育係が日本の方で、いろんな話をしてくれました。いつかこの国が平和になったら、行ってみたい国です。その時はマーサも一緒に行きましょう。

マーサ はい。……でも、私はユリア様に何も用意しておりません。

サラ いいえ、私が欲しいのは情報です。

マーサ 情報。

サラ 今、町ではどんな事が流行っているのですか!? 何がオシャレなのですか!? 教えて下さい!!

マーサ え? えーと……今はヘアスタイルにこだわってる女性が多いです。どんな髪型にも耐えられる美しい髪質がオシャレと言われています。

サラ 髪質!? ……私は自信がありません。

マーサ そんなことありません。ユリア様の髪はとてもキレイですよ。

サラ 本当!?

マーサ はい。良いシャンプーを使ってらっしゃるんだろうなと思います。

サラ ツバキ。

マーサ ツバキですか? 聞いたことないですね。あ、もしかして。

サラ 日本のメーカーのシャンプーです。

マーサ やっぱり。ユリア様は本当に日本がお好きなんですね。

サラ 今度マーサの分も買っておきます。

マーサ 本当ですか!?

サラ 一緒モテ髪になりましたよ。

マーサ はい!!

サラ 他に何かオシャレなことがありませんか？

マーサ 他ですか？他は……あ!!あります、ピアスです!!

サラ ピアス。

マーサ 私が今つけてるピアスなんですけど、幸運のピアスで、町で一番流行ってるピアスなんです。

サラ 見た目は凄くシンプルですね。

マーサ このシンプルさが良いんじゃないですか!!これが今一番旬なオシャレです。多分2、3年は続くと思います。

サラ そんなに!?でも、確かに言われてみればカワイイかも。いいなあ……。

マーサ あ、あの、ユリア様!!

サラ はい？

マーサ 差し出がましいようですが、ピアスをプレゼントさせて頂けませんか!?

サラ え？

マーサ ユリア様にはいつも色々良くして頂いて、何かお礼がしたいと常々考えておりました。ですのでピアスをプレゼントさせて下さい!!

サラ 私は私に出来る範囲の事をマーサにしてあげただけで……。

マーサ 友達なら!!……友達は平等なものだと思っています。私は、ユリア様と平等でありたいと思っています。ですから!!

サラ ……はい、嬉しいです。

マーサ で、では、今度ユリア様の誕生日に!!

サラ はい。楽しみにしています!!

2人、笑う。照明切り換わる。レオとノエルのお話。

ノエル それでユリア様を日本へ逃がしたんですね。

レオ 第2の人生を好きな国で過ごして欲しかったんだろう。

ノエル 成程……。あ、マーサ副隊長って絶対カイト隊長に気があると思ってました。違ってたんですね。

レオ ノエル。お前、人間が神に何かしてあげたいと思うか？

ノエル 人間が神様にですか？まさか。逆なら分かりますけど。

レオ そう。人間が神に何か出来ることなんて何もない。何かしてあげたいと感じるのは相手が完璧じゃないからだ。

ノエル え、じゃあ、それって……。

レオ マーサはそれでも否定するだろうがな。

ノエル 意外と不器用な人ですからね……。あ、でも、ピアスの件は上手く切り出しましたね。

レオ ユリア様と約束して以来ずっと完成をせっつかれたけどな。急いで完成させたから計算が狂って精度が落ちた。

ノエル 相当ぐいぐい言われてましたね。いつもはカイト隊長が戦場に出ているとこっちが心配になる位

元気ないのに、あの時はそうでもありませんでした。

レオ ユリア様がいたからさ。

ノエル やっぱりマーサ副隊長とユリア様の間には本当の友情があつたんですね。

レオ ああ。勿論、本当の所はマーサにしか分からない事だが、俺はそう思つてゐる。……そうあつて欲しいと思つてゐる。

照明が切り換わる。サラとマーサに明かり。サラはハンカチで両耳を冷やしている。

サラ マーサ、何かこの格好間抜けじゃないですか？

マーサ 痛い思いをしたいなら手を下げてもいいですよ。

サラ そんなに痛いの？

マーサ 私は病院でやつてもらいましたからそんなでもなかったですけど。

サラ とここでマーサは慣れているんですか？

マーサ いいえ、初めてですけど？

サラ だ、大丈夫!!

マーサ 大丈夫です。ちよつとチクツとするだけで終わりますから。

サラ そう……お願いします。

マーサ はい。じゃあ、そろそろいいですか？(サラの耳を触つて)……どうです？触られてる感触ありますか？

サラ いいえ。

マーサ ちよつと強く触りますよ？……どうです？痛くないですか？

サラ 大丈夫。

マーサ なら平気ですね。いきます。

マーサ、ポケットからピアっサーを取り出す。サラ、それを見て。

サラ えつと、マーサ……。

マーサ はい？

サラ 大丈夫ですよね？

マーサ 大丈夫ですよ。任せて下さい。

サラ お願いします。

マーサ、ピアっサーをサラの耳に当てる。その瞬間、マーサの手をつかむサラ。

マーサ あの。

サラ はい。

マーサ 手をどけてもらえますか？

サラ え！

サラ、無意識に手をつかんでいた。急いで手を離すサラ。

サラ あ、ゴメンなさい。

マーサ それじゃ、いきますね。

マーサ、再びピアッサーをサラの耳に当てる。

サラ ああ。

マーサ はい。

サラ 心の準備がまだ。

マーサ コーゆーのは勢いが大事なんです。タイミング逃すと増々恐くなりますよ？

サラ 別に恐いわけじゃないですけど……。

マーサ ではさっさとやってしまいましょう。

サラ ああ。

マーサ 何ですか？

サラ　せめて、ピアスを見せて下さい。それなら勇気が出ます。
マーサ　それもそうですね。

マーサ、ポケットからピアスを取り出す。

マーサ　それでは、ユリア様。誕生日、おめでとございます。
サラ　ありがとうございます。

マーサ、ピアスをサラに渡す。

マーサ　可愛いですよね。私とおそろいです。

サラ　可愛いです。

マーサ　ユリア様なら私よりもっと似合いますよ。

サラ　……お願いします。

サラ、ピアスをじっと見ている。そんな様子を確認した後、マーサ、サラの耳へピアッサーを当てる。

サラ　あの。

マーサ 何ですか。

サラ そう言えば、この前、差し上げたお守りは持ってますか？

マーサ え、はい。肌身離さず持ってます。

サラ 何か願い事はしましたか？

マーサ いえ、まだ。

サラ 願い事がないのですか？

マーサ 逆です。多すぎるんです。

サラ 多すぎる……。

マーサ 美味しいものを食べたいですし、キレイな洋服も欲しいです。孤児院の子供達にお菓子をいっぱいあげたいですし、……両親にも会ってみたいです。

サラ その中で一番の願い事は？

マーサ それが特別これを叶えたいっていうものは……。しいて言えば子供達と一緒にお菓子が食べれたいですね。

サラ お守りは自分の為に願いを叶えるのですよ？

マーサ そうなんですか？でもあんまり願い事ってないんですよ。

サラ マーサは欲がないんですね。

マーサ そういうことを考えたことがないだけかもしれませんけど。

サラ そのお守りに「利益があるのは確認済みなのに……」。

マーサ え？

サラ そのお守り、少し痛んでるでしょ？

マーサ はい。

サラ 私が7歳の時、教育係の日本の方にもらったんです。それ以来、毎日願い事をして、ずっと持っていました。

マーサ そんな大切な物だったんですか？それなら頂くわけにはいきません。

サラ いいんです。それはマーサが持っていて、今度はマーサが願いを叶えてもらって下さい。私の願い事は叶えてもらいましたから。

マーサ え？

サラ マーサという素晴らしい友達が出来ました。

マーサ 私ですか!?!いいんですか私で??

サラ マーサがいいんです。ですから、それはマーサに持っていて欲しいんです。そして、願い事を叶えて欲しいです。

マーサ ユリア様……。あつ!!

サラ 何か思いつきました？

マーサ はい。あの、私、……。強くなりたいです。

サラ 強く？

マーサ 隊長の背中を守るくらい強く。今の私では戦場で足を引っ張ってしまいます。それじゃダメなんです。隊長が前だけを見て前進できるように。強くなって背中を守りたいです。

サラ それは結局カイトの為なのでは？

マーサ いいえ。私の存在理由です。私が私の為すべきことをしなければこの世に生を受けた意味がありません。そして、私の為すべき事は……。

サラ カイトの背中を守ること。

マーサ その為に強くなりたいです。それが私の願いです。でも……。

サラ でも？

マーサ 私は女で、くやしいですけど力では男に負けてしまいます。どんなに格闘術の訓練をしても、力で来られたら太刀打ち出来ないことがあるんです。何か私独自の力を身につけないと、隊長は私を認めてくれないでしょう。

サラ 女性でも男性に対抗出来る、新しい力……そうですね……例えば催眠術なんかどうですか!?

マーサ 催眠術？

サラ ね？相手を催眠術にかけてしまえばこちらの思うままに動かせます。どんな力自慢の人がいたって、その人の意識をコントロールできれば、マーサは誰にも負けません!!

マーサ いいですね、それ!!

サラ 確か家庭教師の中に心理学を学んでいた先生がいたはずですよ。催眠術について聞いてみましょう!!

サラ、上手へ去って行く。

マーサ 催眠術か……やってみる価値はあるかもしれない。

マーサ、手にしてるピアッサーに気付く。

マーサ あ……。ちょっとユリア様!!。ピアスはどうするんです!?

マーサも上手に去る。

ノエル マーサ副隊長の催眠術のアイデアってユリア様だったんですか!!

レオ 完全に思いつきだがな。でも、マーサにはその才能があつた。

ノエル 催眠術を修得してからのマーサ副隊長の戦闘力ハンパないですからね。

レオ 誰かと違って油断もないしな。

ノエル ちよつと、何なんですか。僕は油断なんかしてませんって。そういう目で見てるからそう見えるんじゃないですか?

レオ そう見える事が問題なんだ。ノエル、お前は能力は申し分ないが、いかんせんムラツ氣がある。戦場ではもつと集中力と柔軟な思考が必要とされるんだ。

ノエル まあ、集中力とはとかく、柔軟な思考なら自信ありますよ。

レオ ほお。

ノエル 例えばマーサ副隊長の願いはすぐに叶えられます。

レオ 何?

ノエル 催眠術ですよ。カイト隊長に催眠術をかけて、背中を守って欲しいと思わせればいいじゃない

ですか。

レオ お前は何も分かってないな。いいか……。

マーサが上手から入って来る。

マーサ 隊長に私の催眠術は効かない。以前試してみたことがある。

ノエル マーサ副隊長。

マーサ レオ、昔の話はやめてくれ。

レオ すまなかった。つい、な。

マーサ これが部屋のカギだ。預けておく。

マーサ、2人にカギを渡す。

レオ いいのか？この3つのカギが揃わなくてはユリア様の部屋のドアは開かないんだぞ？マーサの選んだ答えがユリア様だった時、どうするつもりだ？

マーサ 今にこだわる必要はない。いざとなったら助けるチャンスはある。

レオ ま、お前ならな。

ノエル あのだ。

マーサ 何だ。

ノエル カイト隊長には催眠術が効かなかったって……試したんですよ？

マーサ 私の願い事じゃなく別件でな。

ノエル 別件？

マーサ 隊長に頼まれたんだ。前の戦場での記憶を消してくれって。

レオ それで？

マーサ ……無理だった。私の力じゃ隊長の記憶を消し去ることが出来なかった。

ノエル 私の力じゃって……マーサ副隊長に無理なら誰に頼んでも無理ですよ。

レオ ノエル。

マーサ 自分の記憶が無くならないと分かった隊長は決断した。クーデターを起こすことを。……私にもっと力があれば隊長をあそこまで追いこむことはなかったし、ユリア様のご両親……国王だつて……。

レオ マーサ、それは違う。お前の力が弱かったんじゃない。隊長が、それだけの地獄をみてきたということだ。

マーサ だからこそ!!……だからこそ力になりたかったのに。

ノエル その時のその気持ちと、今のカイト隊長への気持ちって一緒ですか？

マーサ ……どういう事だ？

ノエル 正直、最近のカイト隊長が分からないんです。僕達を突き離すようなことを言ったりするじゃないですか。あれって……。

レオ それはお前自身で判断することだ。

ノエル 勿論カイト隊長について行きますよ!?!でも……あんなこと言われちゃうと、迷惑なのかなって
思います。

レオ もしくは、止めて欲しいと思ってるか、だな。

ノエル クーデターに参加した我々が止めるのは筋違いですよ。

マーサ そうだ。……我々の立場で隊長を止める訳にはいかない。

兵士A、B、Dが下手から入って来る。

兵士D 報告致します!!侵入者、A地点を通過。ノエル班長、ポイントへ移動して下さい。
ノエル 分かった。すぐに行く。お前達は待機だ。くれぐれも手出しするなよ。

兵士3人、短く返事をして下手へ去る。

ノエル 正直、あまり気乗りしませんけどね。

マーサ 気を引き締めろ。お前は只でさえスキが多いのだから。

ノエル マーサ副隊長まで!!僕は油断なんかしてませんって。

マーサ 口で語るな。我々は兵士だろう。……兵士なら結果で示せ。

ノエル ……分かりました。

ノエル、2人に敬礼して、下手へ去る。マーサはノエルの後姿を目で追う。
レオはマーサを見ている。マーサその視線に気づき、

マーサ どうした？

レオ いや……そうか、隊長も当初は悩んでいたのかと思ってな。

マーサ お前も覚えているだろう。先の戦場から帰ってきた隊長の姿を。

レオ ああ。体中キズだらけで、頭に銃弾まで受けていた。生きているのが不思議な位だった。
マーサ だが問題は体じゃない。心だ。2千名の命を犠牲にして自分だけ助かったと思っ

ている隊長はあれから一秒たりとも心休まることなく悩んでおられる。

レオ それでお前の所へ、か。

マーサ それがどうかしたのか？

レオ 隊長が俺にクーデターの話をしてくれた時、俺は嬉しかった。重要な事を俺に打ち開けてくれたのだと。俺は隊長に一番信用されてるんだと思った。

マーサ 別に隠してたわけじゃない。

レオ 分かってる。これは俺のグチだ。

マーサ レオはどうしてそこまで隊長に尽くす？

レオ 俺だけじゃない。ノエルもだ。

マーサ そうだな。

レオ 俺とノエルは同郷だな。3年前、俺達の村に敵国が攻めてきたことがある。田舎だった村にはた

いした兵を用意してくれなくて、村はあつという間に勢圧されてしまった。村人は広場に集められ、皆殺しにされようとした、その瞬間、大部隊が一勢に突入してきて敵を獄滅したんだ。その部隊が――。

マーサ 陸軍第8部隊。

レオ 俺は当初、国が俺達を見放さなかったんだと、喜んだ。だが、後で調べて分かったんだが、国はあの時、俺達の村を切り捨て、村ごと敵を全滅させる方針だったらしい。第8部隊が来てくれたのは、隊長の独断だった。俺の命だけじゃない。家族の命だけじゃない。住む所も、生活も含めて村全部をあの人は救ってくれたんだ。俺はあの人に連いて行くと誓った。

マーサ ……そうか。

レオ だが、残念だが俺は隊長にとって2番のようだ。

マーサ え？

レオ 本当に全て打ち開けられるのはマーサ、お前だろう。それが兵士としてなのか、他に理由があるのかは分かんないがな。……マーサ。

マーサ、レオを改めて見る。

レオ お前が隊長の事を憧れただけで見ているのだとしたら。

マーサ ……だとしたら？

レオ お前を少し見損なう。

マーサ それは!!

レオ 俺の勝手な言いばかりだ。気にするな。

マーサ 本当に勝手だ。

レオ 本音つてのはな、いつだって勝手なもんなんだよ。

マーサ …… 違う。さ、私達も向かえ打つ準備をしよう。

マーサ、レオ、下手へ去って行く。

上手より、大家、小町、信彦、源十郎、茜、力丸、陣兵が入ってくる。

源十郎 この大使館のどこかにサラさんがいるはずです。

力丸 どうする? 2手に分かれて探すか?

大家 いえ、一塊になつて移動した方がいいでしょう。

陣兵 小町さんは俺の後ろに。

小町 私は弱い女なんだからね。ちゃんと盾になつておくれよ?

陣兵 まかして下さい!!

信彦 でもいいんですかね? 大使館に不法侵入なんて。日本政府に連絡されたら間違いなく警察沙汰ですよ。

大家 警察!?

源十郎 警察より自衛隊じゃないですか?

茜 いーのよ!!緊急事態なんだから!!後でちゃんとゴメンなさいって謝れば許してくれるわよ。

信彦 そんなもんで許してもらえるものなのかな?

茜 いざとなったら。パ。パのせいにして九頭竜組解散させれば向こうの顔も立つでしょ?

力丸 ちよつと親父に電話してきます。

茜 冗談よ、冗談。いざとなったらつて言ってるでしょうが。

力丸 そういふのは冗談とは言いません。

源十郎 大事になった時は世界平和機構からも話してもらいますので、今はとりあえずサラさんを助ける事に集中しましょう。

信彦 分かりました。サラさんのいる部屋の目ぼしはついてるんですか?

源十郎 この大使館は4階建てです。いるとすれば……。

茜 4階ね。

源十郎 おそらく。

大家 あの、隊長とやらは?

源十郎 大使の部屋ではないかと。

大家 その部屋は?

源十郎 4階にあります。サラさんが同じ大使の部屋にいるとは思えませんが……。

大家 でしょうね。でもいいんです。分かりました。大使の部屋ですか。

信彦 えーと、階段は……あ、あった。向こうですね。

信彦、下手を指差す。一同、下手へ移動。

下手より、ノエルが入って来て立ちほだかる。

ノエル お前達、あれだけの戦力差を見せつけられて諦めないのか？という思考回路してるんだ。

茜 あなたねえ!!

力丸 お嬢!!

力丸、前へ出ようとした茜を止める。

茜 サラはどこよ!! 連れ戻しに来たんだから、さっさと案内しなさい!!

ノエル 口のきき方を知らないお嬢さんだ。それが人のモノを頼む態度か？

茜 何えらそうに言ってるのよ。サラを無理矢理さらったくせに!!

ノエル それは仕方ないでしょう？ あんた達が弱いのが悪いんだ。

茜 何ですって!!

ノエル、カギを取り出し、目の前に見せる。

ノエル このカギ、何のカギが分かるかい？

信彦 もしかして、

ノエル ユリア様がいる部屋のカギさ。これと同じ物があと2つある。部屋は3つのカギがないと開かない。さあ、どうする？（警棒を取り出して）一気に全員を相手にしても構わないぞ？

信彦、前へ出る。

信彦 ここは俺に任せて皆さんは先に進んで下さい。必ずカギを手に入れて後を追います。

力丸 無茶だ。あいつを一人で相手にするつもりか!?

信彦 僕はその為に来たんです。こう見えても結構負けず嫌いなタチでして。

源十郎 先生!!

小町 大丈夫なのかい!?

信彦 大丈夫かどうかは分かりませんが、やるしかありません。サラさんが心配です。さ、急いで。

ノエル、道をゆずり、

ノエル 行きたければ行くがいい。止めはしない。

陣兵 何か裏がありそうだな。

ノエル 別に。ただ……この先の方がツライと思うっただけだ。

大家 ……行きましよう。

大家を先頭に一同、下手へ去る。

センターよりやや下手に信彦、下手側にノエル。2人相對する。

ノエル お前一人が残ったって事は、これ(警棒)で勝負するつもりはないようだな。

ノエル、警棒をおさめる。

信彦 そうですね。負けず嫌いの僕でも流石にそれで勝負する気にはなれません。

ノエル じゃあ……。

信彦 例えば……これなんてどうです？

信彦、ポケットから一枚のコインを取り出し、表裏をクルクル見せる。

ノエル そのコインがどうかしたのか？

信彦 賭けをしましょう。

ノエル 賭け？

信彦 運否天賦はしないことが信条のこの僕が、あの場の空気に飲まれたとはいえ、醜態をさらしてしまいました。同じように賭けで勝たないと僕の気持ちは晴れません。

ノエル 飲まれているのは今も同じじゃないのか？今の発言は何かしかけますよと言ってるようなもの

じゃないか。

信彦 かもしれないね。いいですよ。自信がなければ他の勝負でも。

ノエル 随分安い挑発だな。……だがいいだろう。乗ってやる。ルールを説明しろ。

信彦 いえ、賭けの勝負、そしてコインを提案したのは僕です。ルールは……えーと。

ノエル ノエルだ。

信彦 ノエルさんが決めて下さい。

ノエル いいのか？こっちに有利なルールにするかもしれないぞ？

信彦 当然、あまりにも不利なルールなら断ります。ここまでの話合い、お互いにイーブンで進めてきたと思いますか？

ノエル 分かった。といっても変な小細工をするつもりはない。お前ごとき真正面からつぶしてやる。

信彦 ……それではルールを。

ノエル 単純だ。コイントスで勝負する。互いに表か裏を決めて、賭けた面が先に5回出た方の勝ちだ。

信彦 コイントスはどちらが？

ノエル 交互でいいだろう。コイントスをしない者はそのゲームが終わるまでコインには触れてはならない。

信彦 念の為にコイントスの動作を確認したいのですが。

ノエル 簡単だ。

ノエル、コインを指ではじいて、手の甲の乗せる。

信彦 分かりました。……でも、僕はコイントスに慣れていません。落つことになってしまうかも。

ノエル それも有効とする。

信彦 どういう流れであつても最終的に着地した面が有効ということですね？

ノエル ああ。ルールはこのくらいだ。何か不満は？

信彦 そうですね……確認させて下さい。

ノエル ああ。

信彦 お互いにコインの表か裏かを決めて、交互にコイントスしていき、自分の賭けた面が先に5回出た方の勝ち。コイントスをしない者はコインに触つてはならず、コインのキャッチに失敗しようと、最終的に出た面を有効とする。

ノエル そうだ。互いに公平なルールだと思うが？

信彦 ええ……。あの。

ノエル ん？

信彦 一つ、加えて頂きたいルールが。

ノエル ……何だ？

信彦 コイントスした後、出た面を相手に見せてキチンとコールすること。でないと本当は違う面が出たのに、パツとしまわれちゃ賭けになりません。

ノエル ……分かった。ところでこれは賭けなんだろう？

信彦 はい。

ノエル 僕は当然、このカギを賭けるとして、お前は？お前は何を賭けるんだ？

信彦 賭けるものですか……。

ノエル このカギは上の人達から信用されている証だ。存在理由と言つてもいい。それと同等の価値あるものを賭けてもらわなきゃな。

信彦 なかなか嫌なプレッシャーをかけてきますね。えーと……僕は小説家です。

ノエル 小説家？お前が。

信彦 ぶっちゃけ売れてない小説家です。が、小説家であることに誇りを持っています。

ノエル それで？

信彦 この勝負に、文章を書く……この右手を賭けます。

ノエル 何？

信彦 僕が負けたらこの右手を好きなようにして下さい。切り落とすなり、何なり。たださつきも言った通り、僕は売れない小説家です。その右手とノエルさんの存在理由のカギが同価値かは分かりませんが。

ノエル ……本気なのか？

信彦 ええ。

ノエル 売れてないとはいえ、小説を書く事がお前の生きる道なんだろう？

信彦、少し考えて。

信彦

……そうか。そうなんですよね。僕は小説が書きたかったんです。小説家になりたいから小説を書くんじゃないくて、小説を書きたいから、小説家なんです。なんだ、単純な事なのに……こんな状況にならないと気付かないなんて……

信彦、右手をノエルの方に出し、

信彦

僕の右手は間違はなく、カギに見合うだけの価値があります。ですから……僕はこの右手を賭けます。

ノエル

何て言って実は左ききでした、なんてことは無いだろうな？

信彦

ノエルさん、僕はこの勝負を冒読する気はありません。

ノエル

……分かった。勝負はコイントス。賭ける物は、僕はこのカギ。お前は右腕。これでいいな？

信彦

はい。

ノエル

それで、表裏どつちに賭ける？

信彦

僕は……表で。

ノエル

じゃあ裏に賭ける。こつちが先行でいいか？

信彦

どうぞ。

ノエル、コイントスをしようとする。

信彦 コインは調べなくていいんですか？

ノエル そういう発言をするってことはこのコインには何も細工してないだろう？

信彦 まあ、してませんが。

ノエル 余計な話はいいい。1ゲーム目を始めるぞ。

ノエル、再びコイントスの構え。一瞬静寂した後、コイントスをする。
手の甲に乗せ、片方の手で蓋。ゆっくり手を開ける。

ノエル 確認しろ。

信彦、ノエルに近付き、コインを見る。

信彦 一応ルールですからコールして下さい。

ノエル 裏だ。これで1ポイント先取だな。

ノエル、信彦にコインを渡す。信彦、コインを受け取って構える。

信彦 ジャンケンと同時に勝負するわけですから気合い入れは不可抗力として認めましたが、私の番で大声を出したら不可抗力は成立しませんからね。

ノエル 大丈夫だ。もうお前なんかには細工はしない。

信彦 それを聞いて安心しました。……いきます。

信彦、コイントス。ノエルと同じように手で蓋。ゆっくり開ける。

信彦 確認して下さい。……表です。

ノエル、コインを確認。そのままコインを取る。

何も言わずにコイントス。すぐに開けて信彦に見せる。

信彦 コールを。

ノエル 裏だ。これで2対1だな。

信彦 ノエルさんが先行なだけです。

信彦、ノエルからコインを受け取り構える。

信彦 ノエルさんの国では戦争をしているんですね。

ノエル それがどうかしたか？

信彦 何年ぐらい続いているんですか？

ノエル 情報を引き出して僕を動揺させるつもりだろう。その手には乗らないよ。

信彦 別にそういうわけじやありませんよ。ただ：サラさんが王女で、父親がああ隊長に殺されたという事はクーデターを起こしたという事ですよね？戦争が長引いているなら、それに対するクーデターなのかと思ひまして。国王に任せていたらいつまでもたつても戦争が終わらないって。

ノエル そんな単純な理由ならどんなに楽か。

信彦 やっぱり。

ノエル ……やっぱりだと？

信彦 ノエルさん、今、悩んでるでしょう？

ノエル お前、何言つて……!!

ノエルが言いかけた時、信彦、コイントス。手をゆっくり開ける。

信彦 表です。これで2対2ですね。

ノエル、コインを受け取りながら。

ノエル 挑発的な発言はそろそろやめておけ。賭けでの勝負を受けたのは僕の情けだという事を忘れるな。気が変わればこれ(警棒)で決着をつけてもいいんだ。

信彦 ……怖いですね、でも、これが僕のやり方です。ノエルさんに勝つ為に。

ノエル 右腕だけじゃ物足りない。……お前のプライドも奪ってやる。

信彦 平和ボケしたちっぽけな島国に生きる男のプライドですが……安くはありませんよ？

信彦とノエル、相対する。

ノエル だったら尚更、そのプライドを根こそぎ奪いとってやる。

ノエル、コイントス。確認してから信彦に見せる。信彦、確認して。

信彦 コールを。

ノエル 見れば分かるだろう。

信彦 ルールですから。

ノエル 裏だ。

ノエル、コールしてからコインを取り信彦に渡す。

信彦 この勝負にかけているのはお互いの存在理由のほずです。妙なことでアヤをつけたくないですから、ルールは守りましょう。

ノエル ゴチャゴチャ言わずに早くやれ。こっちはお前ほど暇じゃないんだ。

信彦 暇も何もノエルさんの仕事は侵入者である我々の排除でしょ？この勝負にキチッと勝つ事が……。

ノエル お前がさつさとやらないなら僕はアイツらを追うぞ。

信彦 分かりました!! 分かりましたよ!!

ノエル 早く!!

信彦、慌ててコイントス。中々手が開けられない。

ノエル お前も多少なりとも勝負の機微を知る者なら分かるはずだ。自分の呼吸、タイミングで事をなさなければ結果は必ず裏目に出る。

信彦、動けない。

ノエル どうした？開けてみせろ。

信彦、手を開ける。のぞき見るノエル。大笑い。

ノエル ルールを忘れたのか？キチンと守れと言ったのはお前だろう!! さあ、コールだ!! コールしろ!!

信彦 ……裏です。

ノエル　とうとうポイント差がついたな!! とういう時は流れもこつちに来るものだ!! お前もそう思うだろ!?

信彦　認めたくはありませんが確かに流れというのがありますね。今のままでは流れはノエルさんに行き、私は勝負に勝てないでしょう。

ノエル　コイントスを急がしたのはルール違反か? 違うよな? 僕の言葉なんか無視すれば良かったんだ。仲間の事を思い出して自分のペースを崩したのはお前自身だ。

信彦　随分饒舌ですね。もう勝ったおつもりですか?

ノエル　流れがこつちに来ていることはお前も認めたらう?

信彦　流れだけで勝てるほど甘い勝負ではありませんよ。流れに対抗するには気合いです。

ノエル　自分でクギをさしておいて大声作戦でもするつもりか!?

信彦　まあ、似たようなものかもしれませんが、かけ声なんかではなく、もつと意味のある魔法の言葉を出させてもらいます。

ノエル　魔法の言葉! ? お前程度の人間に何を言われた所で僕が動揺するとは思えないけどな!!

ノエル、コインを構える。静寂。ノエルがコイントスをしようと手を下げた瞬間、

信彦　油断はいけませんよ、ノエルさん。

ノエル、そのままコイントス。少し体勢を崩すが、何とかコインをつかみ手の甲に乗せる。

信彦を見て、

ノエル 貴様ー!!

下手より大家、小町、源十郎、茜、力丸、陣兵が入って来る。源十郎は電話をしている。

源十郎 分かりました。情報ありがとうございます。報告は後程。……了解。

源十郎、電話を切る。

源十郎 クーデターの理由は今話した通りです。

陣兵 国から見捨てられた事に対する復讐か……。まあ気持ちは分からんでもないな。

茜 それはあの男が勝手にそう思ってるだけでしょう？ 本当に電話に出れない事情があつたかもしれないじゃない。

力丸 各国の首脳陣と食事してただけですよ？

茜 だから力丸はいつまでたつても上へ行けないのよ。もっと政治を学びなさい。

力丸 え、どういう事ですか？

茜 その話は後。今はとにかくサラを助けなきゃ。

小町 カギの一つは先生が必ず手に入れてくれる。あと二つだけど……。

大家 おそらくあの時の2人が持っているのでしょう。
茜 とにかく先を急がなきゃ。

全員、上手へ去ろうと移動した瞬間、一発の銃声。全員ピタッと止まる。

レオがリボルバー式の拳銃を持って入って来る。

レオ なぜこんなに早くお前達がここにいる？まさかノエルがそのまま見逃したわけじゃないだろうな？

小町 アンタの部下なら先生が相手をしてるよ。

レオ 先生？……ああ、あの時、ノエルに勝負を挑んだ男か。そいつと決着をつける為に他の者はスルーした……あいつらしい考えた。

小町 アンタは!? アンタもカギを持ってるんだらう!?

レオ、カギを取り出し、

レオ これの事か？

茜 それを渡しなさいよ!!

レオ と、言われて素直に渡すわけがない事くらい分かるだろ？

茜 何よ、あなたも勝負がしたいわけ!?!いいよ!!受けて立ってやる!!

レオ お前はあの時、隊長の圧力にも屈しなかった女か。いいだろう、お前から……。

レオの話の途中で力丸が前へ出る。

力丸 すみませんねえ。あなたの相手はその圧力に屈した男です。

茜 力丸!!

陣兵 アニキ!!

レオ お前が相手だと？俺をバカにしているのか？

力丸 いえいえ。バカにするだなんて。認めてますよ、アナタの事は。

レオ 己を貫けなかった男に俺の相手が務まると思っているのか!!

力丸 だからここに来たんだろーが!!

力丸、レオに近付く。

茜 力丸!!

力丸 どうした？撃てよ。

力丸、更にレオに近付く。

陣兵 アニキ!!

力丸 こんだけ近けりや当たんたる、撃てよ。

力丸、更にレオに近付く。銃口が力丸の眉間に付く。

力丸 撃て!!

レオ ……お前、恐くないのか？

力丸 覚悟を決めたからな。テメエに俺と同じ覚悟はあるんだろうな？

レオ どういう事だ。

力丸 ナメられっぱなしじゃ下のモンに示しがつかねえんだよ!! ヤクザはな、命はると決めたらトコトンはるんだ。俺はもう一切引く気はねえぞ。……どうした、撃てよ。こんだけ近付いてやったんだ、撃てよ!! ただし、いいか……。いいか、よく聞けよは執念深いからな。死んだ後でもこの体動かしてお前を殺しに行くぞ。例えば首だけになってもこの口で!! お前のノドを喰いちぎってやる。日本のヤクザを……。この安藤力丸をナメんじゃねー!!

静寂。レオ、力丸の目を見た後、銃口をずらす。

レオ 成程。これが本来のお前の姿か。先程とは別人だな。いいだろう。お前との勝負受けてやる。
力丸 と、いう事ですね、お嬢、先に行つて下さい。

茜　力丸!!

力丸　行つて下さい。

茜　でも!!

力丸、茜の方を振り返り優しく諭すように、

力丸　お嬢。

茜　……分かった。でもいい!? 死んだらダメなんだからね!! 死んだら殺してやるんだから!!

力丸　お嬢はこんな時でもお嬢ですね。

陣兵　アニキ!! 良い背中見してもらいました!!

力丸　……そういえばお前とは長い付き合いになるが、飲みに行ったことはなかったな。

陣兵　え、あ、はい。

力丸　この件が片付いたら俺の馴染みの店に連れつてやる。

陣兵　あざす!!

力丸　朝まで付き合えよ?

陣兵　はい!!

力丸　……行け。

力丸の言葉を受けて、大家、小町、源十郎、茜、陣兵上手へはける。

カ丸、レオに向き直り、

カ丸　それで？どんな方法で勝負するんです？

レオ　これは俺とお前、どちらが自分を貫けるかの勝負だ。

カ丸　……そうですね。

レオ、拳銃を見せて。

レオ　俺は拳銃の中でもリボルバー式が好きだな。勿論戦場じゃこんな旧式は役に立たないが、お守りがわりにこいつを持っている。

カ丸　チャカがお守りねえ……。しよせん人殺しの道具ですよ。

レオ　美学の分からん男だ。

カ丸　で？まさかただのコレクション自慢したわけじゃないでしょう？

レオ　勝負にはこれを使う。

カ丸　チャカ一つで何の勝負を……まさか。

レオ　ロシアンルーレットだ。賭けるのは互いの命。カギはこの次だ。

カ丸　命を賭ける事に異論はありませんが、そうはいつてもこちらの目的はカギなんです。そつちが負けたとして素直にカギを渡しますか？俺には死体をまさぐる趣味はないんですがね。

レオ　カギは今渡してやろう。

レオ、カギを力丸に投げる。力丸それをキャッチ。

レオ お前が勝負を降りた時、死んだ時はカギを回収させてもらう。

力丸 不思議なものです。数分後には死ぬかもしれないのにワクワクしている自分があります。

レオ ……俺もだ。

レオ、リボルバーから弾を取り出し、一発だけ込め、そのまま力丸に渡す。

レオ 一発だけ弾を込めた確認しろ。

力丸 確かに。

レオ お前が回せ。

力丸 ……もう少しチャカを確認させてもらいます。

力丸、拳銃を隅々までよく見る。

レオ 充分だろう。回せ。

力丸、一瞬チラッとレオを見て、拳銃に視線を移し、リボルバーを回転させる。
レオその間、目を閉じ耳をすませる。

力丸 これで準備完了というわけですね。

レオ 一ついい事を教えてやろう。

力丸 何です？

レオ お前が俺の国に生まれていれば知っていたかもしれない情報だ。陸軍第8部隊のレオ副隊長は
神の耳を持つてな。

力丸 神の耳？

レオ 俺は人の数倍聴力が発達しててな。目で見る情報よりも耳からの情報の方が多い。今のもそ
うだ。お前がリボルバーを回す音を聞いていた。俺には何発目に弾が込められているか分かつて
いる。

力丸 バカバカしい。

レオ 信じるか信じないかはお前次第だな。

力丸 じゃあ、あなたが選んでいいですよ？先に撃ちますか？後からやりますか？

レオ 後攻だ。俺は後攻を選ぶ。

力丸 それでは俺からですね。

レオ 5発目だ!! 6つの内、5発に弾が入っている。

力丸 どちらの方が自分を貫けるかの勝負と言ったのはあなたです。敵の言うことにいちいち反応し

ていられませんね。

力丸、こめかみに銃口をあてる。目をつむり集中。静寂。

目を開けた瞬間、引き金を引く。カチリと音がする。力丸、大きくため息。しばらく動けない。

レオ
一発目からそんなに時間をかけてどうする。

レオ、力丸から拳銃を取り、自らのこめかみにあて、すぐに引き金を引く。カチリと音がする。

レオ
だから言ったろう。弾は5発目に入っていると。

レオ、力丸に拳銃を渡す。ゆつくりこめかみにあてる力丸。
目を閉じ集中。が、こめかみから銃を下げ、一息つく。

レオ
どうした？勝負を降りるのか？

力丸
さっきみたいな情けない気持ちを味わうくらいなら死んだ方がマシですね。

力丸、再び銃口をこめかみにあてようとするが出来ない。

レオ さっきの勢いはどうした!?とことん命をはるんだろう!? お前の信念の貫き方など所詮こんなものか!?

力丸、動けない。力丸拳銃を見ながら、

力丸 アンタは死ぬのが恐くはないのか。

レオ 戦場で恐怖を感じたら生きていけない。生きる為には心を殺すんだ。

力丸 それは寂しい人生な事で。世の中には楽しい事がいっぱいありますよ。俺はこの先

やりたい事がたくさんあるんでね。アンタにはないのか?

レオ 俺は戦争しか知らん。

力丸 一人の人生……生まれた場所が違っただけでどうしてこんなにも未来の価値に差が出来るんでしょねえ……。

レオ ……もう諦める。完全にタイミングを逃したろう。お前にはもう撃つ気力はないはずだ。一発目の引き金を引けただけでもほめてやろう。

力丸 いやいやいや。だからさっきも言ったでしょう。この安藤力丸をなめてもらっちゃ困る。アンタが生きる為に心殺すなら、俺は死ぬために心を生かす!! 死ぬ直前、満面の笑みを浮かべて死ぬ為に、俺は俺の人生を生きる!! 俺はまだまだ死ねないんだよ!!

力丸、3発目の引き金を引く。不発。シーンとした間。

力丸、ゆつくりと拳銃をおろしてレオに渡す。レオ今度はなかなか動けない。

力丸　……どうしました？ 5発目だって確信しているんでしょう？ なら簡単な事じゃないですか。2発目の時のようにさつさとやって下さいよ。

レオ、ゆつくりこめかみに拳銃を当てる。しかし、撃てない。

力丸　生きる為に心を殺す……死を覚悟する言葉にしちやあちよつと弱い気がしますけどねえ。

照明が変わる。上手より大家、小町、源十郎、茜、陣兵が入って来る。

小町　いよいよ3階か……。

大家　皆さんに言っておく事が。

小町　何だい？

大家　この階はおそらく一番やつかいな人が出て来ると思いますが、私はその人の相手をするつもりはありません。

小町　それは構わないけど……何かあるのかい？

大家　私の相手は向こうのボスと決めています。余計な体力を使いたくありません。

小町　サウちゃんさえ助ける事が出来ればいいんじゃないか？

大家　いいえ。この手の相手は何度でもやって来ます。サラさんの今後の平和を考えれば……。

茜　ボスがもう二度と私達と関わりたくはないと思わせる。

大家　流石。組長の娘だけありますね。

茜　いいわ。あの人の相手は私がする。あの人には言いたい事がたくさんあるんだから。

小町　茜ちゃん。

茜　あ、あ、茜ちゃん？生まれて初めてちゃん付けされたわ。

小町　悪いけど、茜ちゃんにはあの人の相手は無理ね。

茜　え、どうして？

小町　茜ちゃん、お父さんの事は好きかい？

茜　うん、大好き。

小町　お母さんは？

茜　ママも大好き。

小町　じゃあ、お父さんとお母さん、どっちが好きなんだい？

茜　えー!?そんなの比べらんないよ!!

小町　それでいいのさ。普通はね。

茜　え？

小町　でも……。

マーサ、下手から入って来る。

マーサ 時にはそれを選択しなければならぬ時もある。

茜 アンタ!!……アンタねえ。サラの古くからの友達なんですよ!!なんで助けてやらないのよ!!
マーサ 黙れ。

茜 謝つたりお礼言つたり訳わかんない!!一体サラの事どう思ってるのよ!!

マーサ 黙れ!!お前に何が分かる!!

茜 分かんないわよ!!私はもつと単純だもん!!サラは私の友達。だから助ける!!

小町 茜ちゃん。

茜 ……何?

小町 ここはバトンタッチ。

茜 え?

小町 タッチ。

茜 でも!!

小町 タッチ。……ね?

茜 私、間違ってるかな?

小町 ううん。茜ちゃんは間違つてない。でもね、全ての女が茜ちゃんみたいに正解が出せるわけじゃないんだよ。いろんな気持ちやしがらみが心にへばりついて答えが出せない女もある。……私やあの人のようにね。

マーサ ……何だと?

小町　だからここは小町ママの人生相談つてやつさ。何でも話してご覧。見事スッキリさせてやろうじやないか。ただし、タダつてわけにはいかない。しつかり報酬は頂くよ？

マーサ　人生相談など必要ない。答えは自分で出す。

小町　今までさんざん悩んで来たクセに。だから今、こんな状況になつてゐるんだろ!?ズルズル答えを先伸ばしにした結果が今だよ!!分かつてゐるのかい!!

マーサ　黙れ!!

小町　そう。悩んで助けて欲しい奴つてのは皆そう言うんだよ。だから……。

マーサ　私は誰かの助けがなければ答えが出せない程、弱くはない。

小町　いいや、アンタは弱いね。自分の理想ばかり追いかけて現実を見ちゃいない。アンタこの期に及んでまだ2人を同時に手に入れたなんて思つてゐるんじゃないのかい？

マーサ　うるさい!!……それ以上続けるなら本当に殺すぞ。

小町　ホラッ痛い所をつかれるとすぐに耳をふさぐ。これが弱さじゃなくて何だつて言うんだい!!
マーサ　黙れ!!

マーサ、警棒を小町に振るう。陣兵、ドスを取り出し受け止める。

陣兵　どうやらここに残るのは小町さんと俺らしいですね。

小町　大丈夫なのかい？

陣兵　大丈夫も何も俺は小町さんを守る為にここに来たんです。小町さんが残るなら当然俺も残

りますよ。

小町 と、いうわけだからさ、大家さん、行つとくれ。

大家 小町さんは危ない事しないで下さいよ？

小町 それはこの人の役目だよ。だろ？

陣兵 うっす!!

大家 あの人言葉には気を付けて下さい。……小町さんをお願いします。

源十郎 お気を付けて。

茜 しっかりやんなさいよ!!

陣兵 まかして下さい!!

大家、源十郎、茜、下手へ去る。マーサ3人を見て。

マーサ 行かせると思ふのか!?

マーサ、警棒で攻撃しようとするが、陣兵がドスを抜いて追撃する。

陣兵 おっと!!アンタの相手はこつちだ。

マーサ、陣兵のドスを警棒で受け止める。

陣兵 さ、行つて下さい!!

茜 陣兵、また後でね!!

陣兵 はい!!

大家、源十郎、茜、下手へ走り去る。マーサ、陣兵のドスを払いのける。

陣兵と小町、その流れで下手へ移動。マーサの前に立ちはだかる。

陣兵 ドスを抜いてみたものの、女を傷つける趣味はないんでね。引く気はないか?

マーサ 私より戦闘力の低い奴に言われても命ごいにしか聞こえないな。お前達を早く倒してあいつらの後を追わせてもらおう。

小町 お待ちよ。少し話をしようじゃないか。

マーサ 話をすることなど何もない。お前達こそ見逃してやるからそこをどけ。

小町 弱いアンタが追つたつて仕方ないじゃないか。

マーサ 私は弱くはない!! 弱いのはお前達だろう!!

小町 そう。私達は弱い。でもね、弱さを受け入れる強さは持っているんだ。「強い」という言葉にしばらくは
られてるアンタよりはマシさ!!

マーサ お前に何が分かる!!

小町 それが意外と分かるんだよ。ダテに何十年も夜の世界にいるわけじゃないんでね。例えはアン

タのその暗い顔の原因。サウちゃんを選べばいいのか、あの男を選べばいいのか分からなくて悩んでる。答えを出すのが遅れた為にこんな事になってしまい、後悔している。

マーサ ……そうか……。お前も所詮。

小町 と、思うだろうねえ。普通の人なら。

マーサ 何？

小町 でもそうじゃない。アンタの暗い顔の原因はもつと内面的なモンのはずさ。アンタは悩んでるんじゃない……。そう、自己嫌悪。アンタ自分で自分の事が嫌いだろ？それは何だい？何に納得出来なきゃそこまで自分を許せないんだい？

マーサ お前……。

小町 教えとくれよ。もし今、私が言った事に一ミリでも心に届くものがあつたなら、アンタが本当に弱い人間じゃないっていうなら教えとくれよ。……自分の何が許せなかったんだい？

マーサ ……お前達は何故ここに来た？いや、何故来れた？あれだけ痛い思いをして警告までしたのに何故？我々がまた見逃すとも思つたのか？本当に殺すわけがないと？

小町 理由を聞かれても、体が勝手に動いたとしか言いようがないね。勿論一人じゃ来れなかった。ここに來れたのは皆がいたからさ。

マーサ 死ぬのが怖くないのか？

小町 それが原因かい？

マーサ 私は…私は死ぬのが怖い。ユリア様を助ければ私は隊長に殺されるだろう。だが隊長について行ってもあの人は戦争を止めはしない。敵国を制圧してもまた新しい敵を見つけて戦争を始

めるだろう。隊長が死ぬまで。私はどちらかを選べなかったんじゃない。どちらかを選ぶことによって死に近づくのが怖かったんだ。

陣兵 何か話が難しすぎてよく分からんだけど、…アンタが根っからのお人良しだってことは良く分かった。

マーサ お人良しだと？

陣兵 死ぬのが怖いねえ……そんなの当たり前だろ。人は誰でも死ぬのが怖い。だから自分を守る。自分を大切にする。「人の為に生きる」なんて前提持てる分だけアンタは根っから優しいんだ。他人の為に死ねない自分を許せない？俺からしたら信じれない悩みだね。

マーサ お前達はここに死を覚悟して来たのではないのか？

小町 そうだね。覚悟はしているよ。

マーサ 言ってる事とやってる事が矛盾しているぞ。

小町 まあ、普段思ってる事と、いざって時の行動は違ったりするもんさ。アンタだってそうじゃないか。いざって時は裏切り者扱い覚悟でサラちゃん逃がしたんだろ？ちゃんと命はつてるじゃないか。

マーサ でも私は一緒には行かなかった!!

小町 それが答えなんだろ？

マーサ え？

小町 裏切って尚、あの男のそばにすることを選んだ。ならそれが答えなのさ。

マーサ 敵の言葉をうのみにして誤魔化される程、私はおろかではない。死の覚悟を持ってここに来たと

言ったな。命のかかっていない状況で命の話をしても説得力はないだろう。その場しのぎの言葉でない、お前自信が照明してみせろ。

マーサ、警棒を構え、小町へ振るう。陣兵、それをドスで止める。

陣兵 何事にも役割分担つてのがあつてな。それを照明するのは俺の役目だ。

マーサ、離れて構え直す。陣兵、小町の前に来る。

マーサ お前達は互いの為に命をはれるのか？

陣兵 当たり前だろ！！

小町 この人はそんなじゃないさ。自分を犠牲にするつもりはないよ。夜の女はね、男がいないと困るようなそこらの女とは違うんだ。

マーサ (陣兵に) そういうことらしいぞ。残念だったな。

陣兵 馬鹿野郎！！男はな、ホレた女の為に命をはるんだ！！見返りなんてこれっぽっちも求めてないんだよ！！

小町 あんた……いいのかい？それで？

陣兵 当たり前じゃないっすか！！守らして下さいよ！！

小町 ……そうだね。私を守るって約束したもんね。

陣兵 はい!!

マーサ 成程、そういう事か。

陣兵 何がだ。

マーサ そういう事ならいいだろう。命の覚悟、お前が証明してみせろ!!

マーサ、陣兵に向かって行く。20秒ほどの攻防。再び離れる。離れた際、マーサ、警棒の先を陣兵に向けて動かす。

マーサ お前……その短刀を使った経験は？

陣兵 ぶっちゃけ初めてでな。使い方がよお分からん。

マーサ ほお……初めての実践のわりには良い動きをする。

陣兵 そりやどうも。

マーサ ところで、

小町 ちよつとアンタ!!

陣兵 え、何ですか小町さん。

小町 大家さんに言われただろう!?この人の言葉に気をつけろって!!

陣兵 おっとそうでした。

マーサ いいのか?気をつけるのは言葉だけで?

マーサ、再び陣兵に襲いかかる。受ける陣兵。警棒とドスでクロスさせる。

陣兵 どういうことだ!?

マーサ 今に分かる。

一瞬離れて20秒ほどの攻防。少し間合いが空く度にマーサ、警棒の先を陣兵に向けてゆくりと動かす。二回目の時に陣兵、立ちくらみのような状態に。

小町 ちょっと、大丈夫かい!?

陣兵 大丈夫ですよ。別に攻撃受けてないんで。

小町 じゃあ何でそんなにフラフラなんだよ!!……まさか!?

マーサ、陣兵構える。

小町 アンタ!! 武器の先を見るんじゃないよ!!

マーサ もう遅い!!

警棒を上に掲げる。キーンという効果音。陣兵金しばりにあう。

小町 アンタ!!

陣兵 言葉だけじゃなく動きでも催眠術をかけられるってか。小町さんスンマセン逃げて下さい。

小町 でも!!

陣兵 こんな状態じゃ小町さんを守れません!! 俺はいいですから早く逃げて下……

マーサ 黙れ!!

マーサ、警棒で陣兵の顔を上げる。

マーサ やはりお前は弱いな。弱き者が一人を守りますだと？笑わせるな。

小町 ちよつとお待ちよ!! この人をバカにするのは私が許さないよ。

マーサ 許さない? どう許さないというんだ? お前が私に向かつて来るとでも?

小町、スタスタとマーサの方へ歩み寄り、一瞬の間を置いてヒンタしようとするがマーサに止められる。マーサ、そのまま警棒で小町を殴る。飛ばされる小町。マーサ、小町に近付こうとする。

陣兵 小町さん!! オイ!! 相手は俺だろう!! やるなら俺をやれ!!

マーサ、陣兵の方を向く。

小町 フン!!これが何だつていうのさ。痛くも何ともないねえ。殴るんならもう少し気合い入れて

殴るんだね!!

マーサ ……お前達は恋人同士なのか?

陣兵 違う!!俺が一方的にホシてるだけだ!!小町さんは関係ない!!小町さんお願いです!!逃げて下さい!!

マーサ どれ位の期間?

陣兵 どうでもいいだろうが!!

マーサ ……どれ位の期間?

マーサ、ゆつくりと聞く。陣兵、頭痛に顔をゆがめながら答える。

陣兵 ……3年。

マーサ 3年か。随分長い間想い続けてきたんだな。つらかったろ?悩み苦しみ続けた3年だったんじゃないか?どんなに頑張つて尽くしても振り向いてもらえない悔しさに耐えてきたんだろ?

陣兵 ……俺は……。

マーサ アイツはヒドい奴だな。そう思わないか?お前がそうやって苦しんでる姿を見て笑っていたんだ。

陣兵 俺は……!!

マーサ　だがお前も3年間、本当に想い続けただけだったのか？悔しいと思った事は？悲しいと思った事は？そういう感情が芽生えた事はなかったのか？本当に？一度も？

陣兵　俺は!!

マーサ　3年間の苦しみをあの人に味わってもらおうじゃないか!!さあ!!その武器は何の為にある!?その刃の向く先は私ではない。あの女の心臓だ!!

陣兵、何かに耐えようとして動かない。痛みに耐えているようでもある。

マーサ　どうした？早くした方がいいぞ。死にたくなければ私の指示にしたがえ。命令に背けば脳に支障をきたし、最終的には……。

小町　最終的には？

マーサ　脳が破裂するぞ。

陣兵の絶叫。頭をかかえてうずくまる。静寂。マーサ、小町の後ろに回り、小町の背中を押す。

小町、陣兵の前へ。

小町　アンタ……大丈夫かい？

陣兵、ゆっくりと立ち上がり小町を見る。

小町 アンタ……。

陣兵 小町さん……。

陣兵、ゆつくりとドスを振り上げる。

陣兵 逃げて下さい。

陣兵、やっとそれだけ言っていると、ドスを小町に向かって振る。間一髪でよける小町。

小町 何するんだい!!

陣兵 ダメです!! 体がいう事聞かないんですよ!! 小町さん、よけて!!

陣兵、耐えつつもドスを振りまわしてしまふ。何とかよける小町。

小町 あんな女の口車に乗るんじゃないよ!! それとも何かい!? 本当に私の事!!

陣兵 違います!! これでも結構頑張って耐えてるんすよ!?

陣兵、頭痛がするの、手で頭を押さえる。

陣兵　いつまで自分を抑えられるか分かりません。お願いです、逃げて下さい。

小町　でもアンタが!!

マーサ　抵抗を続ければ自分が苦しむだけだぞ!! 振り向いてくれない女の為に命をはるのはバカらしいと思わないのか!?

陣兵　さっきも言ったろう!! 男の「ホレた」は振り向いてくれるから続けるとかそういう事じゃねえんだ。諦められるならとづくに諦めてるさ。でも諦めきれないんだよ!! 仕方ないよな……ホレちまってるんだからさ。

陣兵、頭痛に耐えながらも必死に抵抗。小町何とかドスをよける。陣兵、マーサの方を向いて、

陣兵　なあ、アンタ。俺が死ねば満足かい? 俺が今ここで脳みそぶちまけて死ねば、アンタの納得する証明になるのかい?

陣兵、小町に向き直り、

陣兵　いや、やっぱり答える必要はねえや。

マーサ　え?

陣兵　俺より痛そうなツラしやがって。俺が俺を貫く事一番期待してんの、アンタなんじゃないのか?

照明が切り換わる。信彦とノエル。

ノエル 僕が油断しているだ?! お前なんかに言われたくないんだよ!!

信彦 「なんか」って言葉は僕の事を下に見ている証拠です。一度勝った相手との勝負とはいえそのよ
うな考えは油断ではありませんか?

ノエル キサマ!!

信彦 おっと、熱くなるのは勝手ですが、手を開けてからにして下さい。

ノエル、手を開けて確認する。そして笑う。

信彦 ノエルさん?

ノエル どうやらお前も中々の勝負運を持つてるらしい。

ノエル、信彦」にコインを見せる。

信彦 ……コールを。

ノエル 表だ。成程、こうやって僕を熱くさせて流れをつかもうって作戦か?

信彦 そんなつもりでは。

ノエル　だが、もう油断しない。全力でお前を向かえうつ。

信彦　残念ですけどノエルさん。それは無理です。人はそんなに簡単に変われません。あなたは必ず油断します。

ノエル　やめろ。これ以上の挑発にはならない。お前の番だ。……まあ、今のお前なら表を出すだろうけどな。

ノエル、コインを信彦に。信彦、一呼吸してからコイントス。コインをノエルに見せながら、

信彦　表です。これで4対4。次で勝負が決まりますね。

信彦、コインをノエルに渡す。ノエル、目を閉じ、深呼吸。ノエル、目を開けてコインを構える。

ノエル　正直、ここまでつれるとは思わなかった。悪くても5対2だろうってな。

信彦　ヒドいなあ。でも、ジャンケンであれだけボロボロにやられましたからね。

ノエル　今じゃあれすらもこの勝負への布石だったんじゃないかって思うがな。

信彦　すみません。それはいかぶり過ぎです。

ノエル　……不思議な男だな。でもお前のような男は嫌いじゃない。

信彦　僕もノエルさん好きですよ？

ノエル　だが勝負は勝負。僕が勝つたらその右腕は容赦なくもらう。

信彦 勿論です。僕が勝ったらカギを頂きますから。
ノエル いくぞ。

ノエル、最後のコイントス。キャッチして手の甲へ。シーンとした間。ノエル、ゆっくり手を開ける。

ノエル 残念だったな!! 見ろ!! 僕の勝ちだ!! 勝った!! 勝ったぞ!!

ノエル、手の甲のコインを信彦に見せる。信彦、ノエルに近付いてコインを確認。

信彦 成程。そうですか。

ノエル まあ、そんなに落ち込むな。お前は良くやった。右腕をもらうと言っても実際にもらっても仕方ないからな。当分ペンが握れない状態になってもらうだけで良いでしょう。それで文句ないな。

信彦 ノエルさん。

ノエル どうした?ここへきて今更情けない泣き言なんか言わないでくれよ?

信彦 違います。ノエルさんの気持ちは有難いのですが、やはり、油断してしまっているなと思います。
て。

ノエル 油断?

信彦 まだ勝負は分らないって事です。

ノエル どこが!? 良く見ろ!! 現実を見ろ!! 答えはここに出ているだろ!!

信彦 いえ。これは答えじゃありません。まだ途中なんです。言ったでしょう? 油断しないと言って
も人はそんなにすぐには変われません。ノエルさん、今、アナタ油断しているんですよ。

ノエル これ以上挑発して僕を怒らせるメリットが見つからないが?

信彦 ノエルさん上官によく怒られるでしょ? 「気を抜くな。勝利が確定するまで集中しろ」って。

ノエル お前、どうして……。

信彦 ノエルさんが心配なんでしょうね。ホラ、隊長が見に来てますよ?

信彦、下手袖奥を指差す。振り向くノエル。

ノエル 通路にいるアイツか? アイツは隊長じゃない。よく見ろ。

信彦 え? ああ、良く見れば違いますね。皆さん同じような服を着てるんで間違えました。どーもす
みません。

信彦、「すみません」と謝りながら後頭部に手をそえながら頭を下げる。その時、信彦の手がノ
エルの手に当たってしまう。ノエルの手の甲からコインが落ちる。瞬間コインを踏むノエル。

ノエル お前……何を。

信彦 重ね重ねすみません。謝ろうと思ったたら手が当たってしまいました。でも不可効力です、²⁷気にし

ないで下さい。

ノエル 不可効力だと？

信彦 ルール1、互いにコインの表か裏を決めて交互にコイントスをする。ルール2、自分の賭けた面が先に5回出た方の勝ち。ルール3、コイントスしていない者はコインに触れてはならない。ルール4、どのような経緯だろうと最終的に出た面を有効とする。そして追加ルール。コイントス後は出た面を見せ、コールした時点で確定とする。ノエルさん、まだ出た面をコールしてませんでしたよね？

ノエル お前の狙いは挑発で僕のリズムを崩す事じゃなく、あくまで僕の油断。

信彦 僕の事を認めつつもやはり下に見ていた部分があつたんです。だから僕の追加したルールは面倒くさがって対応しようとしなかった。

ノエル そんな事はない。俺は全力で……。

信彦 いいえ。下に見ていた人間を同じ目線で見える事は全力ではありません。自分よりも格上と思ひ、様々な思考をこらしながら全身全霊をかけて挑む。その先に運や流れがあると思っています。

ノエル それでも最終的には運まかせだろう。

信彦 確かに。まあ実際の所、それくらい僕とノエルさんでは差があるって事です。でもジャンケンで負けて、今だって本来なら負けていました。でも僕だって勝負運にはそこそこ自信があるんです。同じ相手に3度も負けるなんて事、——ありえませんか！！

ノエル、足をバツと開ける。ノエルと信彦、コインを見る。

信彦 ここは大使館の一階ですが、ここから手を使わず面をひっくり返す方法思いつきますか？

ノエル ……いや、無理だろうな。

信彦 コールを。

ノエル ……表。お前の勝ちだ。

信彦 自分で言うのも何ですがこんな勝ち方を認めるんですか？

ノエル 全力という事がお前の定義通りなら、俺は油断していたんだろう。戦場で撃たれた時に油断していたとわめきちらす奴は馬鹿だ。僕は馬鹿にはなりたくないんでね。

ノエル、カギを信彦に渡す。

ノエル ちつぽけな島国に生きる男は、強かったぞ。いつかまた勝負したいな。

信彦 いえ、もうやりません。

ノエル 何故？

信彦 全力を学んだノエルさんには僕は絶対勝てません。勝ち逃げさせてもらいます。

ノエル 勝ち逃げか……成程。……えーと。

信彦 信彦です。緑川信彦。

ノエル 信彦は僕の知らない事をいろいろ教えてくれるな。

信彦 お互い様です。ノエルさんは僕に一番大切なことを気付かせてくれました。

ノエル 行こうか。

信彦 え？

ノエル 部屋まで案内させてくれ。

信彦 はい。お願いします。

信彦とノエル、下手へはける。力丸とレオに照明。

力丸 引き金をひけないなら負けを認めてもらえませんかねえ。さっきアンタ自身が言ってたじゃないですか。タイミングを逃したらもう無理だって。ですから……

レオ 戦場で生きてきたこの俺がキサマに負けるわけにはいかないだろ!!

レオ、引き金をひく。不発。レオ、大きくため息。

拳銃を力丸に渡そうとする。

力丸 随分時間がかかりましたねえ。5発目に入っていると確信していた割には。本当は耳が良いなんて

俺を勝負からおろさせる為の嘘なんじゃないですか？

レオ そう思うなら自分の身で確かめるんだな。

レオ、力丸に拳銃を渡す。力丸、拳銃を見つめる。

レオ やりたい事がたくさんあるんだろ？確立2分の1で死ぬ勝負に何の意味がある？

力丸 やりたい事がやれても、俺が俺であることをやめてしまったら意味がないんですよ。死ぬ為に生きるというのはそういう事です。

レオ 強がりはやせ。撃てるわけがない。

力丸、拳銃をこめかみに当てる。

力丸 2分の1で死ぬ勝負か。確かに馬鹿げてますねえ。

レオ そう思うなら銃を下ろして負けを認めろ。誰もお前を責めたりはしないだろうさ。

力丸 ……おかしいですね。

レオ 何？

力丸 やっぱりおかしい。

レオ 何がだ。

力丸 何故そんなに負けをすすめるんです？俺が負けを認めようと、5発目を撃って死のうとアンタにとつてはどちらでもいいはずだ。5発目に弾が入っていると確信しているのなら。

レオ 死体の後片付けが面倒なだけだ。

力丸 下の者にやらせればいいでしょう？やはり耳が良いなんて俺をおろす為のブラフだ。ア

当は4発目の時より2発目の時の方が勝負だったんだな。今2分の1の確率に精神削ってるのはアンタも一緒だ。そういう事ならやらなきゃな。俺は!!この5発目の引き金を引きに来たんだからな!!

力丸、引き金を引く。不発。シーンとした間。

レオ 馬鹿な。何故引けた?お前のような男が何故!?

力丸 日本の男もなかなか根性入ってるだろ?

力丸、拳銃をレオに渡す。

力丸 こんな結果になっちまったけど、自分で持ちかけた勝負だ。自分でケジメつけな。引き金を引く

か、負けを認めるか。

レオ 俺は……俺は!!

力丸 どちらを選ぶにせよ俺が見てたら答えを出しにくいだろ?

力丸、レオから離れて背中を向ける。その間、レオに常にぶつぶつと何かをつぶやいている。

レオ ありえない。どうして引き金を引けた?負ける?俺が負ける?いや、死ぬのか?俺が……俺が死

ぬ？俺が死ぬ？ふざけるな。こんな勝負無効だ。俺は死なない。死ねない。死ぬわけにはいかない！！俺は！俺は！！俺はー！！

レオ、力丸の背中に拳銃を構える。力丸、ゆつくりと振り向く。

力丸 銃口を向ける先を間違っちゃいませんかねえ。

レオ 死ねない。死ぬわけにはいかないんだ。俺はまだ隊長に何の恩返しもしていない！！

力丸 事情があるのはアンタだけじゃないんだぞ。

レオ 分かってる。

力丸 負けたくない、死にたくない、だから殺しますなんてクソみてえなケジメのつけ方があるか！！

レオ 安藤力丸。名前は覚えた。後はただ、死んでくれ。

レオ、引き金を引く。しかしカチツという音がするだけで弾は発射されない。驚くレオ。何度も引き金を引く。しかし弾は出ない。

レオ なぜ!?なぜ弾が出ない!?

力丸 一ついい事を教えましょう。

レオ 何？

力丸 アンタがこの国に生まれていれば知っていたかもしれない情報です。九頭龍組の組員、安藤力丸

は神の手を持つてな。

レオ 神の手だと？

力丸 探し物はこれですか？

力丸、手品で弾を取り出す。

力丸 これは互いにどれだけ自分を貫けるかの勝負です。命まで賭ける必要はないと思い弾は抜いて

おきました。

レオ いつ!?

力丸 銃を調べさせてもらった時に。

レオ あの一瞬でか!?

力丸 お嬢の無茶振りに比べれば何て事ありません。

レオ という事はお前、空の拳銃でロシアンルーレットを!?

力丸 これが俺のやり方です。何か文句でも？

レオ イカサマじゃないか!!

力丸 いいえ。アンタがもし6発目、自分に引き金を引いてさえいれば少なくとも引き分けには出来
たんですよ。そしてもし、そうなった場合、イカサマをした俺はアンタに何をされても文句
は言えない。俺は俺で命をかけてたんです。

レオ だがそれは!!

力丸 命をはって俺に向かって撃ったのは事実です。俺はアンタの土俵で俺のやり方を貫いた。

だがアンタはどうだ？自分を貫いたと言えるんですか？

レオ それは……。

力丸 仕方がありませんね。分かりました。勝負をやり直しましょう。もう一度その銃を使って……。

レオ いや、いい。……もういい。

力丸 もういいとは？

レオ 負けを認めよう。……俺の負けだ。カギは持つて行け。

力丸 負けねえ……。この勝負に敗者はいませんよ。ただ、俺が勝ったというだけです。

レオ それは情けか？

力丸 いいえ。俺のこだわりです。……これ、お返しします。

力丸、弾をレオに返す。

レオ 教えてくれ。

力丸 何です？

レオ ここに來た連中は皆お前のような精神力を持つているのか？

力丸 俺のような精神力？……まさか。あの連中の中じゃ俺なんて下から数えた方が早い。

レオ 期待してもいいのか？

力丸 期待？

レオ 隊長を止めてくれる事を。

力丸 勿論止めますよ。必ず止めます。しかし、人は生きてる間はいつまでも立ち止まっていられます。前へ歩かなければ。あの隊長、一度止まってしまったらもう歩けないんじゃないですか？
レオ それは……。いや、それが俺の仕事だ。立ち止まってるあの人を引っ張ってでも前進させてみせる。それが俺の死ぬ為の生き方だ。

力丸 人一人を引っ張るには自分自身が揺らがない一歩が必要です。

力丸、足を大きく上げて一歩を踏む。

力丸 どうです？

レオ ああ……恐いな。覚悟を決めた一歩とはこんなにも恐いものなのか。

力丸 恐いんですよ。自分を貫く一歩はこんなにも恐い。……でも。

レオ ああ……悪くはない!!

2人、背中越しにニヤリと笑う。照明の切り換わりと同時に、力丸、レオ、上手へはける。陣兵がドスを振り回し、小町がそれをよける。

小町 アンタ私を守る為に来たんじゃないのかい!? 何トチ狂ってるんだよ!!
陣兵 すみません。でも体が勝手に動くんです。

小町 たかだか催眠術だろう？アンタの私への想いってのはそんなもんだって事だね!! だから男

なんて信用出来ないんだ!!

陣兵 小町さん、早く逃げて下さい。もう意識が飛びそうです!!

小町 情けないねえ。しっかりおしよ!!

マーサ 見ろ!! 逃げろと言ってるのに逃げる気配がない。お前が苦しむのを分かっている逃げようとし

ない!! お前が苦しむ姿を見て楽しんでるんだ!!

小町 女を捨てた奴は黙ってな!! これはもう、私とこの人の問題なんだ!!

陣兵 ……小町さん……。

陣兵、極限まで耐えるが、ドスを振り回してしまふ。よける小町。

小町 負けるんじゃないよ!! アンタの体はアンタのもんだろう!! アンタの気持ちはアンタのもんだら

う!!

陣兵 ……逃げて下さい。

陣兵、頭痛に手で頭を押さえる。小町近付くが陣兵後ずさる。しかし、その後すぐにドスを振り上げ小町を襲う。よける小町。

小町 アンタ私にホシてるんだろう!? 私を守ってくれるんだろう!?

陣兵、うめき声しか出せなくなる。陣兵、小町にドスを振ろうとするが直前に体が止まる。ドスを振り上げたまま止まる陣兵。

マーサ 限界だな。これ以上時間をついやせばアイツの頭はふっ飛ぶぞ。

小町 催眠術を解く気がないなら黙ってな。いいかい？よく見ておくんだ。弱い臆病者のアンタじゃやれない女のケジメってやつを見せてやる。

マーサ 女のケジメだと？

小町、止まってる陣兵に近付く。陣兵、頭を押さえつつドスを振る。よける小町

小町 もう無理かい？私の声はもう届かないのかい？

陣兵、再びドスを振り上げる。目をギュツとつむり、痛みを耐えて動かない。苦痛に顔をゆがめる陣兵。

小町 何て顔してるんだよ。……苦しいのかい？アンタも難儀な女にホレたもんだねえ。

小町、ゆっくり立てひざをつく。

小町

私も昔いろいろあったからさ、アンタの言葉を信じられなかったんだよ。どうせ一時的なものだろうって。でも、アンタの気持ち変わらなかったね。私も今度会う時は素直になろう素直になろうって思ってた……3年たったよ。本当は嬉しかったんだ。アンタにいろいろ良くしてもらって。

小町、首に下げていたネックレスを取り出す。

小町

私はアンタに充分尽くしてもらった。だから今度は私の番。刺して楽になりな。そして正氣に戻ったら速攻でアイツ倒して必ずサラちゃんを助けてやっておくれよ？

小町、陣兵の方を向き、両手を広げる。

小町

さあ、ドーンと来な!! ホレた男を活かすのが女の努めだよ!!

陣兵のうめき声、除々に大きく。最大の時小町に突進。

マーサ 待て!!

マーサ、言葉で止めるが間に合わず肉を刺す音。静寂。

小町 ……何やってんだよ。アンタ何やってんだよ……。何やってんだよアンタ!!

小町、立ち上がり陣兵のそばへ。陣兵、自分の右足をドスで刺している。

陣兵 馬鹿やろう!! あんな言葉聞いて刺せるわけないだろ!! 男に恥かかす気か!?! ……とはいえ、ド

スを止められたのは直前でアンタが催眠術を解いてくれたからかもしれないけどな。

マーサ、陣兵に近付く。小町前にたちはだかる。

小町 何する気だい!?

マーサ、警棒を小町に渡す

小町 え?

マーサ、自分のしていたハチマキを陣兵の右足に結び止血する。

マーサ そんなに深くは刺さっていない。血もそこまででてないから大丈夫だ。

小町 アンタ……どうして。

マーサ お前の言う通りだ。私は弱い。死の恐怖を克服する勇気も、どちらかを選ぶ覚悟も、全てが足

りていなかった。お前達は体をはって教えてくれた。これ以上ない証明でな。

小町 大丈夫なのかい？

陣兵 心配してくれるんですか？

小町 当たり前だろう？こんな無茶して……。

陣兵 俺は大丈夫です。それより小町さんは？

小町 私も大丈夫。アンタが耐えてくれたお陰だね。

マーサ、鍵を取り出し、小町の前へ差し出す。

マーサ 受け取れ。これはお前たちの物だ。

小町 ……答えが出たってことかい？

マーサ そうだな。もう迷わない。

小町 なら一緒においで。鍵は自分で開けるんだ。

マーサ 女のケジメをつけろと？

小町 ちゃんと話すんだよ？

マーサ ……凄いな。

小町 え？

マーサ 私よりも全然弱いはずなのに、お前の言葉には逆らえない。……逆らいたくない何かがある。

まるで、母親に言われているようだ。

小町 伊達に十五人からママと呼ばれてないさ。

マーサ 十五人も子供がいるのか!?

小町 説明するのが面倒だねえ。そういう事にしておくよ。さ、立てるか？

小町、陣兵に肩を貸して起こす。

陣兵 小町さん。

小町 何だい？

陣兵 さっきの言葉、本当ですか？

小町 さっきの言葉って？

陣兵 ホレた男を活かすのが女の努めとか何とか。

小町 ああ、あれは死ぬ前に一度言ってみたい台詞だね。つい口から出ちゃったんだよ。

陣兵 え!?

小町 深い意味は無いから気にしないでくれ。

陣兵 小町さん。

小町 何だい！

陣兵 ネックレス、似合ってますよ。

小町 こ、これは……まあ、あれだよ。この間大掃除してたら出てきたのさ。

陣兵 本当に素直じゃないっすね。

小町 ほっとおくれ。

陣兵 ……小町って呼び捨てにしてもいいっすか？

小町 調子に乗るんじゃないよ！

小町、陣兵の足を踏む。

陣兵 いったー！

小町 さ、サラちゃんの居る部屋に案内しておくれ。

マーサ あ、ああ……。

小町、陣兵、マーサ、下手に去る。上手から大家、源十郎、茜が入ってくる。

源十郎 ここが大使の部屋です。

大家 入る前に一つだけ。

茜 何？

大家 アナタはあまり無理をしないで下さい。私達がやられたらすぐに逃げるんです。分かりました

ね？

茜 馬鹿にしないでよ。茜、これでも剣道やってたんだから。

源十郎 それは心強い。

大家 どのくらい？

茜 え？

大家 どのくらいやってたんです？

茜 半年。

源十郎 半年!?

大家 腕前は？

茜 9級。

源十郎 9級!?

茜 うっさいなあ。じゃあアンタはどれ程のモンなのよ。

源十郎 平和機構でそれなりの訓練は受けてますけど。

茜 アンタは？

大家 私のことより茜さんのことです。無茶せずにマズイと思ったら逃げる事。それが約束できない

ならここから先へ進むことは許しません。

茜 うゝ。分かったわよ。約束する。でも逃げる時はサラも一緒に。

大家 そうですね。その時はよろしくお願いします。

茜 でも！

大家 何です？

茜 負けないでしょ？……負けないよね!!

大家、茜の頭に手を置いて、

大家 そうですね。負けません。……行きますよ？

源十郎、茜、頷く。三人、センター付近へ移動。

源十郎 思ったよりも広い部屋ですね。

三人、周りを見渡す。そして、同時に下手を見る。カイト登場。手には3本の警棒を持っている。

カイト お前達はユリア様を助けに来たんじゃないのか？

大家 サラさんの救出は他の人に任せてあります。こちらは親玉を叩いておかないと。助けた後で2度も3度も来られたら面倒くさいですからね。

カイト 親玉を叩くというのは、殺すという事か？

大家 そんな生易しいもんじゃありませんよ。屈辱的な敗北を味わってもらい、2度と私達に関わり

たくないと思わせてあげます。

カイト この国の人間も少しはユーモアがあるじゃないか。笑えはしないが。

3本の警棒を床に置き、蹴つて大家達の方へ。

カイト それを使え。

カイト、警棒を取り出し構える。3人、それぞれ警棒を持って構える。

カイト 一度見逃したにも関わらずここへ来たんだ。……死ぬ覚悟はあるんだろうな？

茜 そっちこそケチヨンケチヨンにされる覚悟はあるんでしょうね!? さつきはよくも乙女の身体を踏んづけてくれちゃつて。許さないんだから!

茜、大家や源十郎よりも前へ。大家は警棒を何度も素振りしている。茜、剣道の構え。一瞬間の後、振りかぶりカイトへ突進。

茜 め〜〜ん!

茜、段取り稽古のようにカイトの面を打とうとする。避けるカイト。茜、クルツと振り返り。

茜 よく避けたと褒めてあげるわ！でも今度はそうはいかないんだから！

茜、再び剣道の構え。カイトに突進。

茜 どお~~~~！

カイト、茜の警棒を受け止める。カイト、源十郎の方を見て。

カイト まさかお前もこんな感じじゃないだろうな？

源十郎、頭と手を横に振って否定。

カイト 敵にここまで馬鹿にされたのは初めてだ。

茜 何よ！

カイト お前は俺の前に立つに値しない。

カイト、茜の警棒を大きく弾いて胴払い。茜、下手へ飛ばされお腹を抱えてうずくまる。
カイト、茜に近付こうとした時。

源十郎 自分が相手です。

源十郎、警棒を構える。カイト、振り向き源十郎と相對する。

源十郎 命を懸けて敵と戦おうとする時、味方には強烈な仲間意識が生まれるんですね。
カイト そうだな。

源十郎 今までの人生で逃げてばかりいた自分ですら、自らの命が惜しくなくらい仲間を助けようとしています。戦場で、戦争を経験すれば仲間意識はもっと高まるんでしょうね。

カイト それがどうした。

源十郎 それだけ強い仲間意識を持った2千人の内、一人だけ生き残ってしまった辛さは私には想像も出来ません。

カイト それがどうした。

源十郎 ですから同情の余地は充分にあると思うんです！自分は自分なりにアナタを助けたいと思っているんです！

カイト お前が俺を許すというのか？お前が、俺を止めるというのか？国王殺しの俺を止めるというのか？

源十郎 それは……。

カイト 俺を止めたいなら止めてみせろ。お前の全身全霊をかけてな。……来い。

源十郎とカイトの殺陣。必死な源十郎に対し、余裕なカイト。12手ほど交えた後。

カイト 世界平和機構のエージェントはこんなものか。

源十郎 まさか本当に実戦経験をする日が来るとは思って無かったですからね。こんな事ならちゃんと訓練しておくんですけど。

カイト それは後悔か？俺には言い訳にしか聞こえんがな。

再び源十郎とカイトの殺陣。8手ほど交えた後、カイトの攻撃により源十郎、下手に飛ばされる。カイト、素振りしている大家の方へ行こうと振り向いた時、茜が突進する。

茜 こてててて！

カイト、茜の警棒を受け止める。

カイト 不意打ちは黙ってするものだ。

カイト、大きく弾いて茜を3回攻撃。下手へ飛ばされグツタリする茜。

大家、大きく踏み込んで素振りをし、素に構える。

大家　やはり愛用の武器じゃないと使いづらいですね。何より軽すぎます。

大家、カイトに向き直る。

大家　とはいえ、それなりに使い方は分かりました。今度は私が相手です。

大家、構える。カイト、それを見て。

カイト　これは……戦場の匂い。何故お前から戦場の匂いがする。お前何者だ？

大家　自慢じゃありませんが、家賃の回収しか頭に無い大家です。

カイト　金のことしか頭に無いならさっさと帰るんだな。

大家　ところがどっこい、そうもいかないんですよ。アパートの治安を守るのも大家の勤めですから。それでも私、大家という仕事にプライドがあるんですよえ！

大家、カイトへ突進。12手ほどの殺陣。立ち位置は変えない。茜、起き上がり加勢に行く。

茜　め……ん！

タイミングが悪く、大家&カイトから攻撃される。上手に飛ぶ茜。再び大家とカイトの殺陣。
源十郎、起き上がり加勢に。

源十郎　どりやあゝゝゝ！

タイミングが悪く、大家&カイトから攻撃され、上手に飛ばされる源十郎。
茜、再び起き上がり、源十郎を起こす。2人、頷き加勢に。

しかし、タイミングが悪く、茜は大家に、源十郎はカイトに攻撃される。
再び上手に飛ばされる2人。大家、上手の2人を見て。

大家　2人とも学習してもらえますか？

その瞬間、カイト、大家を攻撃。咄嗟に受け止める大家。

カイト　受けが甘い！

カイト、大家の警棒を大きく弾いて3回ほど攻撃。上手に飛ばされる大家。
源十郎、受け止めるが膝を付く大家。

カイト 何故異国の問題に関わる？殺されるはずがないとタカをくくっているのか？

源十郎 異国の問題に関わっているつもりはありません。我々にとつて彼女はサラさんなんです。何故と聞かれれば仲間だからです。仲間を連れ去られれば取り戻しに来るのは当然でしょう！

源十郎、カイトへ突進。返り討ちにあい上手へ飛ばされる。

茜 友達になろうって言ってくれたんだ。ずっとずっと待っていた言葉を言ってくれたんだ！サラを

返しなさいよ！

茜、カイトへ突進。返り討ちにあい上手へ飛ばされる。

カイト もう充分だ。その程度の理由で俺の邪魔をするつもりなら、お前達の命を奪うのに何の躊躇もない。死ね。

カイト、警棒を構える。上手袖からサラの声。

サラ
カイト！

上手からサラ、信彦、小町、力丸、陣兵、マーサ、レオ、ノエルが入ってくる。

力丸、倒れている茜を見つけて駆け寄る。

力丸 お嬢！大丈夫ですか!?

力丸、茜の警棒を取り、

力丸 九頭龍組の一人娘に何しやがんだテメエ！

力丸、会とに突進するが返り討ち。5回ほど攻撃され上手へ。レオ、力丸を受け止める。

レオ 隊長、申し訳ありません。我ら全員、この者達に敗れカギを守ることが出来ませんでした。

カイト 内容、決着、共に前達自身が納得いくものであったのか？
レオ はい。

ノエル 納得しています。

カイト ならいい。この件の責任は不問とする。

ノエル え？

カイト そしてそちら側に立つのは、それが前達の答えと受け取っていいんだな？
マーサ いいえ違います。

マーサ、ノエル、1歩前へ。

マーサ 我ら3人は、どこまでもカイト隊長について行きます。

ノエル、信彦の方を見て、

ノエル 信彦。お前はこれからの戦いには参加するな。お前、ジャンケンの時、僕に殴られてアバラ折つ

てるだろ？これ以上無理すれば死ぬぞ。

信彦 気付いてたんですか？

ノエル これでも一応兵士だからな。いいか、これは忠告であり、僕からのお願いでもある。隊長との戦いには参加するな。

信彦 ……他でもないノエルさんからのお願いですからね。分かりました。

レオ、力丸を離して、

レオ それはお前も同じだ。これ以上の無理は命に関わる。ここで死ぬことはお前の道ではないだろう？

力丸 そうですねえ。というより、流星にこれ以上は動けません。実は立っているのもつらいんです。

カ丸、座り込む。レオ、ノエル、カイトを通り過ぎ下手へ。

マーサ、振り返りサラを見る。

マーサ ユリア様、私は、

サラ マーサ。あなたとお話したのはほんの数ヶ月ですが、とても楽しい日々でした。

マーサ 私も。凄く楽しかったです。いろんな話をしましたね。

サラ はい。いろんな話をしました。この思い出は宝物です。

マーサ 耳に穴を開けた思い出も宝物ですか？

サラ 宝物です。全部宝物です。……これから先、進む道は別になりますが、マーサの幸せをいつも祈っています。これまでつらい思いをしてきた分、マーサにたくさんの笑顔があるように祈ります。

マーサ ユリア様にもたくさんの笑顔がありますように。たくさん、たくさん笑顔がありますように。

サラ 大丈夫。マーサのことを思い出せばいつでも笑顔です。

マーサ ユリア様。……ありがとうございます。

マーサ、下手を向く。カイトの近くまで来てカイトを見る。そのまま何も言わず下手へ。

カイト お前達はそこで見ていろ。一切の手出しを禁じる！

三人 はっ！

サラ、カ丸の警棒を取り、静かに構える。カイトも応じる。サラ、カイトへ突進。

5、6手ほど交わした後、1回攻撃を受ける。膝を付くが立ち上がり構えるサラ。

カイト ユリア様。あなたが俺に向かってくるのは娘として父の仇を取る為ですか。それとも王族として反逆者を裁くためですか。

サラ 私が王の娘として生まれた以上、どちらかということはありません。私は命に代えても娘として、王女として務めを果たします。

カイト あの王はそんなに慕う人物でしたか？国を治めるものが前線に立つことも無く安全な場所で食事を開いている。時には敵国と笑いながら酒を飲んでる王を守ろうと思えますか？そんな王の為に命をはれますか？

サラ 王は国民の為を思って……

カイト 兵士も国民ではないのですか！？……戦場は地獄です。目の前で仲間が、部下が悲鳴と雄叫びを上げて死んでいくんです。……そう、あいつらは死んでしまったんです。でも死んだはずなのに声が聞こえてくるんですよ。何故お前だけが生きているのかと。……こんな苦しみを味わうくらいなら俺も死にたかった。

カイト、警棒の先をサラに向ける。

カイト 分かりますか？戦場で一人生き残る怖さ、悲しさ、寂しさがあなたに分かりますか？死にたいと思っても死ねない。もう一つの声が死ぬことを許して売れないんですよ。……我々を裏切った国王を殺せと俺に囁くんです。

茜 なあゝんだ。大層な理由があるのかと思えばそんな事？なっさけない。

カイト 何だと？

茜 あんた政治つてものが全然分かってない。兵士が国民？馬鹿言つてんじゃないわよ！いい？上の者にとって兵士は駒よ駒。現場主義者のあんたじゃ分かんないでしょうね。所詮器じゃないのよ。

茜、立ち上がり源十郎の警棒を取る。

茜 ヤクザが組同士の抗争している時だつて敵対する組長と飲みに行くこともあるんだ。だからて

好きで飲んでるわけじゃないからね？ナメられない為よ。お前なんか敵じゃないと見栄を張るのよ！国王が食事会してて連絡がつかなかった？いーじゃない。国王は国王の戦いをしてたつてことでしょ？戦争に勝つために、国民を生かすために憎い相手と酒を飲まなきゃいけない。殺したいほど嫌いな相手でも笑顔で握手しなきゃいけない。それが政治つてモンだ。上に行けばそういう戦いだつてあるんだ！クソみたいな奴と、クソみたいな酒を笑顔で飲み続ける、そういう戦いだつてあるんだ！

茜、セリフを言いながらサラと背中を合わせる。

茜　サラ、行くよ！

サラ　はい！

サラと茜、カイトへ突進。30秒ほどの攻防。

最終的にはカイトに攻撃され、茜は上手に、サラは下手に飛ばされる。

カイト　力の無い弱き者が語るな！己の信念が正しいと証明したいなら力を持て！弱者の考えなどひと欠片の価値もありはしない！

大家、ゆつくり立ち上がる。

大家　なかなか良い事を言いますね。全くその通りだと思います。でも、その言葉を吐いたからにはアナタもそつなんですよね？

カイト　何がだ。

大家　アナタも強き者の考えには従う、という事ですよね？

カイト　日本人は礼儀正しく常識人が多いと聞いていたのだが……どこの国にも枠からはみ出る下の者が居るものだな。

大家

枠からはみ出ているからといって下と見るとは少々頭が固いようですね。さて、これにも慣れちゃいましたし……行くとしますか。

大家、カイトへ突進。10手に1回攻撃を受ける大家。今までで一番長く粘るが5回目の攻撃で上手に飛ばされる。ロ々に大家を呼び心配する住人。

大家、小さくブツブツとつぶやいている。徐々にボリユームアップ。

大家

ファイト、戦う君の歌を、戦わない奴らが笑うだろ。ファイト。……ファイト。……ファイト。ファイト。ファイト！……応援！

大家の言葉に戸惑いながらも歌いだす住人+ヤクザ+サラ。声の大きさに合わせてゆつくり立ち上がる大家。

大家

充電完了。……行きます！

大家、カイトに突進。大家の振り1回につき1回攻撃するカイト。3回まで耐えるが、崩れ落ちそうになる。気力を振り絞り再度攻撃しようとするが、力なく体が流れてしまう。カイト、それを避けて連続数回の攻撃。上手に飛ばされる。

サラ 大家さん、これ以上は無理です！

源十郎 大家さんは回復に努めてください。自分が時間を稼ぎます。

大家 いいえ、源十郎さん。あなたの体も限界を超えています。これ以上は危険です。

源十郎 やはりもともとちゃんと訓練するべきでした。後悔とはこんなにも身を切る痛みがするものなのですか！

カイト、上手から下手へ向き直りサラを見る。

カイト 国に帰ってからと思っていたが、このような事が起こる可能性があるなら、ここで殺しておくべきか……。

カイト、サラの前へ。そのままマーサ、レオ、ノエルを見る。3人は動かない。

カイト マーサ。

マーサ はい。

カイト ……いや、何でもない。……ユリア様、覚悟を。

カイト、警棒を大きく振りかぶる。住人＋ヤクザ、サラの心配をする声。

カイトが警棒を振り下ろそうとした時、上手袖から一青の声。

一青　ちよつと待った〜！

上手より一青、ローリースケートに乗って登場。黒い風呂敷を袈裟懸けしている。上手に居る住人達を通り越し、カイトの方へ。カイト避ける。サラの方へ。

一青　止めて、止めて、止めて、止めて、止めて！サラさん！

一青、サラにぶつかりそうになり転ぶ。サラ、一青に近付き、

サラ　大丈夫ですか!?

一青　サラさん！僕、来ちゃいました！

一青、立ち上がる。

小町　男だねえ！今だ、一青ちゃん！告白しちまいな！今なら絶対成功するって！

一青　好きです！付き合ってください！あー！勢いで告白しちゃった――！

サラ　はい。お友達からなら。

一青　やった〜！って、答えが微妙だ〜！

源十郎 ところで一青君！例のものは？

一青 はい、持つて来ました。

源十郎 早くこっちへ！

一青 それが滅茶苦茶重くて……。

源十郎 頑張つて！早くそれを大家さんに渡してください！

一青、上手へ戻ろうとするが目の前にカイト。

一青 えっと、あの……。

カイト 遊びには付き合つてられんな。

カイト、警棒で一青を殴る。下手に飛ばされる一青。

サラ 一青さん！

一青 大丈夫です。痛いけどそれだけです。無力で情けない自分を受け入れる心の痛みに比べれば体の痛みなんて怖くありません！

サラ これを大家さんに渡すんですね？

一青 はい。

サラ じゃあ一緒に向こうへ行きましょう。立つてください。いいですか？いち、にーの……さん

サラと一青、2人で黒い風呂敷を持ち同時に上手へ移動する。

カイト、警棒を振る。サラ、風呂敷から手を離し警棒を受け止める。その間に一青はローラー
スケートで上手へ移動。倒れこむ。カイト、手を伸ばしサラの首を掴む。

一青
サラさん！

カイト、手に力を加えサラの首を絞めていく。

マーサ
カイト隊長！

カイト、マーサの方を見て、少し考えてからサラの首から手を離す。

サラ
え？

カイト動かない。サラ、その隙に上手へ移動。サラが上手へ来たのを確認してから。

一青
大家さん、これ持って来ました！

大家
よくここまで持って来れましたね。

一青　これがあればアイツに勝てるんですよ!? 勝って皆でアパートに帰れるんですよ!?

全員　大家さん!

大家　……再びこれを握る日が来るとは思いませんでした。

大家、黒い風呂敷を手にして立ち上がる。

大家　フッフ……ハハハ……アーハッハッハッ! いいねえ。これだよこれ。武器ってーのはこれくらいの重

さが無くちやいけねえや!

全員　大家さんが壊れた!

源十郎　いいえ、これが彼女本来の姿です! どんな戦場でも銃器などは一切使わず、一人で2千人の部隊と同等の戦力を誇る伝説の傭兵! その武器は特殊超合金で作られた細い棒! その正体は!

大家、風呂敷から武器を取り出し掲げる。

源十郎　布団叩き!

小町　もう何が何やら……。

大家、布団叩きを自在に操った後、倒れている一青に。

大家 よく頑張ったな坊主。もう思い残すことはないだろう。後のことは任せてゆつくりお休み。
一青 俺、まだ死んでませんから！

大家、無言。しばらく考えた後、一青の背中を踏みつける。気を失う一青。

大家 よくも私の可愛い住人を！許せん！その無駄に高いプライドをケチヨンケチヨンにしてやるから覚悟しなさい！

大家とカイトの一騎打ち。圧倒的な強さの大家。

カイトの攻撃は全て弾かれ、その度に態勢を崩す。

一方的に攻撃を受けるカイト。最初は歓声を上げていた住人もやがて黙る。

カイト何度も飛ばされるが起き上がり大家に攻撃。しかし、その力も徐々に弱くなってくる。シーンとした中2人が戦う。大家が大きく振りかぶり攻撃した後、カイト下手に飛ばされる。

レオ 隊長！

ノエル 隊長！

レオとノエル、カイトに駆け寄ろうとするがカイト、それを手で制する。

立ち上がり警棒を構え、再び大家を攻撃。しかし、3回ほど攻撃を返り討ちにあう。

大家

弱い！弱すぎます！あなたは数千人の命を背負っているのではないのですか？国王に裏切られたから隊が全滅した？違います。弱いから。あなたが弱いから全滅したのです！力が！精神が！人間そのものが、全てが弱かったから全滅したのです！それを国王のせいにしてクーデター？逃げるのも大概にしなさい！自分の弱さを受け入れられないなら自ら死ねばよかったではないですか！……何か反論はありますか？でもそれは許しません。あなたが言ったんですよ？弱き者には語る資格がないと。

大家、布団叩きの先をカイトに向けて。

大家

自分の弱さと向き合えず罪を他人に擦り付けて生きている。あなたは！ここに居る誰よりも脆く、弱いのです！

大家、源十郎の警棒を取ってカイトの方へ投げる。

大家

使いなさい。ハンデを上げましょう。……いいですか？あなたには一切の言い訳をする余地を与えません。銃を使いたいなら使いなさい。マシンガンでも大砲でも何でもどうぞ。全て出した上、これ以上ない敗北感を味わって頂きます。

カイト、警棒を手にして左右に持ち、構える。

大家
そうはいつでも私まだ三十二%ほどしか本気を出してませんけどね。素直に警棒を手にしたご褒美です。五十%の力をお見せしましょう。

大家、ツカツカとカイトの元へ。カイト、警棒を振るが大家それを弾き飛ばす。

大家、3回ほど攻撃。カイト、上手へ飛ばされる。大家、ツカツカとカイトの元へ。

カイト、同じように攻撃しようとするが大家から5回攻撃される。センターへ飛ばされる。

大家、カイトの元へ。カイト立ち上がるが動けない。大家、カイトを連続で攻撃。

カイト、下手へ飛ばされる。大家、カイトの元へ、布団叩きを突きつける。

カイト
……殺せ。

大家
私、これでも結構怒ってるんです。私なら本当に殺すの分かりますよね？

カイト
……殺せ。

大家、布団叩きを振りかぶる。マーサ、スツと2人の間に入ってくる。

マーサ、両手を広げ、カイトを守る。

カイト
マーサ、何をしている。そこをどけ。

マーサ ……その命令には従えません。

カイト 何？

マーサ あなたの死に場所は私が決めます。

カイト レオ、ノエル。マーサをどかせ。

レオ、ノエル、動かない。

カイト 俺の命令が聞けないなら仕方ない。マーサ、レオ、ノエル。お前達は除隊だ。どこへでも好きな所へ行け。

マーサ ……やはり、そうだったんですね？

カイト 何がだ。

マーサ 私は命をかけてカイト隊長を守る覚悟を決めました。覚悟を決めたら同じ目線に立てた気がしたんです。そうしたらカイト隊長のいろんな事が理解できました。同じ目線に立ってやるとカイト隊長のことが分かったんです。先程、この方が隊長は罪を他人のせいにして弱さと向き合えていないと仰いましたが、そんな事ないですよ？ただ、気付くのが遅かっただけで、国王を殺害したその時、理解したんです。自分の弱さを。

カイト マーサ、もういい。

マーサ カイト隊長は本気で国を治めるつもりなんか無かったんです。それよりも残された王族のユリア様の身を案じた。だから自ら反逆者になりきり、私やレオ、ノエルにユリア様につくよう仕向

けたんです。ユリア様が女王となった時、その地盤を固める為に。そして、全ての計画が上手くいった時、処刑されるのはユリア様ではなく……常に死を望んでいた、カイト隊長。あなたです。

レオ 隊長！

ノエル カイト隊長！

マーサ あなたの口から真実が語られることはないのでしょうか。でも馬鹿にしないで下さい。私やレオ、ノエルは隊長の操り人形じゃないんです。私達だって自分の意思や考えがあるんです！私は！隊長を守るって決めたんです。どうして分かってくれないんですか！

カイト 分かっているのはお前の方だ！俺について来てどうする！俺がどのような道を進もうと待っているのは遠くない死だけだ！それにお前を巻き込むことなど……

マーサ では何故私を試したんです！？……勘違いしないで下さいね。私はそれが嬉しかったんですから。私は……それが嬉しかったんですから。だから！あなたの死に場所は私が決めます。

カイト マーサ、もういい。お前の言葉で俺は救われた。だが俺が敗北者であり罪人だ。罪は償わなくてはならない。……そこをどけ。

マーサ ときません。

カイト どころだ。

マーサ ときません！

カイト ならば、お前が俺を殺せ！

マーサ ……そうして……。

マーサ、カイトの方を向く。マーサ、カイトの襟首を掴んで、

マーサ　そうして一人残される苦しみを私にも味わえと言うのですか!? このまま私に何も与えずいつてしまうというなら、どうかその前に教えてください。私はあなたのいない国でどう生きればいいのですか? 命をかけて守ると覚悟を決めたあなたのいない世界で私はどうすれば幸せになれるのですか? 試されたままで終わるにはあまりにも過ぎた時間が長すぎます。どうして言うてくれないんですか。俺について来いと、お前の命をかけて俺の背中を守れとどうして言うてくれないんですか!? ……死なせません。私が生きている限り絶対にあなたを死なせません。

カイト　マーサ。

マーサ　例えば行き先が地獄だったとしても、全身全霊をかけて、私があなたを守ります。

カイト　……俺の死に場所を決めてくれるのか?

マーサ　はい。

カイト　そこは?

マーサ　戦場です。

カイト　戦場。

マーサ　まだ戦争は終わっていません。戦場こそがあなたの死に場所です。

カイト　マーサ、お前は俺以上に俺を理解しているようだな。

レオ お二人で良い感じのところ申し訳ないのですが、俺達も行きますからね？

ノエル つていうか、新生第8部隊は皆ですけど。

カイト お前達……。

レオ クーデターの罪は隊長だけの罪ではありません。我々全員が背負っていくべきものです。

カイト、立ち上がる。

カイト すまないが、俺は今この場では死ねなくなつた。

大家 構いませんよ。ただ一つ忠告が。……残された時間はあまり多くないようですね。もつてあと半年。やるべき事があるなら急ぐべきでしょう。

カイト 半年か。……いや、今までの戦争が長すぎたんだ。終わりにしなくてはならない。……ユリア様、俺の弱さゆえ取り返しのつかない過ちを犯してしまいました。二度とお目にかからぬことを約束します。ただ一つ。勝手な願いを許していただけるなら、どうか……どうか良い国をお創り下さい。

サラ その願い、胸に刻みました。全ての国民の笑顔を自分の幸せとします。

マーサ それだけでは駄目です。ユリア様も笑顔でないと！

サラ 言つたでしょう？マーサのことを思い出せば、私はいつでも笑顔です。

マーサ お元気で。

サラ はい。……マーサも。

マーサ さようなら。

サラ ……さようなら。

カイト、前を向いて、

カイト 第8部隊兵士全員に告ぐ！我々はこれより敵国に入り首都を目指す！主力部隊との激しい戦闘になるだろう。だが心せよ！我々に退路はない。前進あるのみだ。自分の後ろに数千万人の大切な命があることを自覚しろ。この日、この時に命を燃やせ。戦い、前進し、そして必ず！全国民に笑顔を届けるのだ！

兵士の歓声。やがてフェードアウト。

カイト お前達には急いで救護班を送る。傷の手当をして休んでから帰るがいい。行くぞ。

カイト、下手へ行こうとする。レオ、ノエルが後ろに。

カイト レオ、ノエル。俺の後ろに立つな。

ノエル 後ろに立つなつて、隊長それはもう…。

カイト お前達は常に俺の左右に居ろ。横からの攻撃はお前達で対処するんだ。

レオ、ノエル、お互い顔を見合わせて喜び、

レオ はっ！

ノエル はい！

カイト それに……俺の背中を守るものはもう決まっているからな。

カイト、マーサの方を見て、

カイト 頼んだぞ。

マーサ ……はい！

マーサ、カイトの後ろへ。カイト、マーサ、レオ、ノエル、下手に去っていく。

源十郎 サラさん。行かせてしまつて良かったのですか？

サラ はい。お父様もお母様も分かってくれると思います。

源十郎 そうですか。

サラ 一青さん。

一青 は、はい！

サラ 来てくれてありがとうございます。嬉しかったです。

一青 何言ってるんですか！と、当然じゃないですか。

茜 当然ねえ……サラ、あのね、本当はさ、

わ————！

信彦 しかし皆さん、見事にボロボロですね。

小町 傷の具合はどうなんだい？

陣兵 血も止まったようですし、大丈夫です！

力丸 無茶したもんだな。

陣兵 それはアニキも一緒じゃないですか。

力丸 まあな。……あー流石に疲れたな。ビールで飲みてえよ。

信彦 では手当てが終わったら皆で飲みに行きますか。

陣兵 おつ、いいねえ！

小町 じゃあさ、ウチを使っておくれよ。

源十郎 ボツたくる気じゃないでしょうね？

小町 ヤボなこと言っんじゃないよ。ドーンと全品半額でどうだい！

大家 小町さん、そんな事して家賃は大丈夫なんでしょうね？

小町 え!?

茜 サラは私と一緒にこうね。

一青 待ってください！それはズルいですよ。

茜 何がズルいのよ。こういうのは女同士の方がいいんだから。

一青 いやいやいや、俺だつて一緒に行きたいんですから！

大家 と、いうより、記憶が戻った今、どうするんです？ここに残るのですか？

サラ 私は……。

大家 私は？

サラ ……私はサラです。もうしばらくは。

全員喜ぶ。

大家 そうと決まれば救護班なんて待つてられませんね。あなたの傷は私が縫つてさし上げます。

陣兵 マジか!?

一青 さあ、帰りましょう!!

全員、キャラに合つた返事を同時にする。「はい」「おう」等。

暗転。一青、信彦、源十郎を残して全員上手へはける。

3人はセンターへ。照明の後、同時に幸せそうなため息。

信彦 どうしたんだい一青君。幸せそうなため息ついちゃつて。

源十郎 この間の期末テスト。成績が良かったらしいですよ。

一青 そうなんです。点数がグリーンと上がって学年トップ10に入りました。

信彦 それは凄い!!

一青 「死ぬ気」ってやつが分かってから勉強への取り組み方も変わりましたから。

信彦 あれから3カ月か。一青君も変わったね。

一青 先生の環境も劇的に変わったじゃないですか。今じゃ6本の週間連載を抱える人気小説家ですよね？

信彦 書きたい事が多すぎるのは相変わらずなんだが……一本の作品には魂込めて集中することになっているよ。

源十郎 前の作品もあれはあれで味があつたと思いますけど。

信彦 そいう源さんは？幸せそうなため息、ついてましたよね？

源十郎 先日平和機構から連絡がありまして、昇進の話がありました。

一青 おめでとうございます!!この間の活躍が認められたんですね!!

信彦 役職が上がったりするんですか？

源十郎 断りましたけどね。

一青 どうしてですか!?

源十郎 これ以上昇進すると内勤になるんですよ。平和機構へ戻らないといけません。

信彦 内勤イヤなんですか？

源十郎 皆さんと離れるのがイヤなんです。それに自分の任務は伝説の傭兵に協力の了承を得る事ですから。中途半端な状態でここをでるわけにはいきません。

一青 でも布団たたき持った大家さん制御できますかね？あの人戦場に連れて行ったら敵味方関係

なくボコボコにする気がするんですけど。

信彦 経験者は語るってやつだな。

一青 踏みつけられたアザ今でも残ってるんですけど。

下手から大家が入って来る。

大家 何の話ですか？

3人 敬礼をして。

3人 何でもありません!!

大家 ……殺しますよ？

一青 正体知ってからそのセリフ、洒落にならなくなりましたからやめてもらえますか？

源十郎 大家さん、今日の主役はどこに？

大家 今、サラさんが呼びに行ってます。

上手から小町とサラが入って来る。サラは小町の背中を押している。サラはメイド服から最初の衣装に着替えている。

小町 サラちゃん、ちよつと待っておくれよ。私しや、仕事終わってから4時間しか寝てないんだよ？
サラ ダメです。今日の主役なんですから。

小町 そうは言ったって眠いもんは仕方ないだろ？このままサラちゃんに寄つかかつて寝たりして。ガ
ー。

サラ 時間になりました。起きないと殺しますよ？いいんですね？殺しますよ？3、2、1…………。
小町 起きる。起きる。起きる。

小町、慌ててサラから離れる。

大家 小町さん普段着じゃないですか。

小町 えー別に構わないだろ？

源十郎 まあママさんらしいと言えらしいですけど……相手がどう思うかは微妙ですかね。

小町 え？

源十郎 気持ちを疑われてもしようがないかもしれませんがんよ？

小町 そんなもんかい？ちよつと急いで着替えてくるよ。

一青 あ、でも来ちゃいましたね。

下手より陣兵と力丸、茜が入って来る。陣兵はタキシード。

陣兵、茜と力丸の方を振り返り。

陣兵　今までありがとうございます。半端モンの自分をここまで育てて頂き、本当に感謝しています。

茜　うん！お疲れ！！しっかりやるんだよ！！
陣兵　はい。お嬢、自分頑張るっす！！

力丸、何も言わず陣兵と肩を組み、小町の元へ。小町におじぎ。

力丸　小町さん。こいつの事受け入れてやって下さりありがとうございます。陣兵は今をもってヤクザの世界から足を洗いました。

小町　え？そうなのかい？

陣兵　自分は別にいやなんでしょうか？って言うたんですけどね。

力丸　バカ野郎！！ヤクザはどんなに格好つけても所詮ヤクザなんだよ！！ちゃんと女守りたいなら力タギになるんだ。

陣兵　……はい。

力丸　こいつはね、グズでノロマでマヌケなどーしよもない奴ですが。

力丸、一瞬陣兵を見て、

カ丸　グズでノロマでマヌケなどーしよもない奴なんです。

陣兵　フォロー!! 1つくらいフォロー!!

カ丸　しかも関西出身のクセに突っ込みが上手くないんです。

小町　はあ……。

カ丸　でも尽くす奴ですよ。それは保証します。ですからどうか陣兵のこと宜しくお願いします。

小町　結婚するかまでは分からないよ? とりあえずしばらく一緒に暮らしてみても、それから判断するさ。

カ丸　充分です。お前もそれでいいんだな?

陣兵　はい。よろしゅうお願いします!!

茜　うーん、めでたい!! よし、飲もう!! 買ってきてあるから。サラ手伝って!!

サラ　はい。

茜とサラ、下手に去る。

カ丸　で、例の件。平和機構から何か連絡はありましたか?

源十郎　……第8部隊のその後、ですか?

カ丸　ああ。

源十郎　敵国へ入った第8部隊は壮絶な戦闘を繰り広げたらしいです。2か月かけて首都を制圧したそ

うです。

信彦 生存者は？

源十郎 それが……驚く事に、戦死者はゼロとのことですよ。

信彦 ゼロ!? いやあノエルさんも。

源十郎 無事、母国へ戻っています。ただ……。

大家 ただ？

源十郎 行方不明者が2人。

大家 2人……。

源十郎 全ての戦場で前を走っていた者と、その背中を守る者が首都制圧の直前姿を消したようです。

一青 その事サウさんは？

源十郎 お伝えしました。……両国では近く和平協定が結ばれるとの事です。

一青 じゃあ!!……だから？

源十郎 はい。

小町 そんな顔するんじゃないよ。男だろ？

一青 ……分かってます。

茜とサラが手に買い物袋を持って入って来る。真ん中に置いて、それぞれが飲み物を手にして宴会が始まる。

茜 それじゃー陣兵と小町さんのこれからの未来に!!
全員 乾杯!!

全員乾杯して拍手。陣兵、小町お礼。

茜 で、陣兵はヤクザやめてどうするの？

陣兵 しばらくは小町さんの店で用心棒兼料理人やらしてもらいます。

源十郎 料理出来るんですか？

力丸 こう見えてコイツ、ヤクザの世界に入る前はコックだったんですよ。

茜 結構美味しいよね。

陣兵 ありがとうございます。

信彦 「ちよっとだけよ」も増々栄えるんじゃないですか？

茜 また皆で行こうよ。茜、あのお店好き。

力丸 しかし、我々のような者が出入りするのも…。

小町 何言ってるんだい。毎日でも来て売上に協力しておくれ。

茜 うん!!

陣兵 っつかし、ちよっと前までは地上げで対立してたのにまさか一緒に飲むようになるなんて思いま
せんでしたよ。

一青 これもサラさんのおかげですね!!

サラ 私ですか？

一青 サラさんが僕達をつないでくれたんですよ!!

茜 そーそー!! サラがいてくれたから九頭龍ランドの必要がなくなったんだし!! ね、また遊びに行こ? 今度は遊園地!!

サラ え、……………はい……………。

茜 いつでもいいからさ。

サラ え?

茜 いつか必ず。

サラ 茜?

一瞬シーンとなる。

信彦 そういえば!!……………大家さんが警察嫌いなのでって傭兵やってた事と何か関係があるんですか?

大家 ええ、まあ……………。

一青 どんな事が?

大家 傭兵を引退して日本に帰って来たんですが、外出する度に警察から職務質問受けたんです。見回りの警察とすれ違う度に。交番の前を通る度に。

小町 そ、それは嫌すぎる。

大家 今思えば殺気がただ漏れていたのでしょう。いー加減イライラして警官を殴りそうにな

たまたま近くにいたおジイさんが止めてくれたのですが、それが地主さんでした。

源十郎 その地主さん実は有名な殺し屋だったとか!?

大家 いえ、ただのジジイです。

陣兵 伝説の傭兵か……。その名に恥じない強さでしたね。向こうの親玉ボロボロでしたから。

小町、陣兵」をヒジでつつき、サラに氣遣うよう促す。

陣兵 あ、すんません……。

一瞬、シーンとする。

茜 あ、ねえねえ!!あの時歌ってた歌、あれって何?茜も思わず合わせたけど。

信彦 あの歌はこのアパートの住人を応援するテーマソングです。

茜 皆で歌ったら元気でたよね!!歌お歌お!!

源十郎 ーですね!!でも誰を応援するんですか?

一青 サラさんを!!

サラ 私ですか?

一青 サラさんはいつも俺達の為に頑張ってくれてますから!!感謝を込めて!!

サラ ……はい、ありがとうございます。

大家 それではいきます。ファイト。

一青 大家さん!!

大家 そんな青すじ立てて怒ることないじゃないですか。冗談です。

小町 それじゃいいかい、腹から声だしていくよ!!

全員 はい!!

小町 ファイトゝ!!

全員 ファイトゝ!!

小町 ファイトゝ!!

全員 ファイトゝ!!……ファイトゝ!! 戦う君の歌を……。

歌い終わった後盛り上がる。全員がそれぞれ思い思いに話す。

時計の音フェードイン。時計の音とは逆に全員の声、フェードアウト。

サラ以外一人一人眠っていく。照明除々に暗く。サラにのみ明かり。

時計の音もフェードアウト。サラ全員の顔をしばらく見た後、下手を振り返り去ろうとする。

大家 行くんですか？

大家の声に驚くサラ。振り返る。照明。全員が並んでいる。

サラ 皆さん……どうして？

源十郎 すみません、サラさん。やはり自分黙っているなんて出来ませんでした。

サラ 源十郎さん……。

大家 平和機構経由でお礼金を渡すつもりだったのでしょうか？ 私達はそんなもの求めてませんが。

小町 まあ何より、最近のサラちゃん見てれば分かったけどね。ああ、お別れが近いんだなって。

信彦 何も言わずに去ろうとしたのは我々の性格を考えての事ですか？

源十郎 皆さんなら一緒に行くと言い出しかねないですからね。

大家 でも、やはり自分の国の事は自分達で何とかしないと。

サラ はい。

小町 だったらさ、ちゃんとサヨナラしようじゃないか。

一青 一生会えないわけじゃないですけどね。

サラ はい。

大家 ではまず私から。

大家、サラの前に来る。

大家 サラさん。

サラ はい。

大家 短い間ではありましたがお疲れ様でした。サラさんはとてもとても優秀な使用人でした

サラ　いろいろ教えて頂きありがとうございます。

大家　すっかり樂することに慣れてしまいましたからね。明日からの雑務に気が滅入っている所です。

サラ　どなたか新しい人を雇わないんですか？

大家　そうですね……やめときます。

サラ　どうしてですか？

大家　どんなに良い人が来たとしても、きっとサラさんと比べてしまうでしょうから。

サラ　大家さん。

大家　それともう一つ。

サラ　はい。

大家　自分の国の事は自分達で解決するのが一番ですが、どうしても力が及ばない時は平和機構に連絡して下さい。

源十郎　え？

大家　サラさんからの要望があつた時のみ伝説の傭兵が力を貸す事でしょう。

源十郎　マジですか！！

大家　ここまで頑張られたら源十郎さんの話にのらないわけにはいきません。

源十郎　ありがとうございます！！……良かった……自分何かをやりとげたのは初めてです。

力丸　そういう事なら、その時はこっちにも連絡を頂きたいものですね。九頭龍組の戦力だつてなかなかのものですよ？

陣兵　その時は期間限定で組に復活するっす!!
サラ　力丸さん……陣兵さん。

大家下がる。小町、信彦が前へ。

信彦　もしかしたらサラさんに一番お世話になったのって僕かもしれないですね。

サラ　たくさんお仕事を頂きました。

信彦　モーニングコールやお茶入れ。夕飯の用意や買い出し。本当に助かりました。大家さんじゃない

ですけど、明日からどうしようって感じです。

サラ　信彦さんは元々しつかりした方じゃないですか。私に仕事を依頼する為に自分で出来ることを

やらなかっただけですよね？

信彦　の、はずだったんですけどね。すっかり怠け癖がついてしまいました。

サラ　コンビニのお弁当ばかりは駄目ですからね。

信彦　気をつけます。

小町　サラちゃん……行っちゃうんだねえ。

サラ　小町さん。勝手なお話で申し訳ないんですけど、小町さんの中にお母様を見えていました。優し

くて面倒みが良くて、たくましくて。私小町さん大好きでした。

小町　ちよつとやめとくれそんなセリフ。精一杯我慢してるんだからさ。

信彦　お別れの時に涙は見せたくないらしいです。サラさんとは笑っていたいって。

サラ はい。泣きません!!

小町 私だって泣かないよ。自分のお家に帰る。めでたい事じゃないか。めでたい事に泣くなんておかしいだろ？

サラ 小町さん。飲みすぎに注意して下さいね。

小町 心配なのはサラちゃんの方さ。戦争が終わったってまだまだやっかいな事は山ほどあるんだろ？……あまり無理するんじゃないよ？いいね？

サラ はい。

小町 ツラくなったらいつでも帰って来ていいから。

サラ はい。

信彦 国に帰ってどんな事があつたとしてもこれだけは覚えておいて下さい。僕達はいっだってサラさんの味方だということ。

サラ はい。覚えておきます。

小町、信彦、後ろへ下がる。茜がサラの前へ。

茜 行っちゃうんだ。

サラ すみません。

茜 さっきだってまた一緒に遊ぼうねって約束したのに。
サラ すみません。

茜 じゃあさ!! 私がサラの国に行く!!

サラ それは駄目です。

茜 どうして!?

サラ 戦争が終わったとはいえ、私の国はまだ治安が良くありません。茜が来るのは危険です。私が

必ず日本に來ますから。

茜 いつ!?! どれだけ待てばまたサラに会えるの!?

サラ ……すみません。

茜 全つ然分かんない!! このまま日本にいれば楽しいしさ!! 遊びにだつて行けるし、わざわざ危な

い国に帰ることなんかないじゃない!!

サラ そうですね。でも、私は王女だから。茜なら分かってくれますよね?

茜 分かんないって言ってるの!!

サラ カイトに政治というものがどういふものかお話してくれた茜」なら分かるはずで。

茜 ……どうしても行くんだ。

サラ はい。

茜、サラの顔をジッと見た後サラに背を向けて、

茜 あーそう!! もういいわよ!! 遊園地は他の人と行くから!! ジェットコースターとか観覧車とか

乗って思いつき遊ぶんだから!! サラがやっぱり一緒に行けば良かったって後悔するぐらい楽

サラ

しんでやる!!それで、その人と凄く仲良くなつてサラの事なんか忘れるんだから!!
……後悔はすると思います。私もたくさん茜と遊びたかったから。でも、自分の選んだ道だから我慢します。でも一つだけワガママを聞いてもらえますか?……忘れないで下さい。私、茜に忘れられたくありません。どうかお願いします。私の事忘れないで下さい。

茜、サラの言葉にゆっくり振り向き、サラに抱きつく。

茜

ゴメン。意地悪言つた。嘘だから。忘れないから。

サラ

良かった。

茜

また会えるもんね。

サラ

はい。

茜

映画見に行きたいな。

サラ

帰りは一緒にお茶するんです。

茜

ケーキをシェアしたり。

サラ

ガールズトークも。

茜

楽しみだね。

サラ

楽しみです。

茜

待ってる。

サラ

はい。

茜 約束。
サラ 約束。

茜、サラと指切りをする。

サラ 茜!!

茜 おう!!サラ!!

サラ おう!!

2人、テへと笑う。茜、後方へ。全員が一青を見る。

小町 ホラ、一青ちゃん。アンタの番だよ。

一青、サラの前へ。なかなかしゃべれない一青。

信彦 一青君。男だろ。

源十郎 一青君頑張って!!

一青、ゆっくり。ポケットからお守りを取り出す。

一青 これ、お守りです。この間の日曜に買ってきました。

サラ たくさんありますね。

一青 心願成就や無病息災。交通安全や開運厄除。一通りそろえたつもりです。

サラ ありがとうございます。

一青 俺はまだ子供だし、力もないから神様に頼るしかありません。悔しいけど今はまだ弱いから。

サラ 一青さん……。

一青 すみません。情けなくて。

サラ 一青さんは弱くなんかありません。自分と向き合う強さを持っています。何より助けに来てくれたじゃないですか。格好良かったですよ？

一青 ありがとうございます。でもやっぱり俺はまだ何者でもないんです。人として、男として俺はただ何者でもないんです。

一青、下を向き黙る。やがて意を決してサラを見る。

一青 サラさん聞いて下さい!!
サラ はい。

一青 俺、夢が出来ました!!

サラ ……どんな夢ですか？

一青 弁護士になります!!俺バカだからもつと勉強して頑張らなとなれないけど、絶対弁護士に

なります!!サラさんが困った時に力になれるように国際弁護士になります!!それが俺の夢です!!必ず、絶対弁護士になります!!

サラ 素敵な夢ですね。一青さんが力を貸してくれるなら心強いです。

一青 頑張ります!!

サラ 私も頑張ります。

一青、サラを見る。何か「言いかけてやめる。後方へ。サラ、全員一人一人を見つめた後。

サラ 私はなんて幸せ者なんだろうと思います。サラという名前を頂いて、2つの人生を歩む事が出

来ました。優しく温かい皆さんとの時間は本当に「特別な時間でした。皆さんに会えて良かったです。帰って来ますから。必ず帰って来ますから、サラの人生をしばらく預かっておいて下さい。

大家 新しいメイド服用意しておきますね。

サラ はい!!皆さん。本当にありがとうございます。たくさん、たくさんありがとうございます。

サラ、深々とおじぎ。頭を上げ皆を見る。

サラ 行ってきます。

サラ、振り返り前を向いて下手へ去って行く。全員、舞台前方へ視線をうつす。

小町 行っちまったねえ。

信彦 一回も振り返りませんでしたね。

源十郎 それだけ覚悟をしてるって事ですよ。

大家 そうですね。

小町 一青ちゃん。あんだけの言葉で良かったのかい？

一青 ……大丈夫です。続きはもともと自分に自信が持てるようになってからです。

力丸 根性つけにウチの組に来るか？

一青 よして下さい!!

茜 いいわね。まずは私のペットにしてあげる。

一青 せめて人間扱いして下さいよ!!

陣兵 なかなか賑やかな生活になりそうですね。

小町 でも嫌いじゃないだろ？

陣兵 はい。

全員、前方を見る。

大家 行ってしまいましたね。

源十郎 正直寂しいです。

信彦 心にホッカリ穴があいたような感じって「うつうつ」となんでしょうね。

茜 でも……あ、あれ？

全員、前方からゆっくり合わせて下手に視線をうつす。下手からサラが入って来る。

一青 サラさん。ど、どうしたんですか？

サラ ああ、言いにくいんですけど……。

全員、シーン。

サラ どなたか電車賃貸して頂けますか？

全員ズルツ。それぞれがそれぞれの言葉でサラの元へ。センターに連れて来て笑い合う。

幕